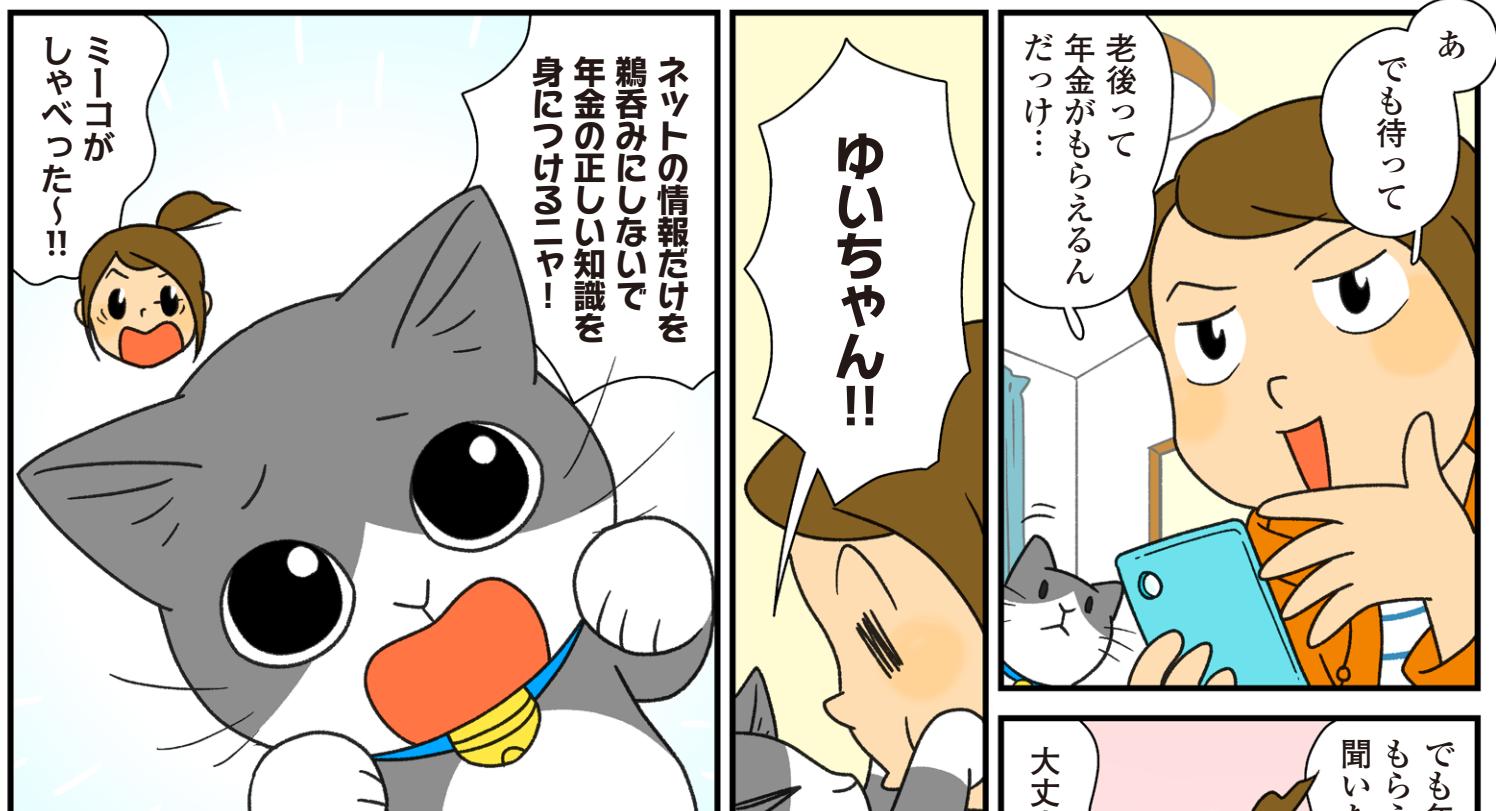


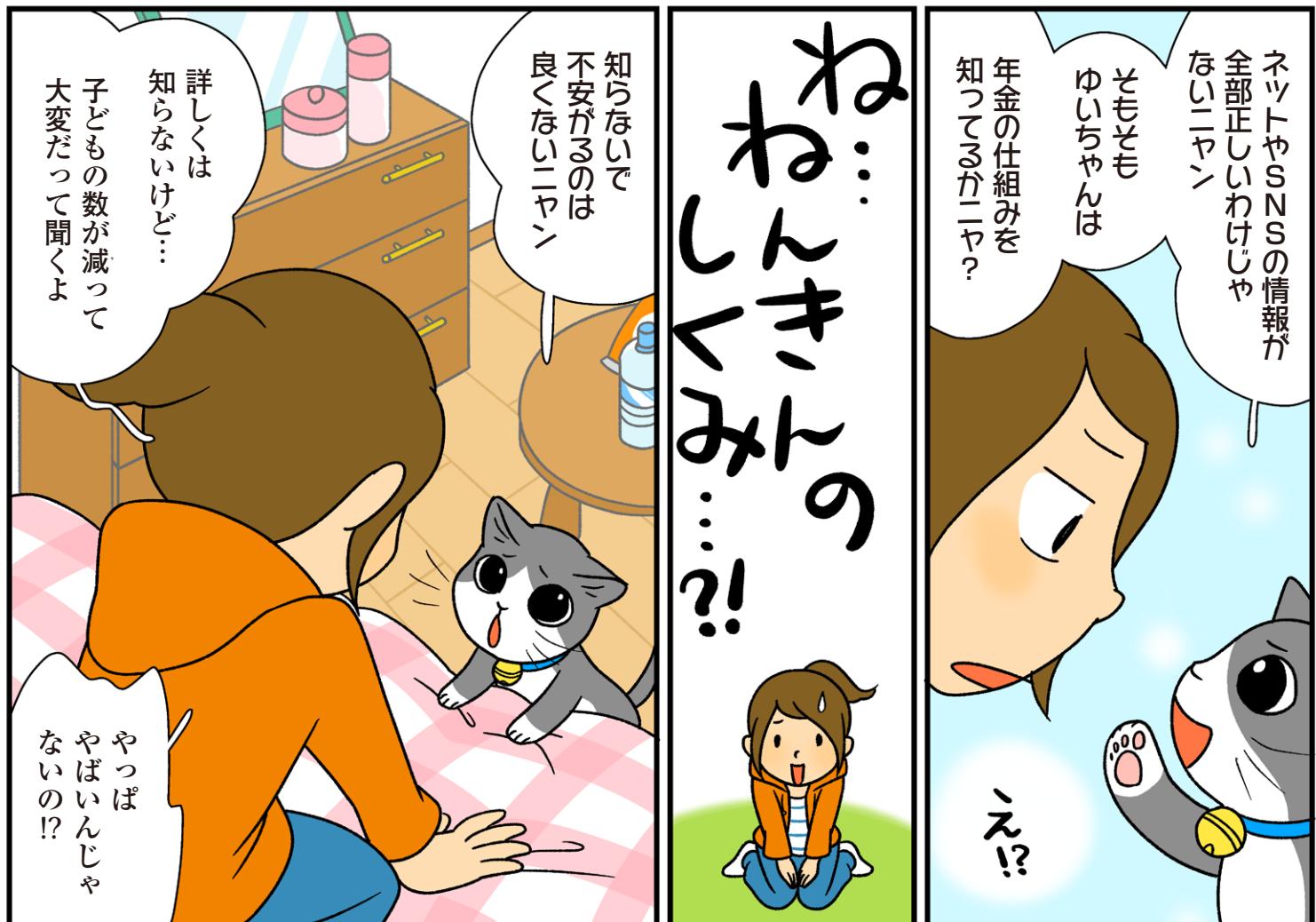
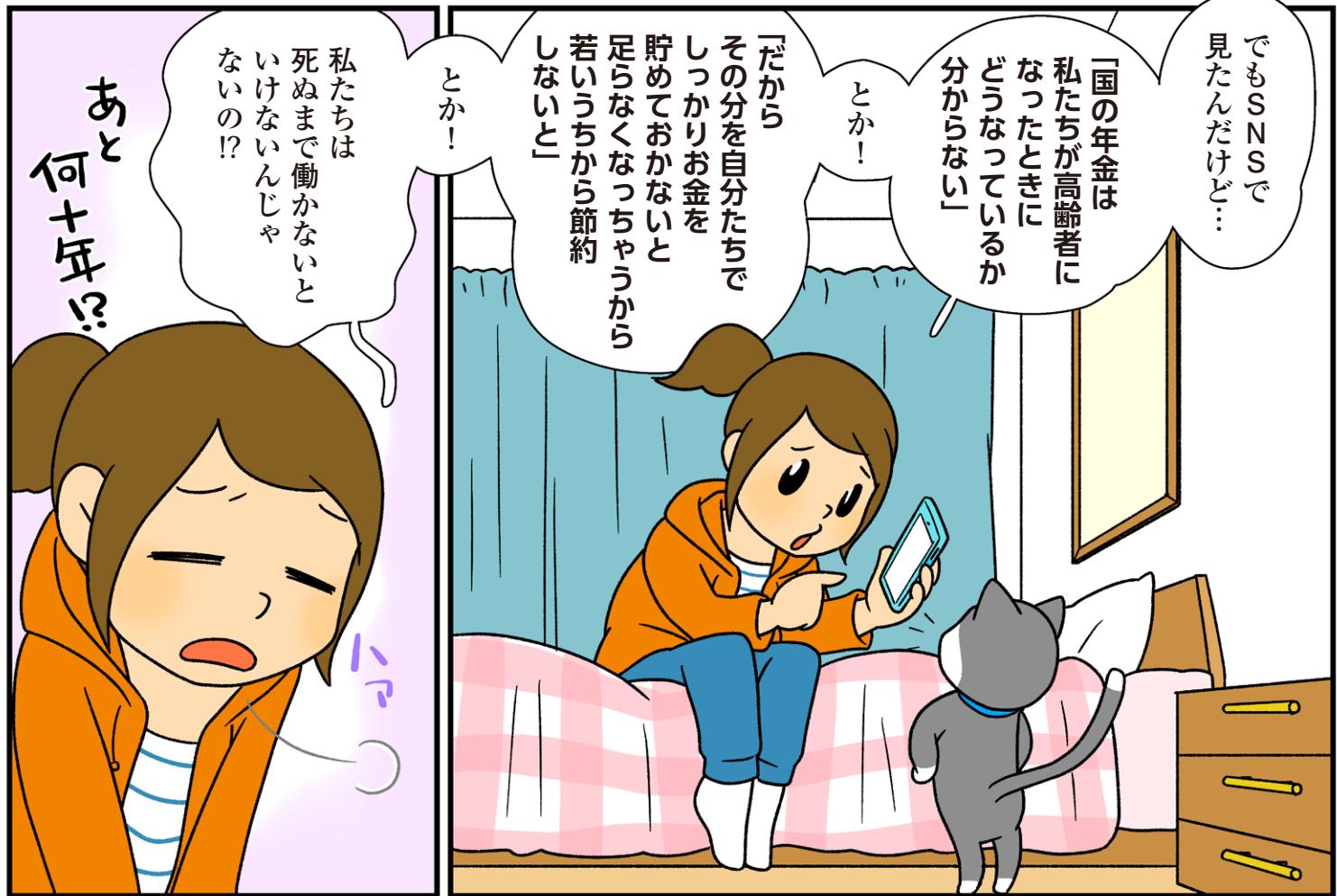


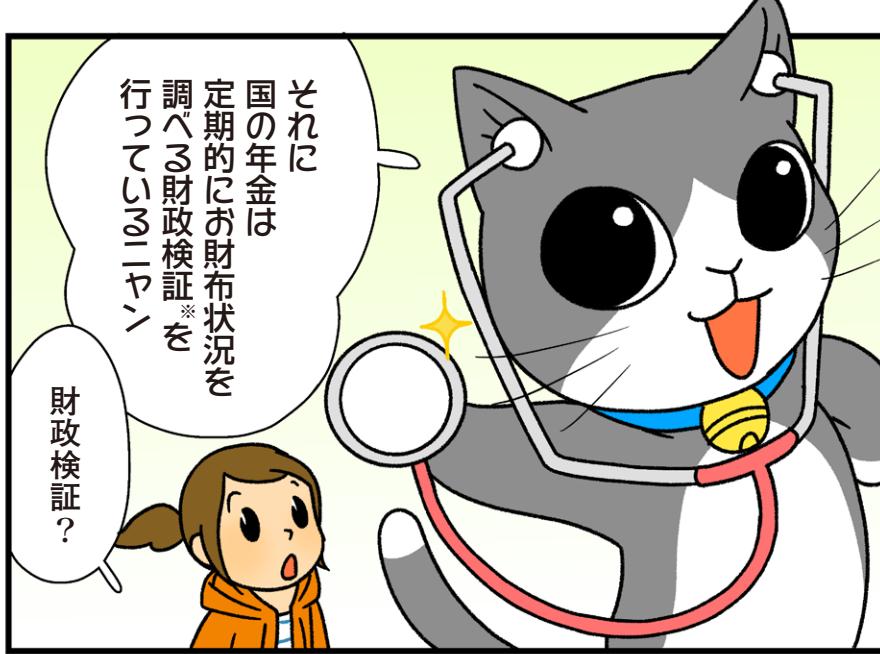
Q.01

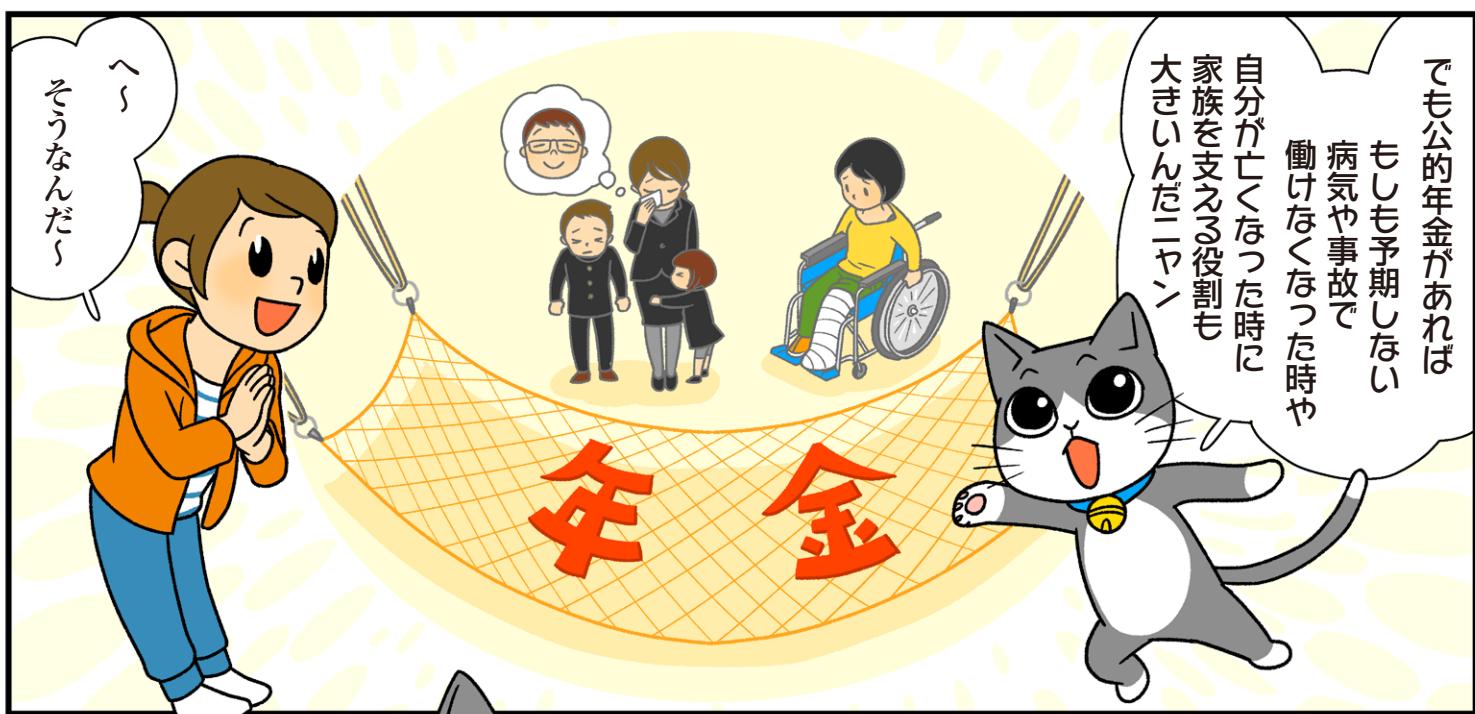
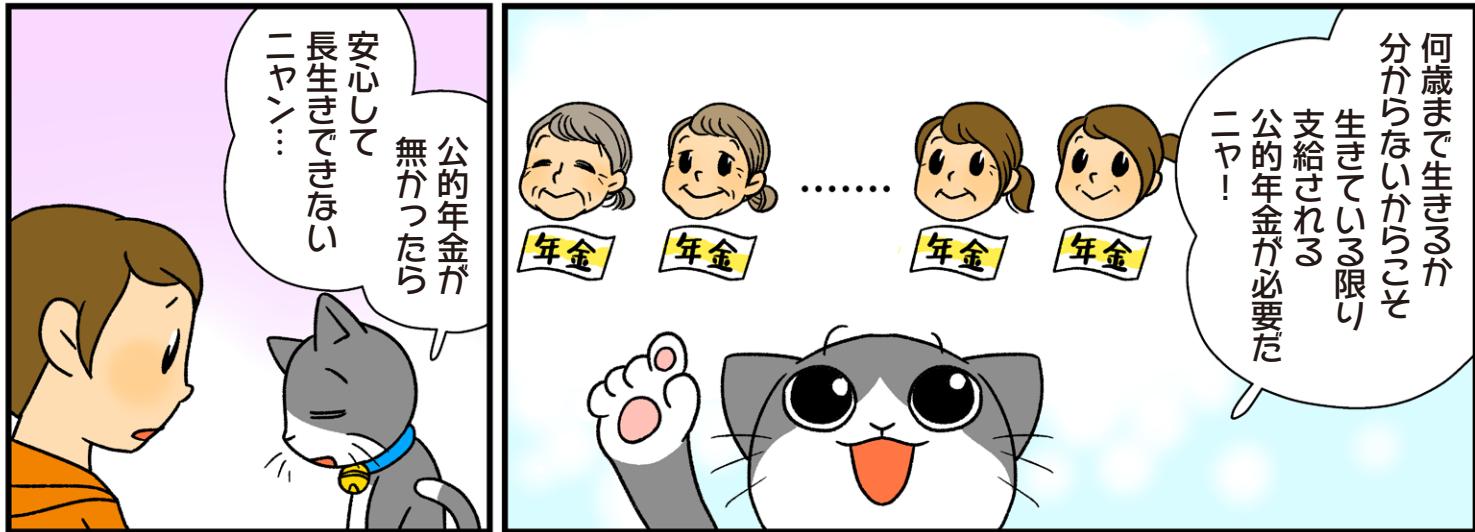
老後は、すべて自分で備えなければ いけないの？











A.01

「公的年金」があることをまず意識しよう。「公的年金」なら予測できない将来のリスクに対して、社会全体であらかじめ備えて保障してくれる。

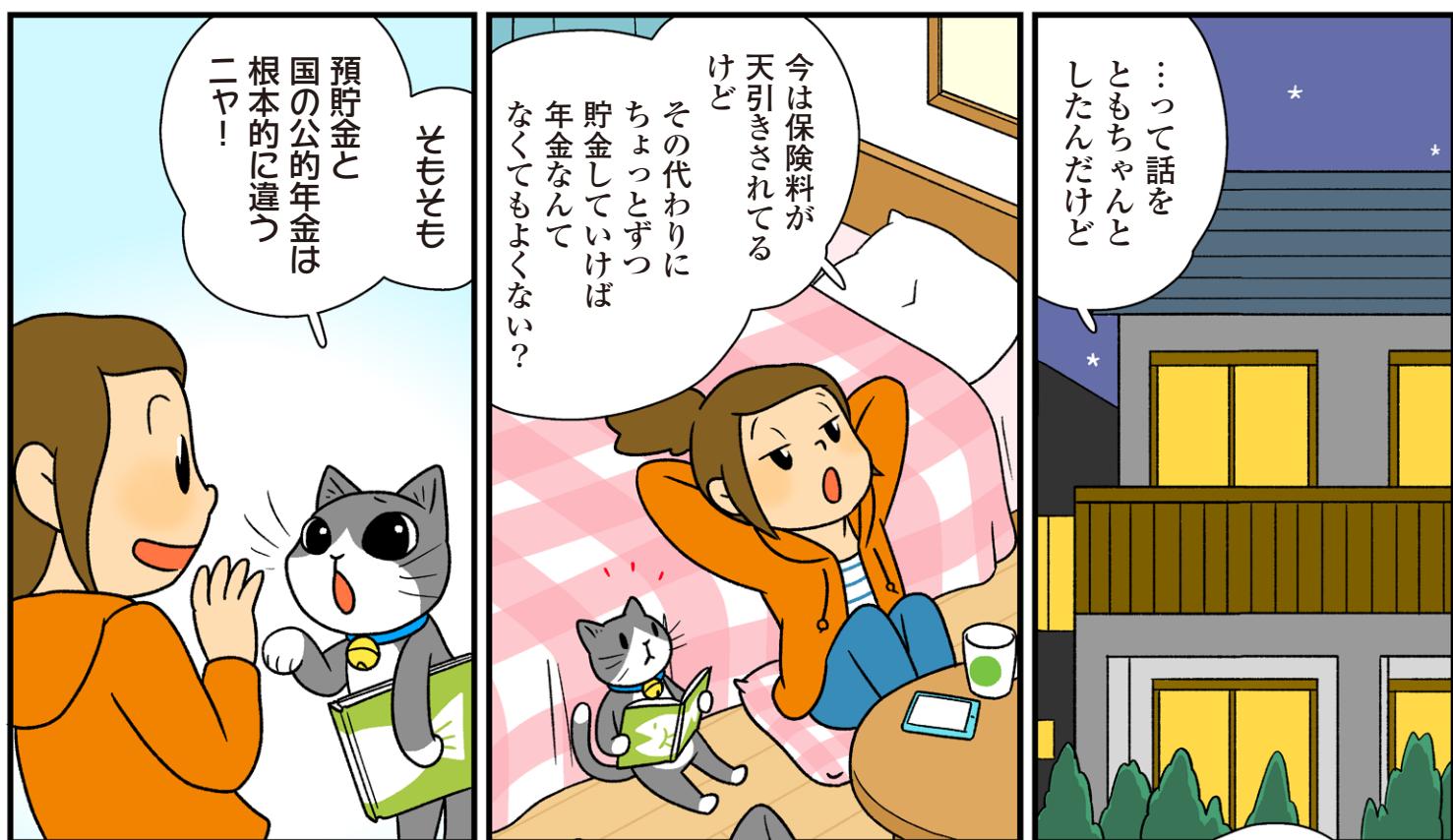


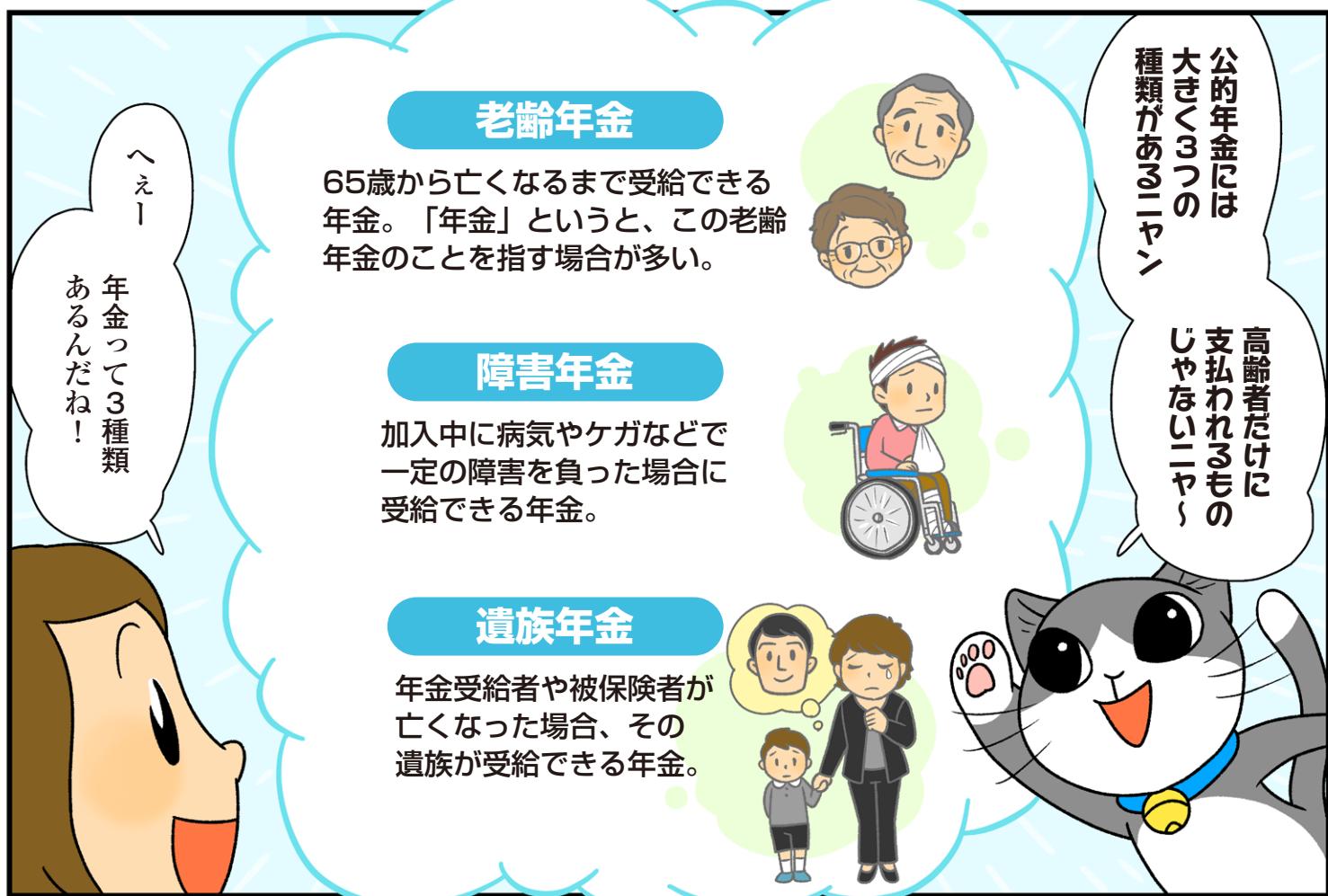
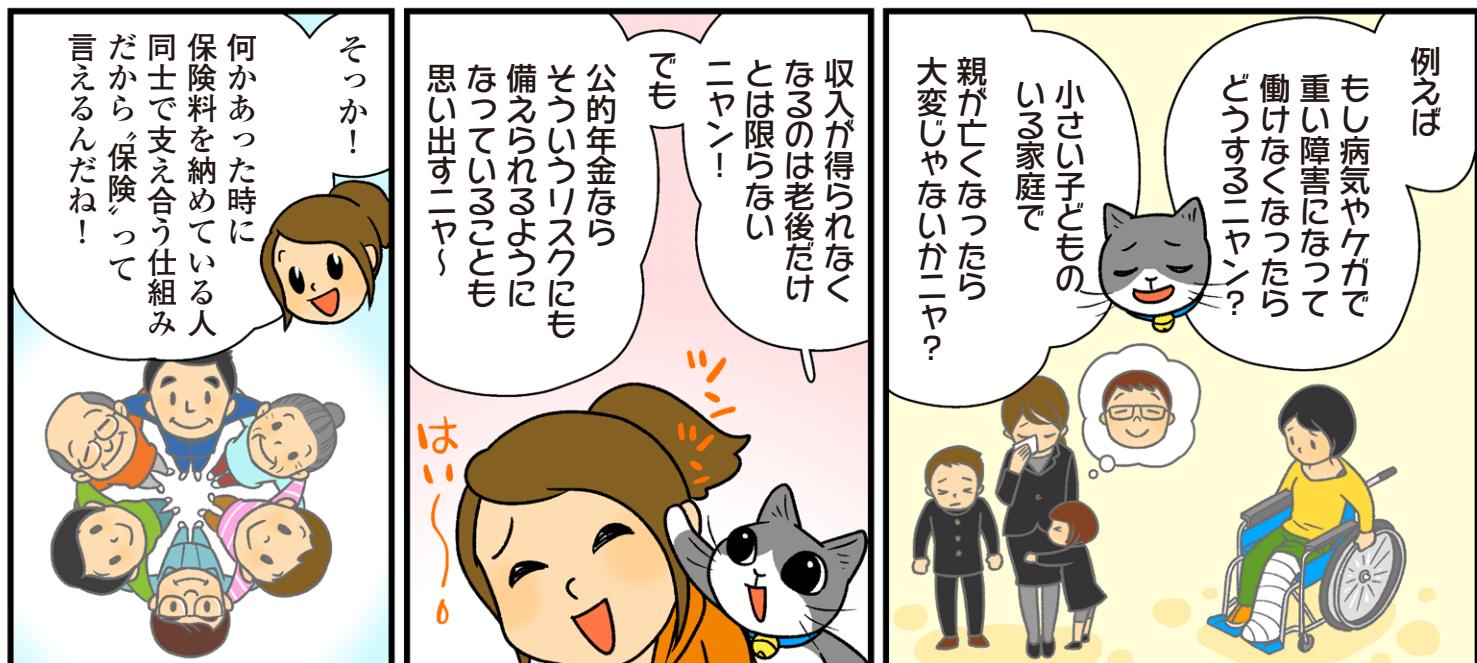


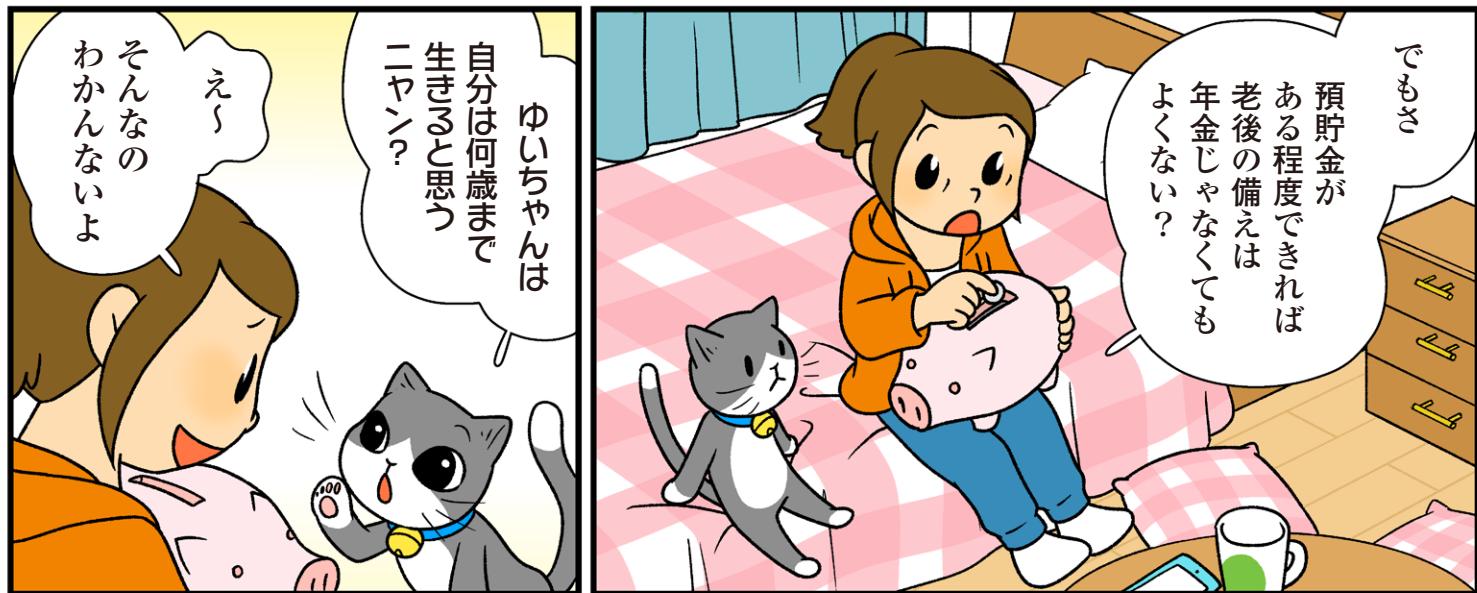
Q.02

年金は老後のためっていうけど、貯金しておけばいいよね？

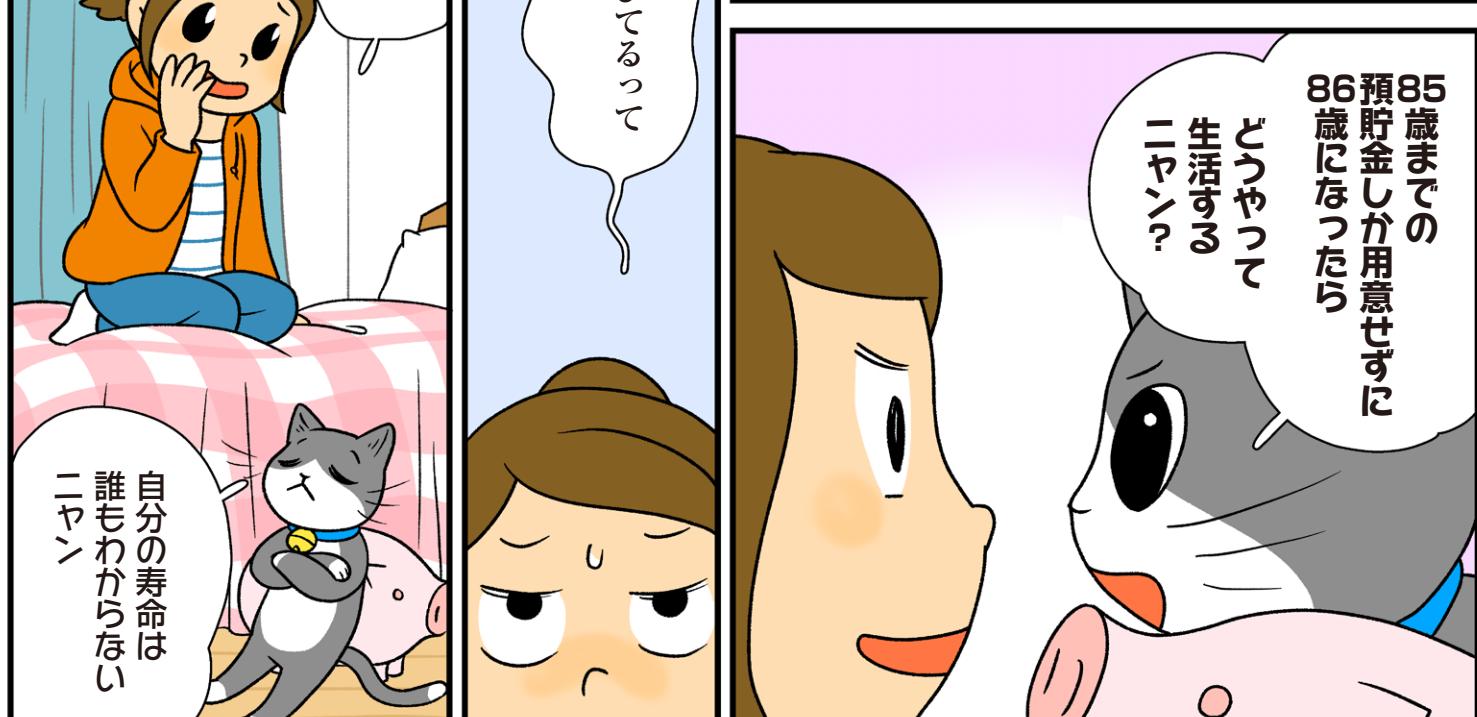


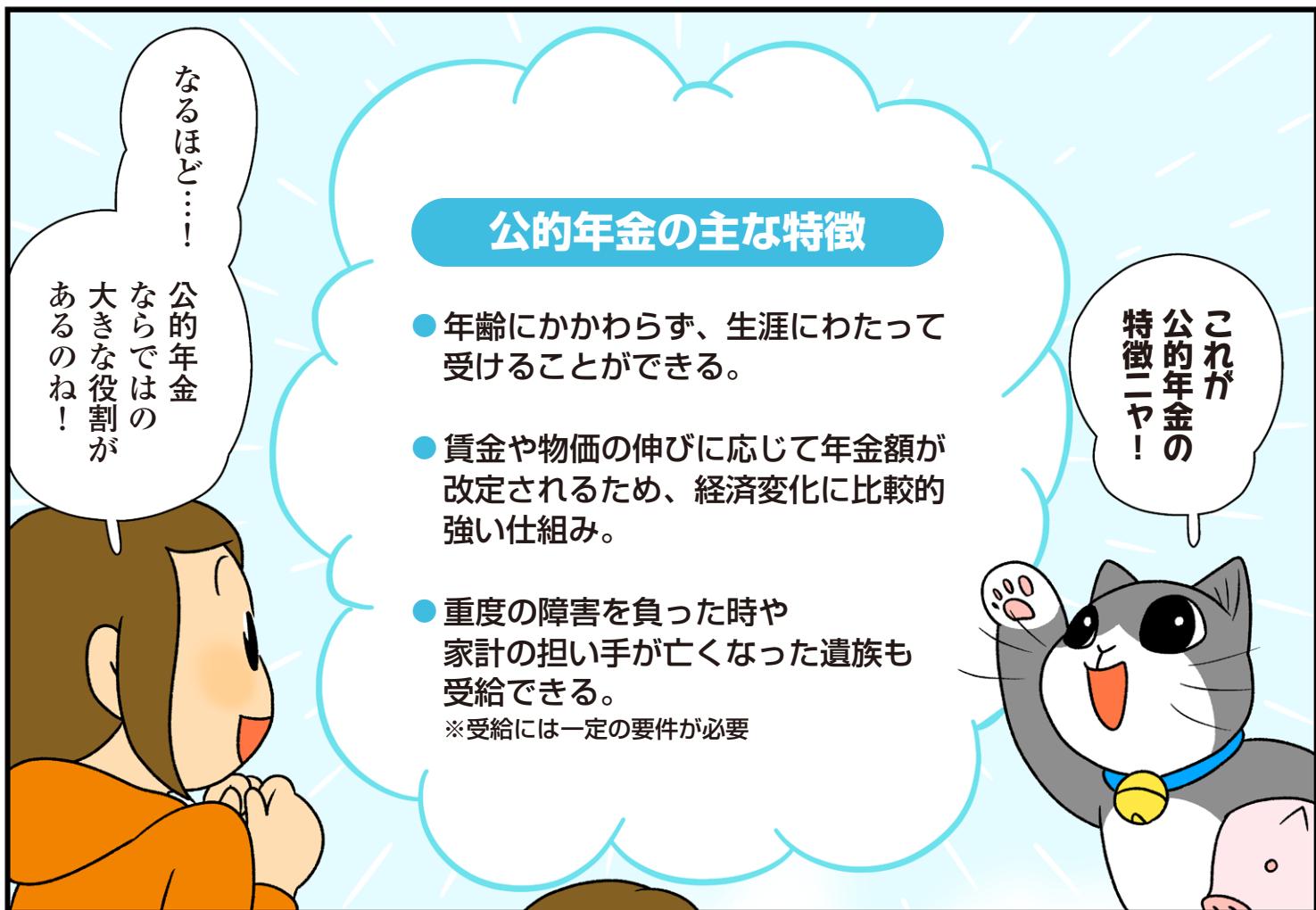


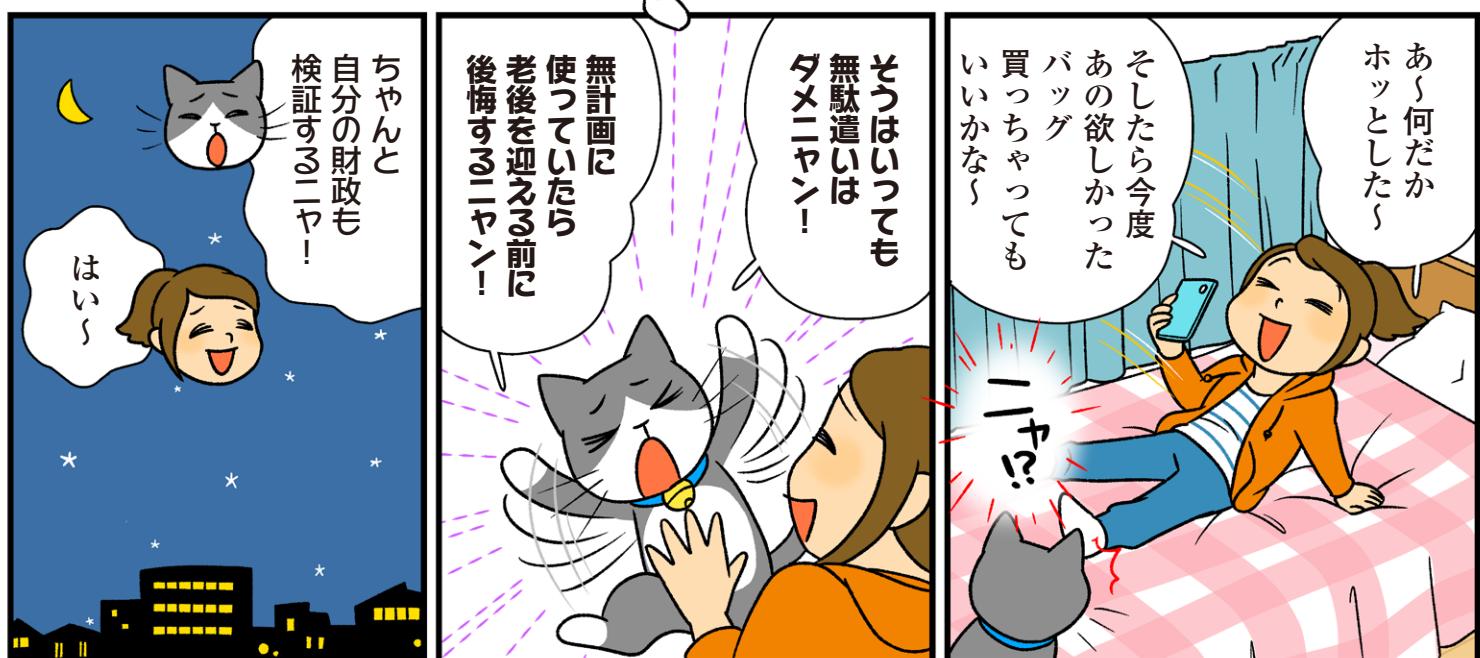




でもさ、預貯金がある程度できれば老後の備えは年金じゃなくてもよくない?







A.02

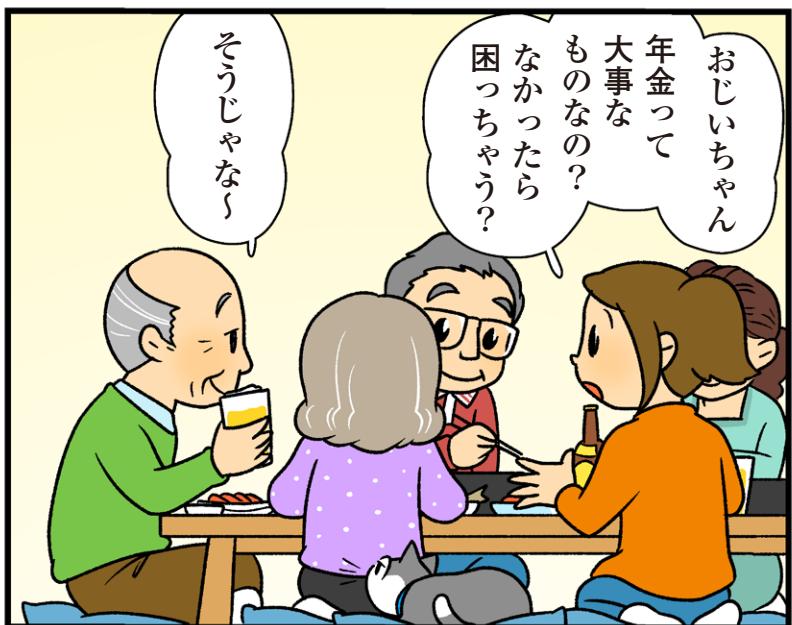
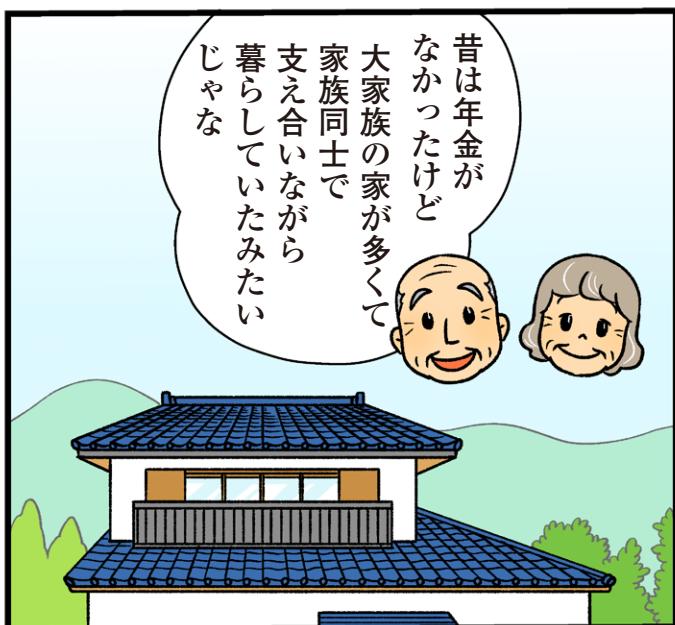
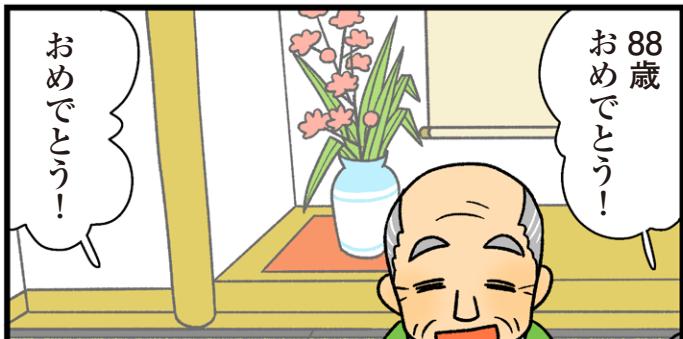
公的年金は預貯金ではなく、リスク（不確実性）に備えるための保険。預貯金だけでは想定外の出来事に対応するのは難しい。

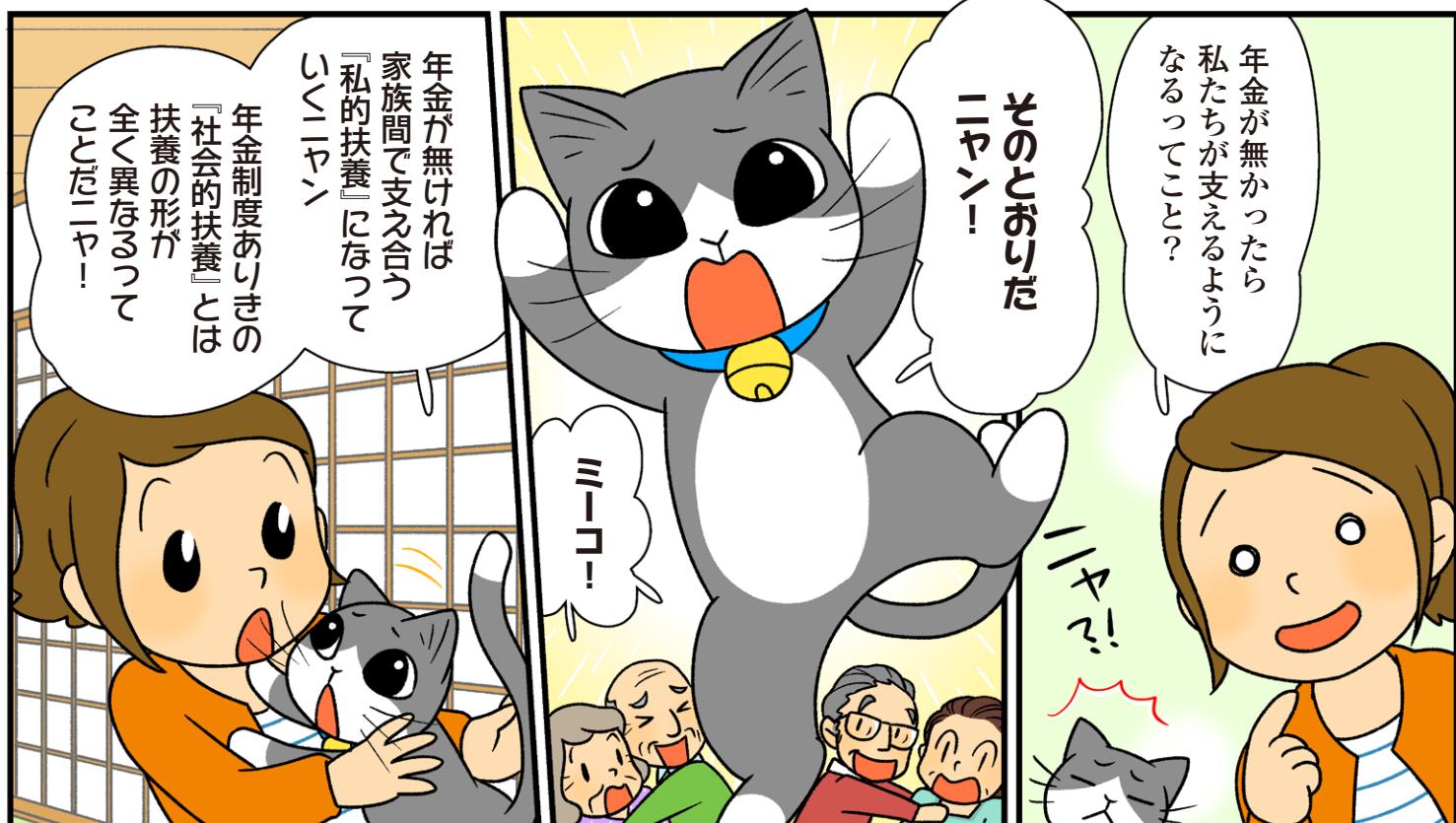
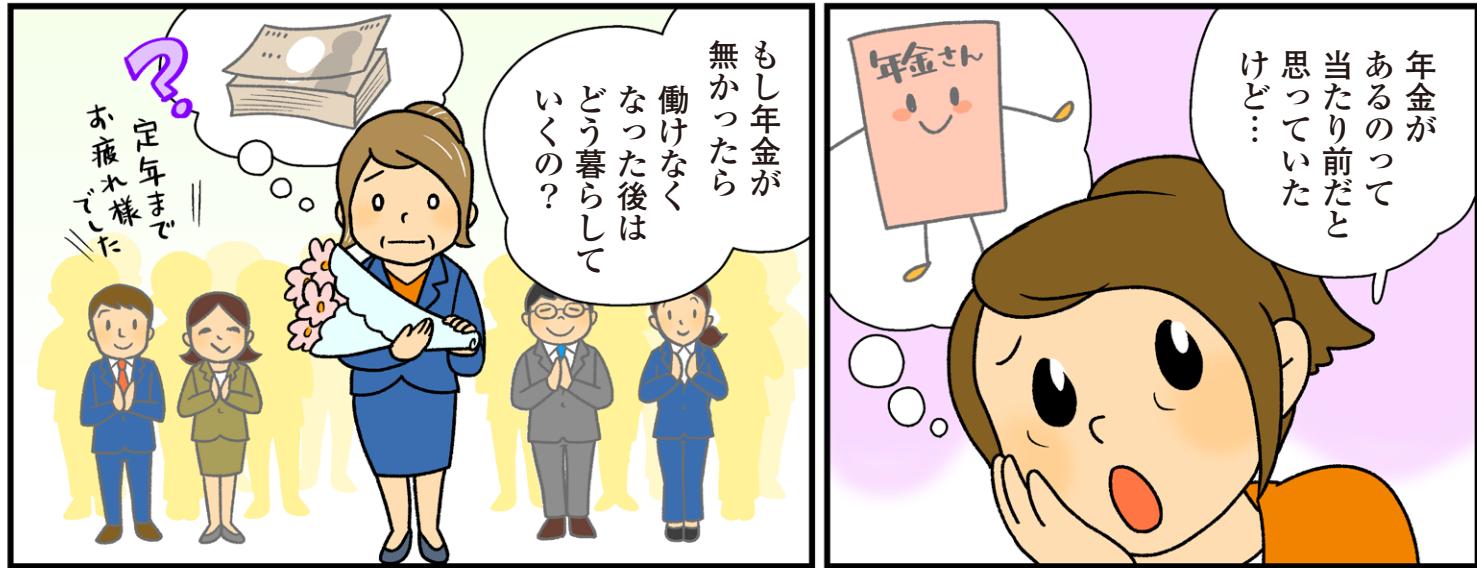


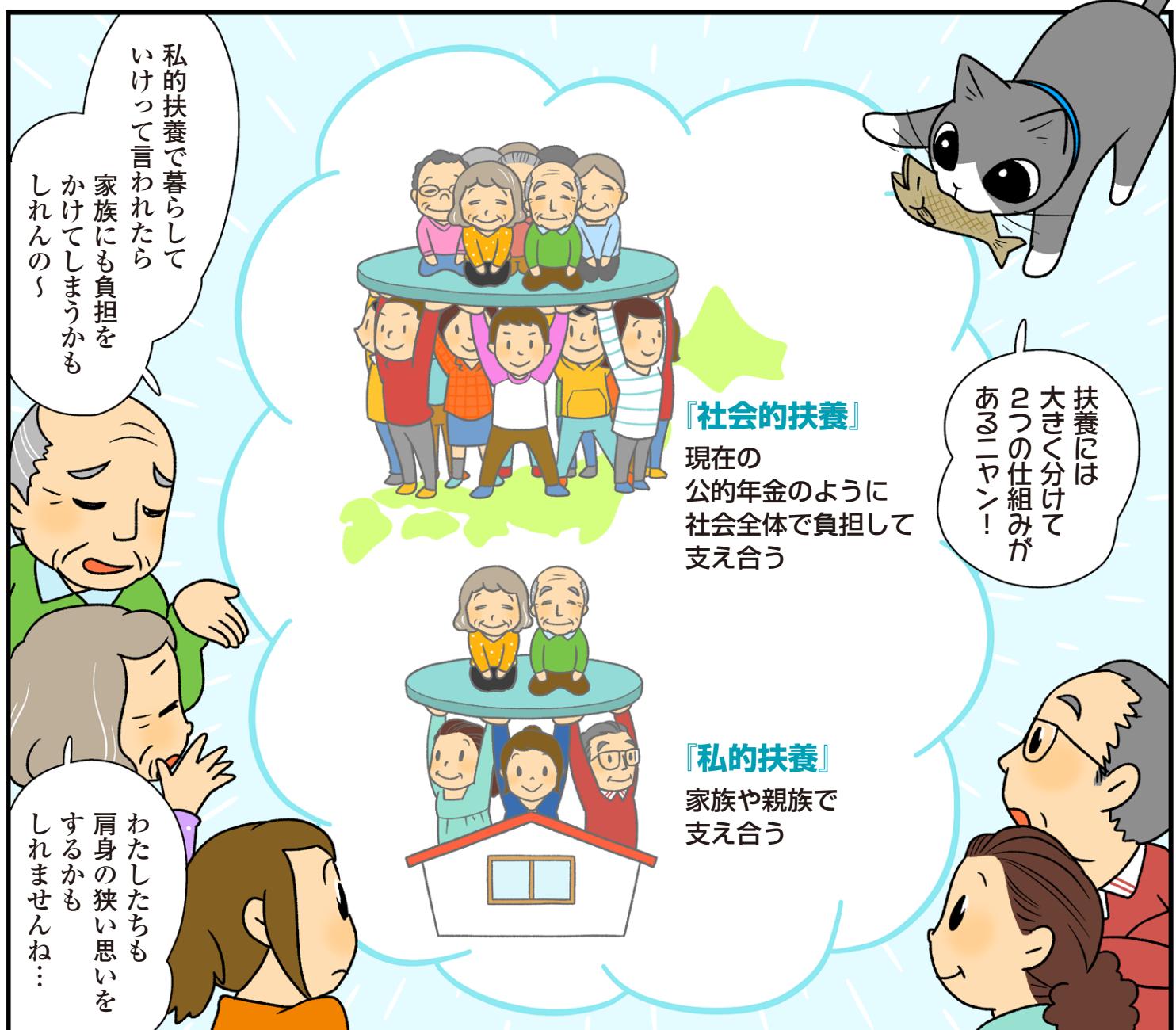
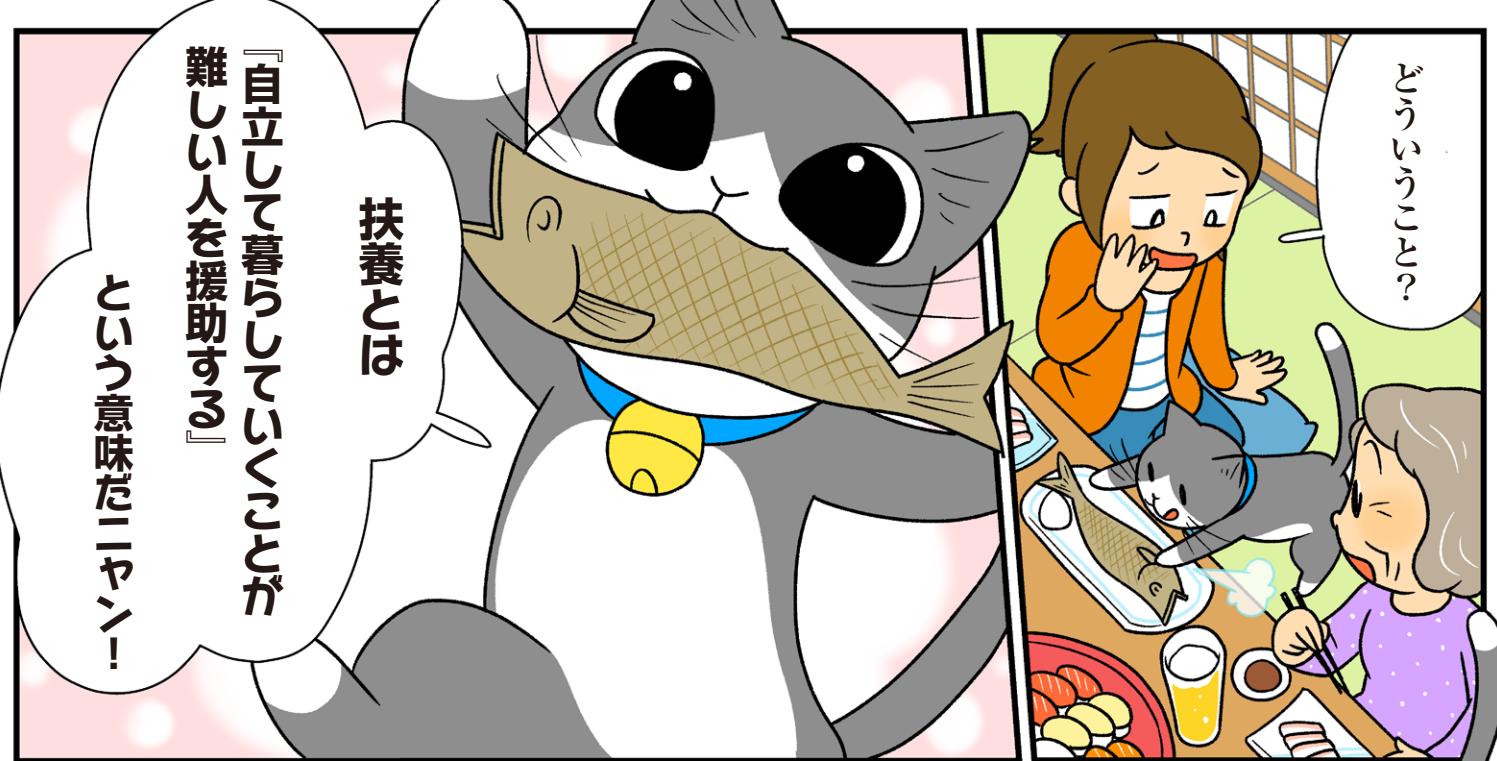


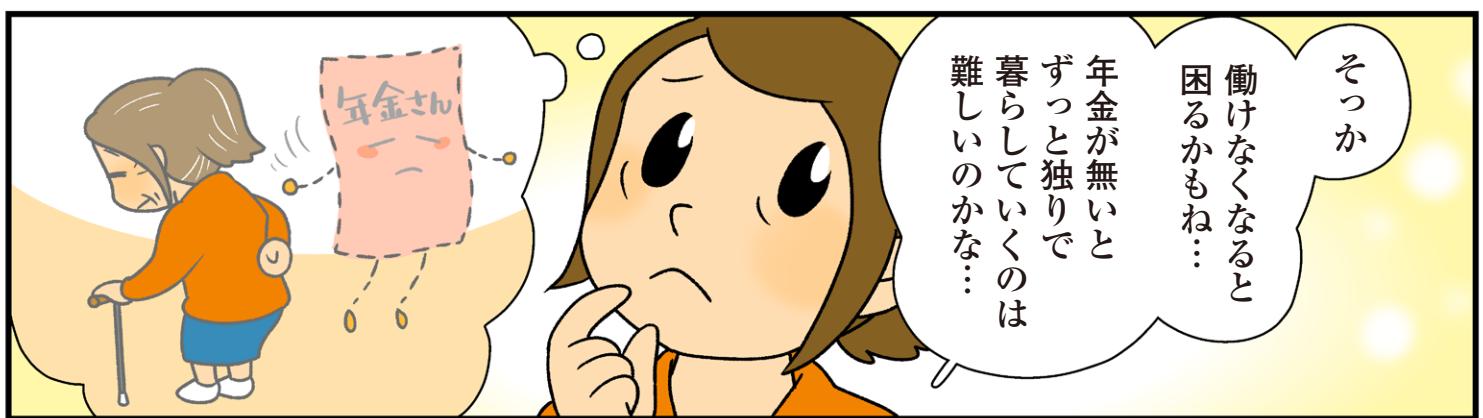
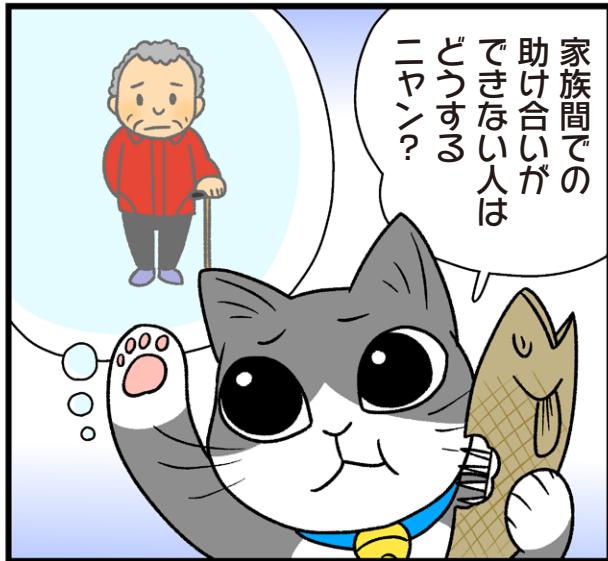
Q.03

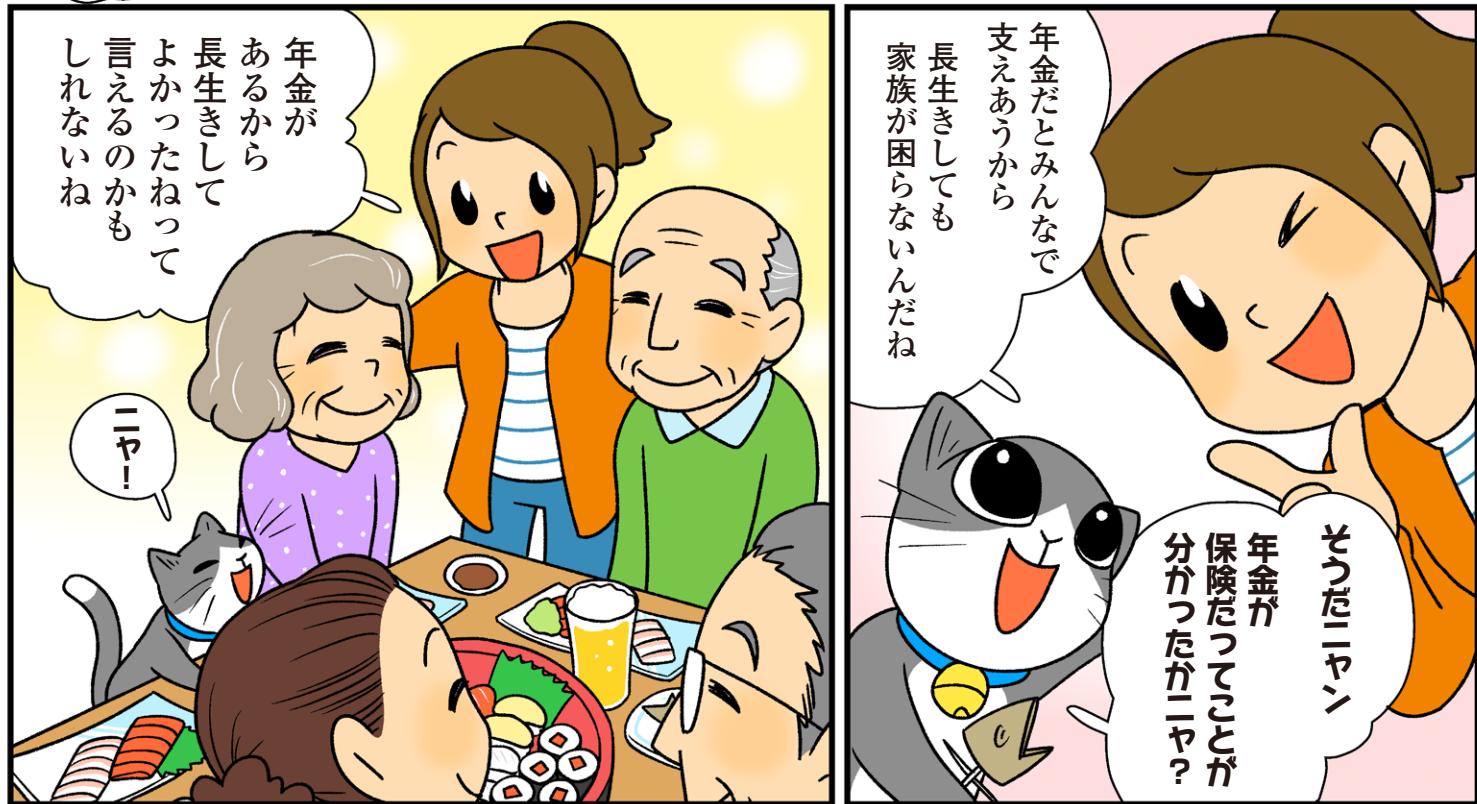
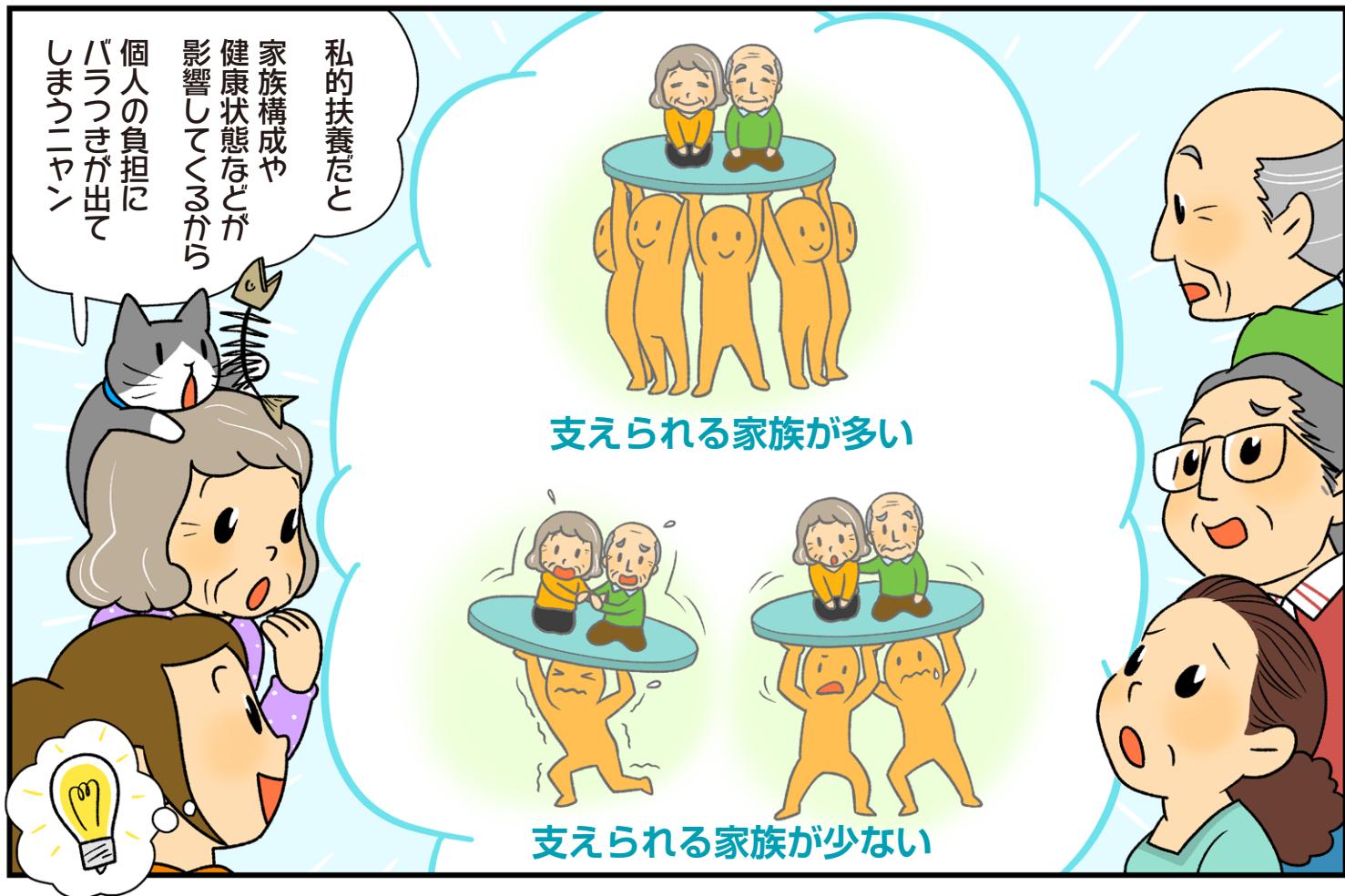
もし年金がなかったら どうなるんだろう？











A.03

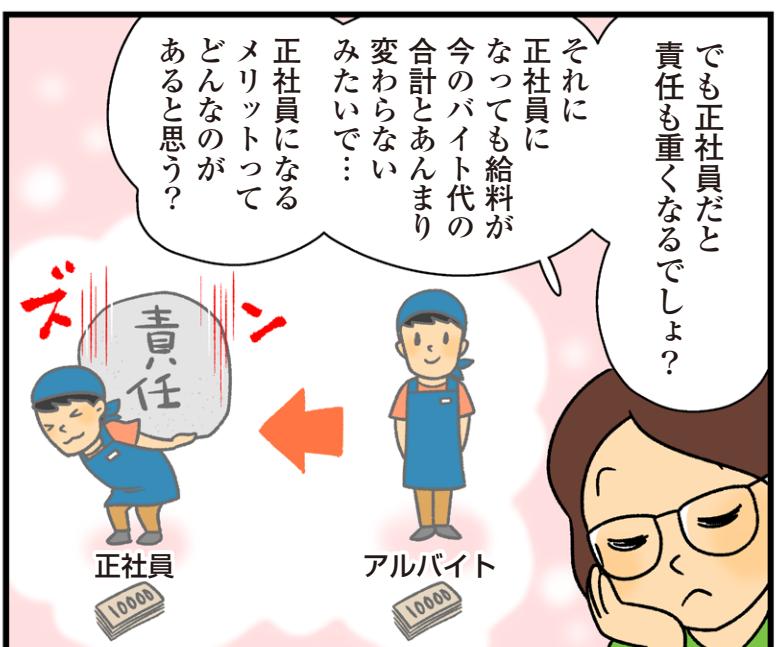
公的年金がなければ、家族構成や健康状態によって
は家族にとって大きな負担となる場合がある。

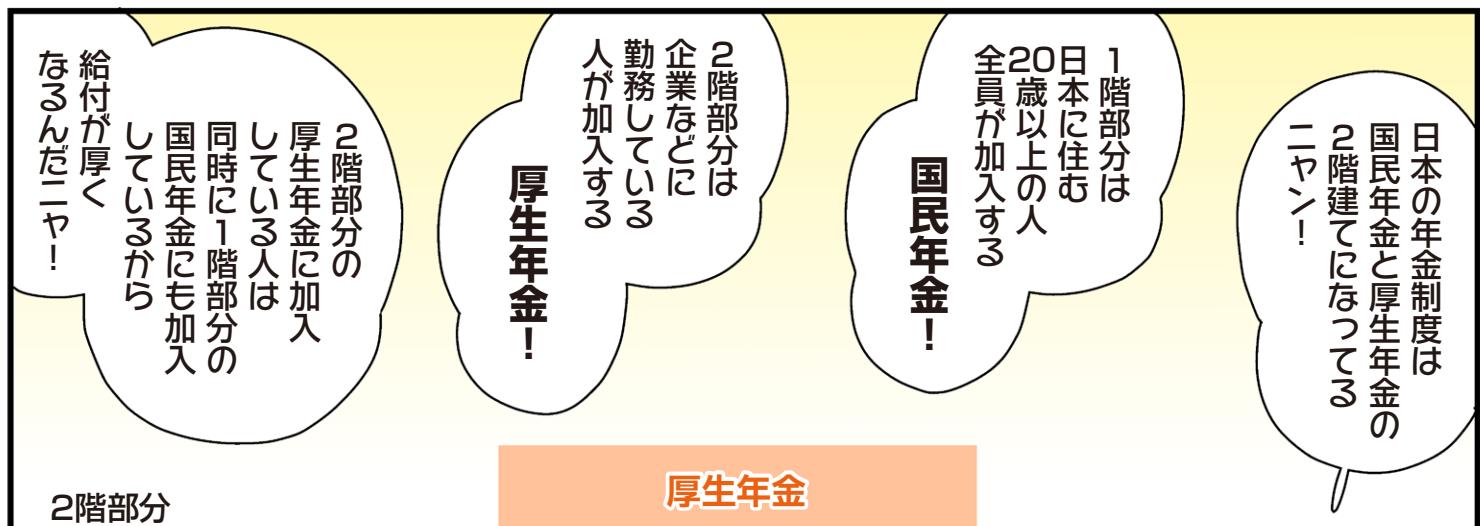
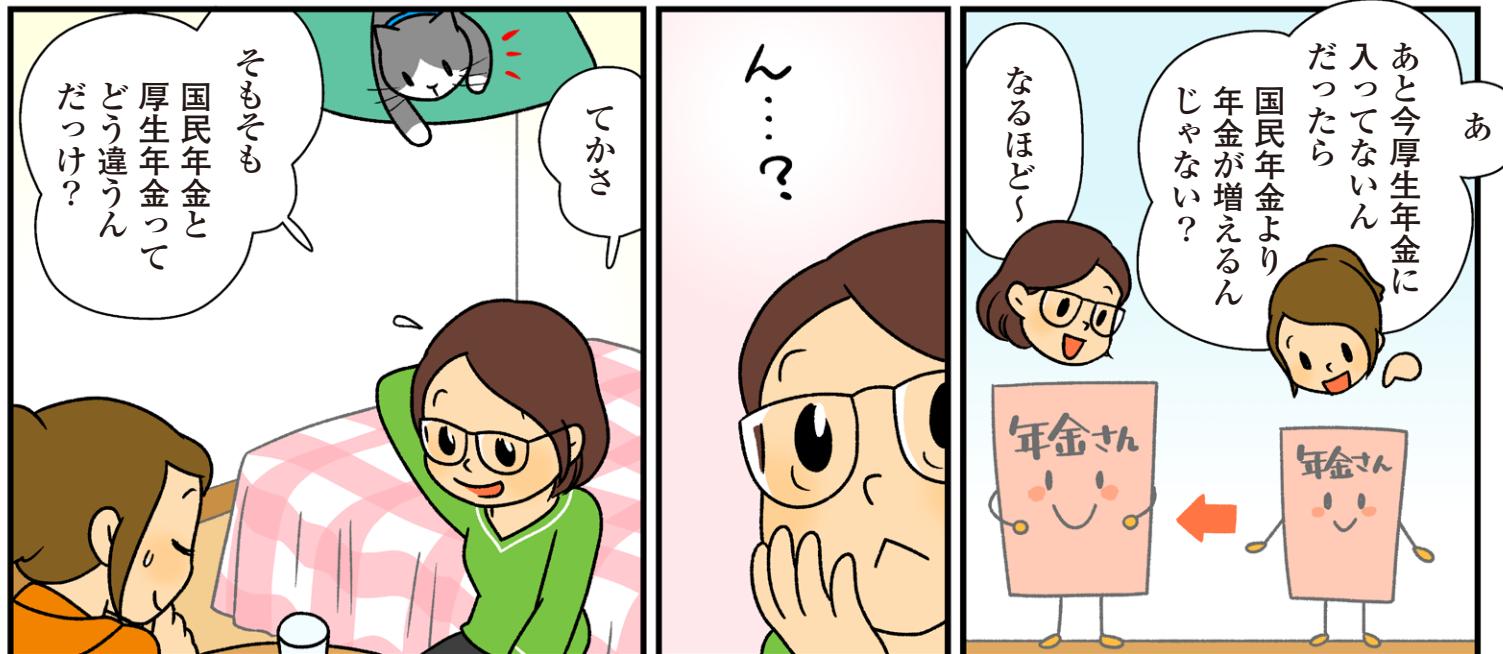


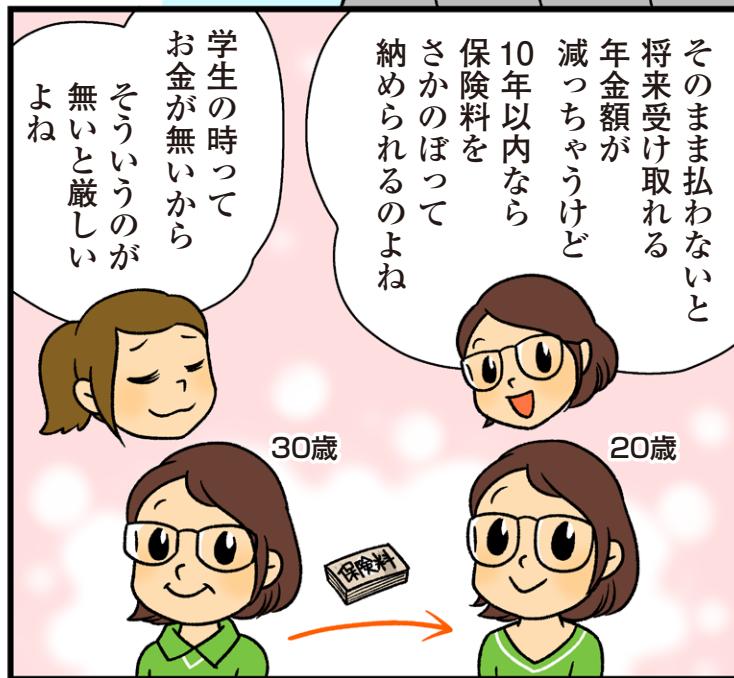


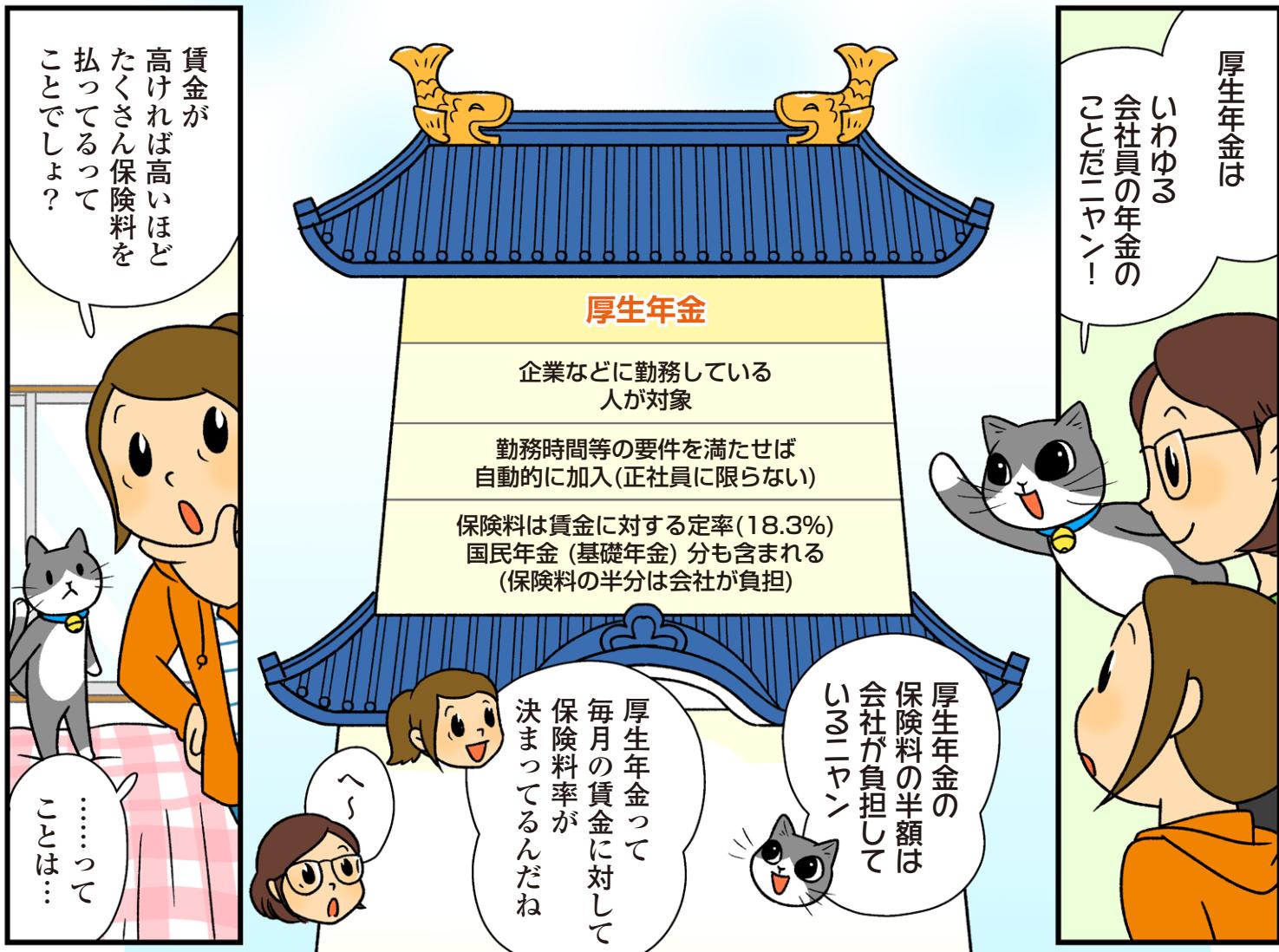
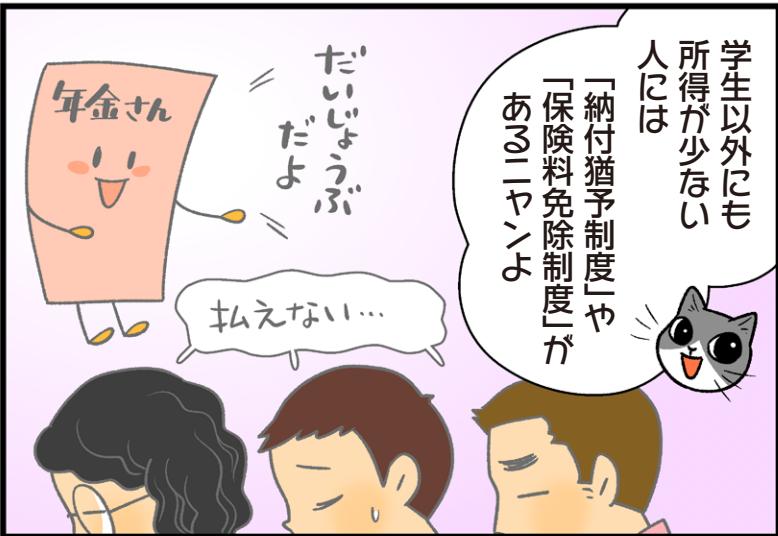
Q.04

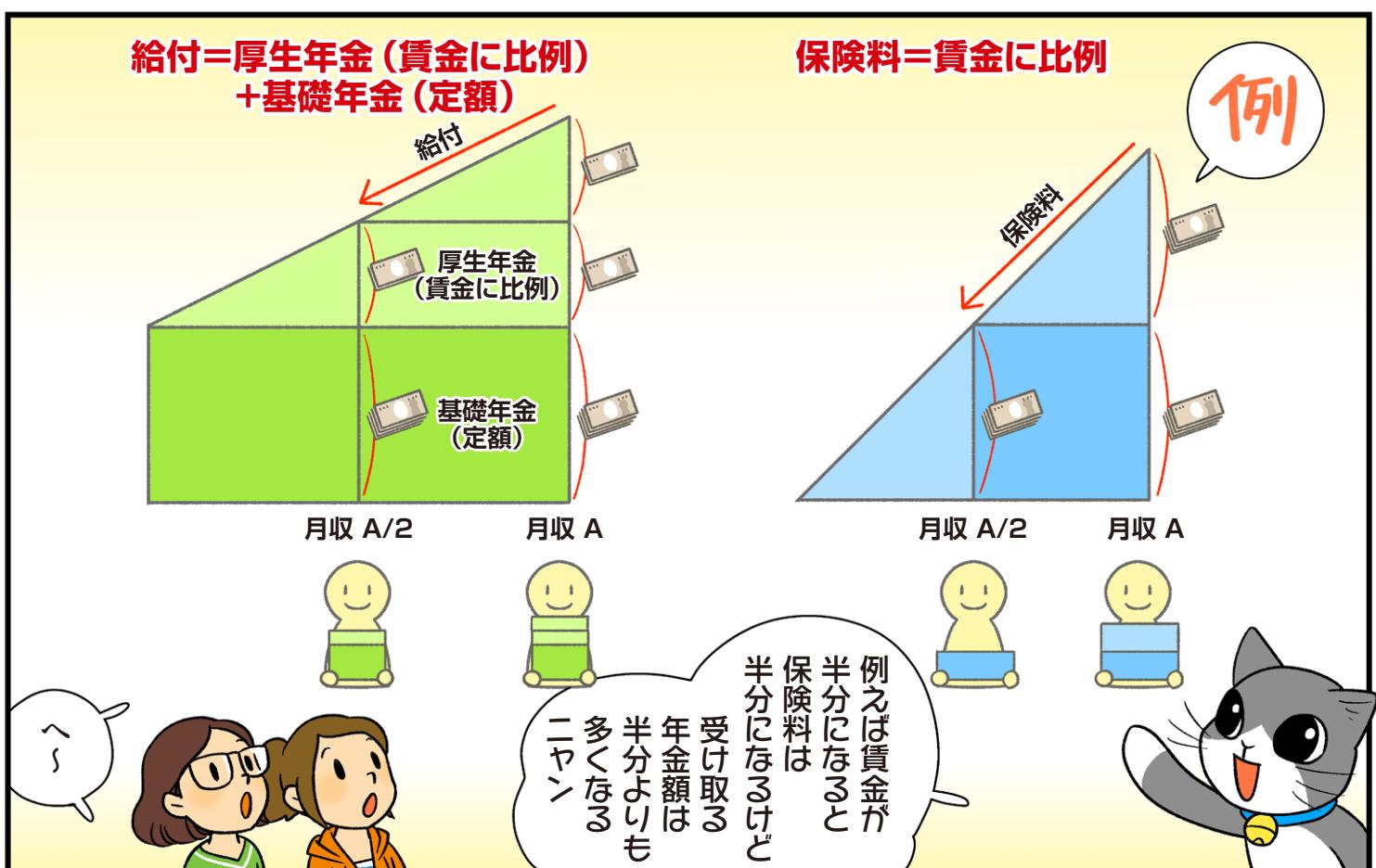
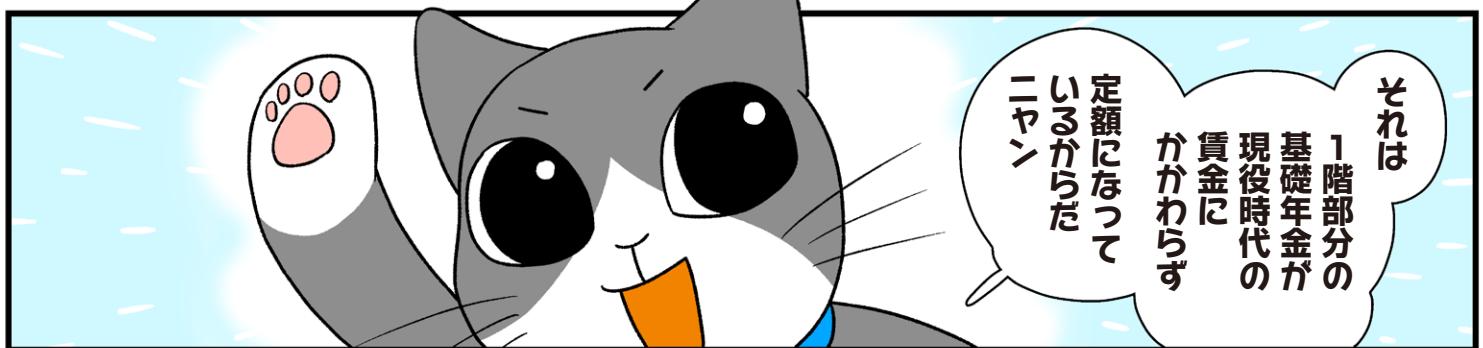
公的年金ってどんな制度なんだっけ？



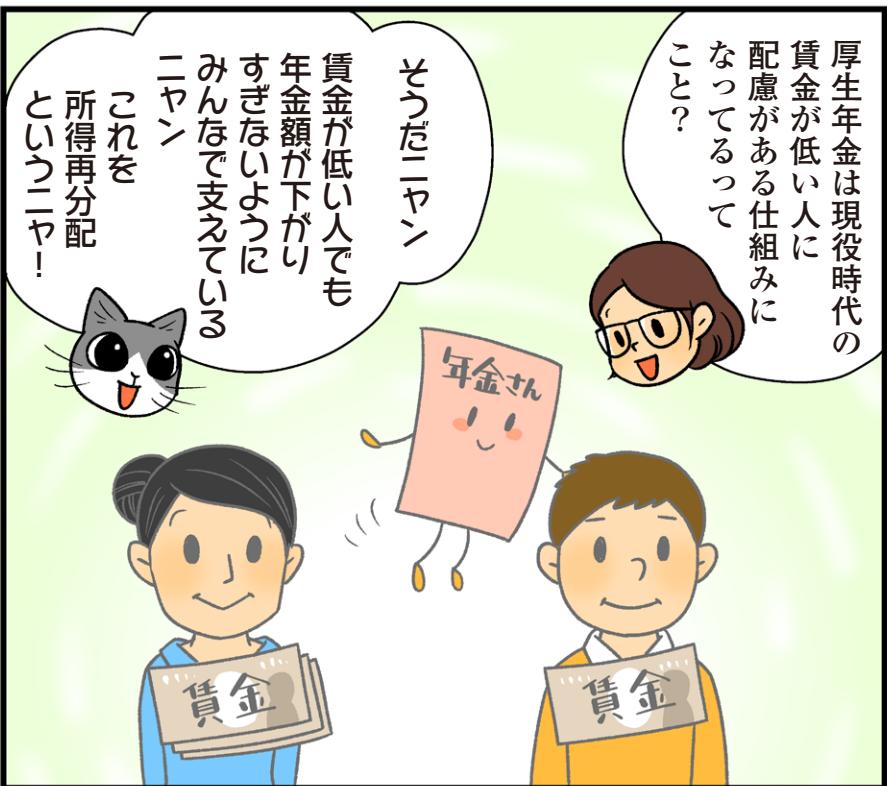








厚生年金は現役時代の
賃金が低い人に
配慮がある仕組みになつてゐるってこと?



A.04

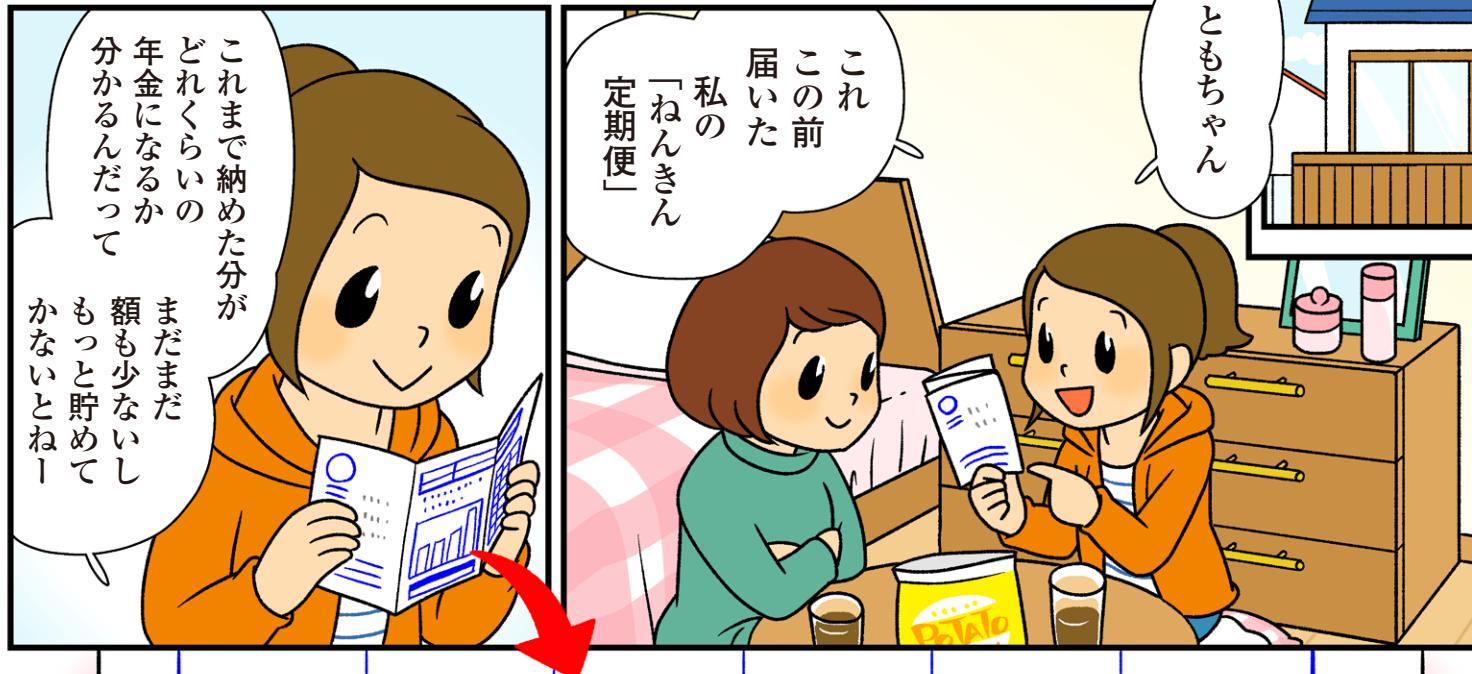
公的年金は「2階建て」。「1階」の国民年金（基礎年金）は納付した期間に応じた一定額を受け取る。会社員や公務員は、現役時代の賃金に比例した「2階」の厚生年金も受け取る。





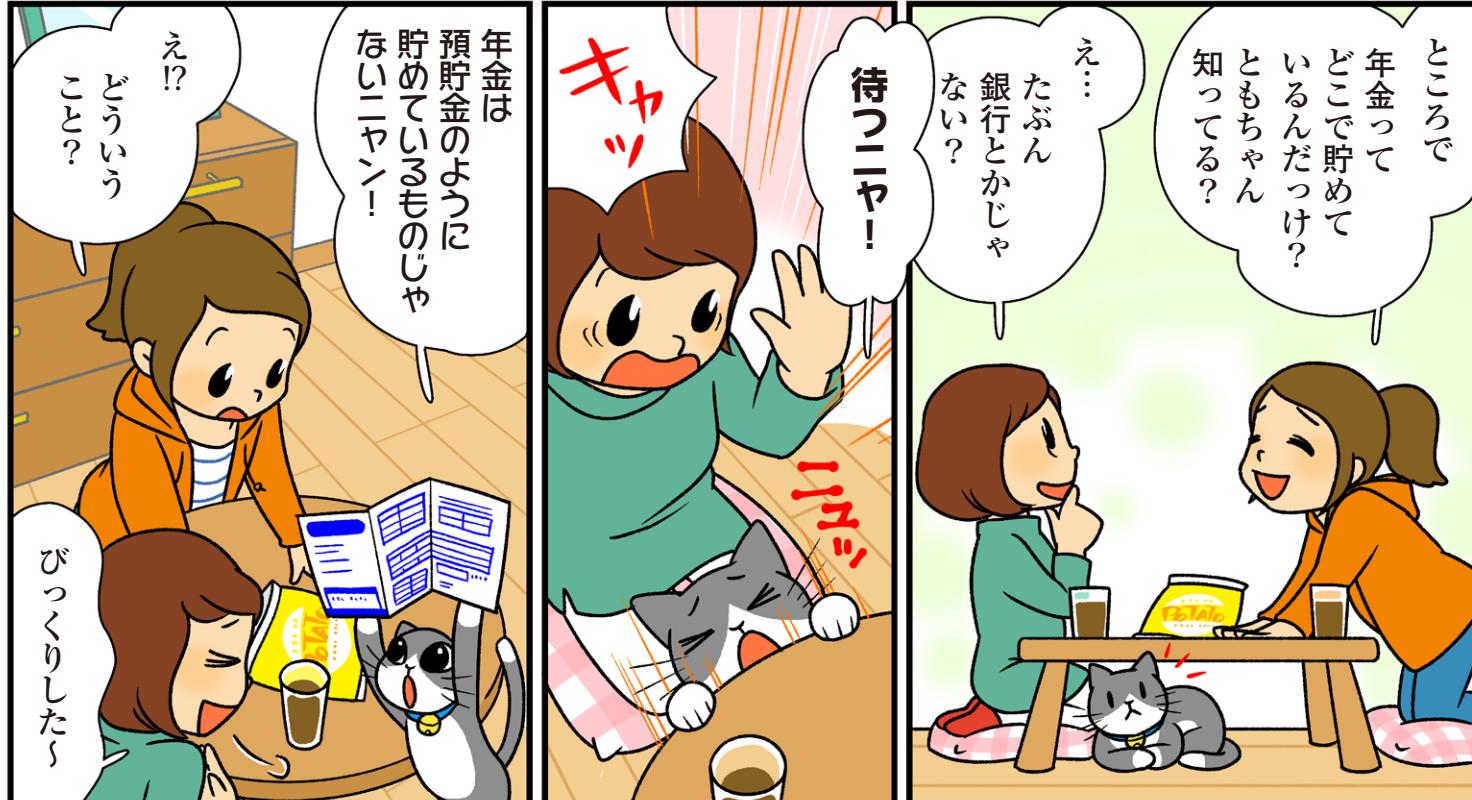
Q.05

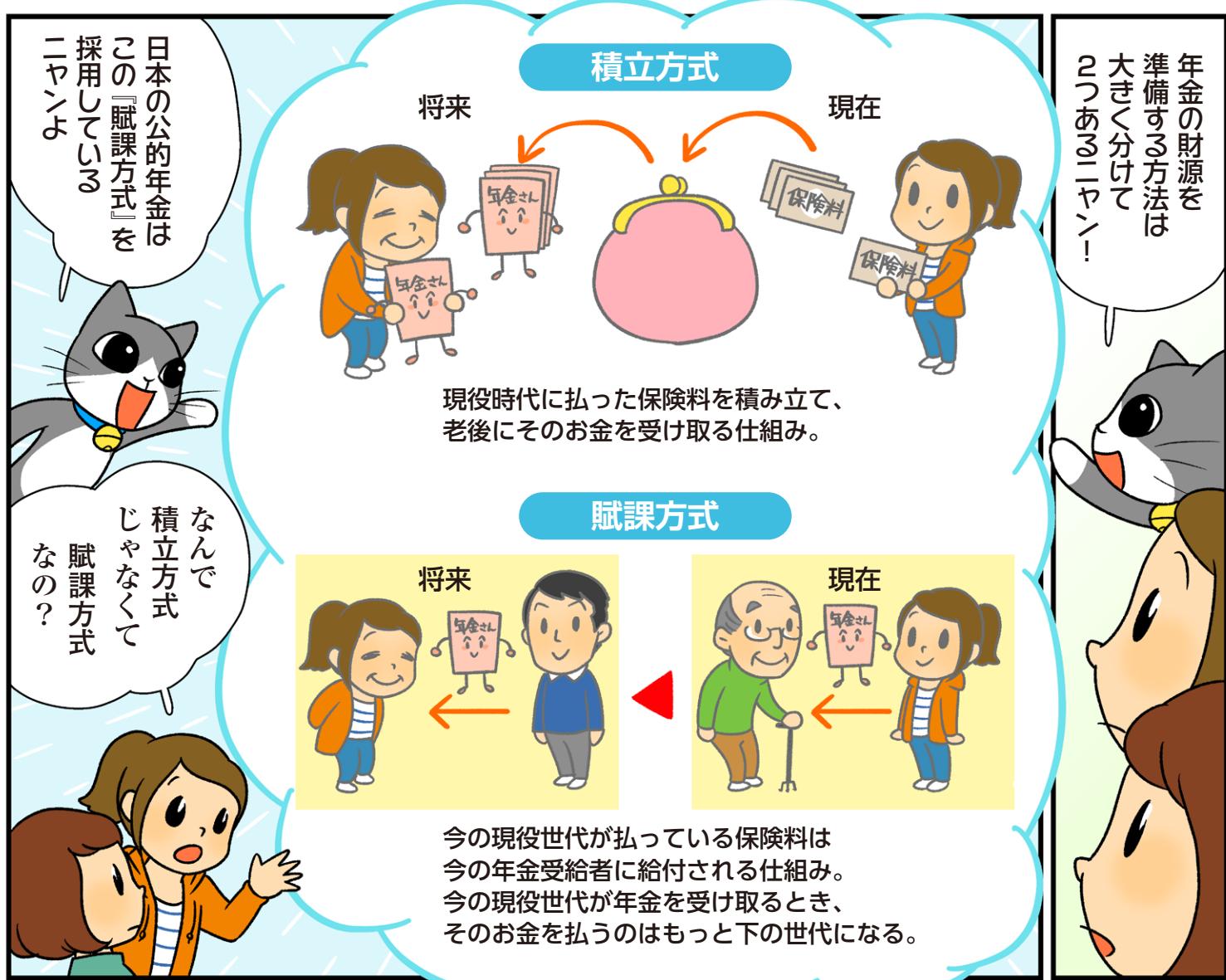
払った保険料はどう使われているの？

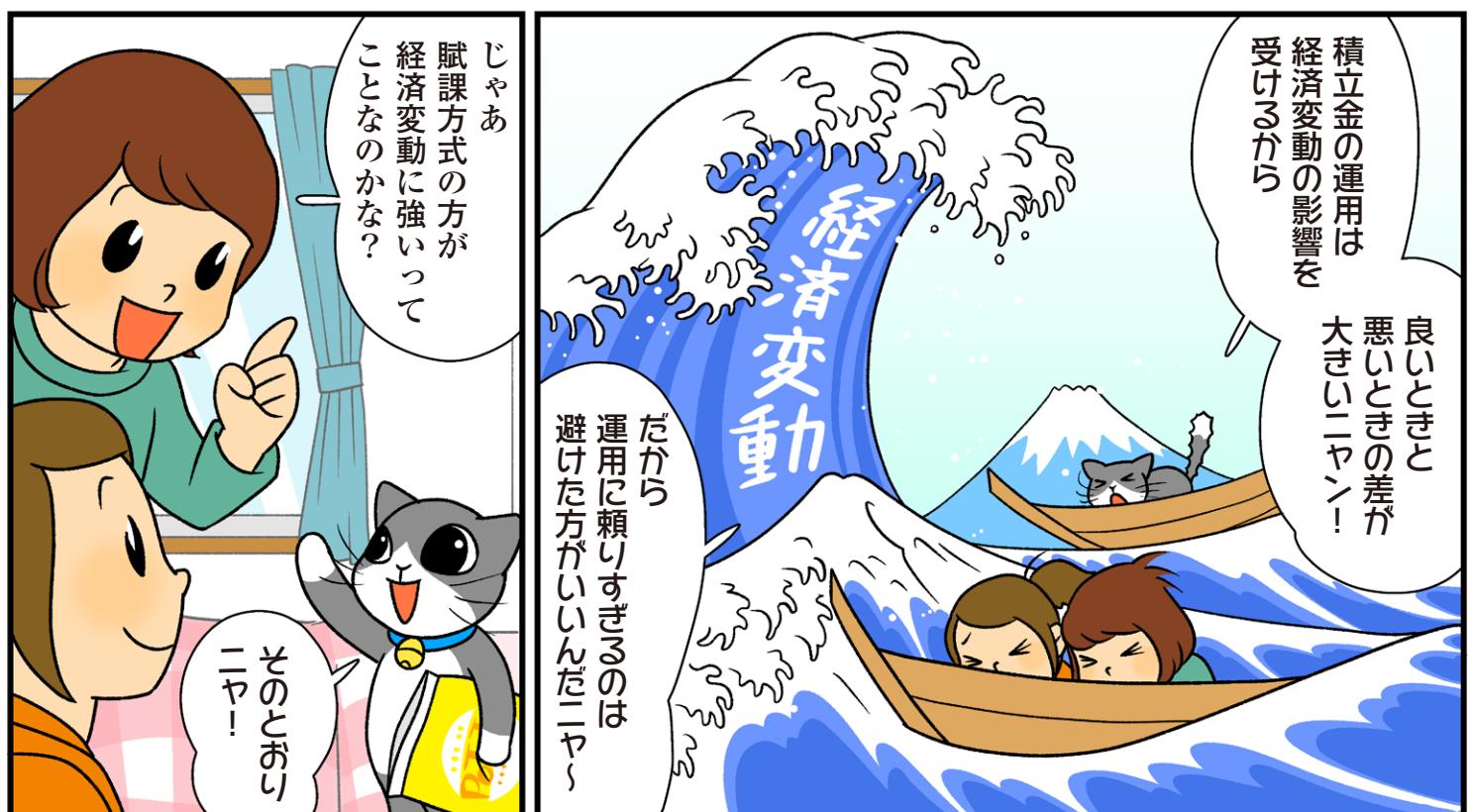
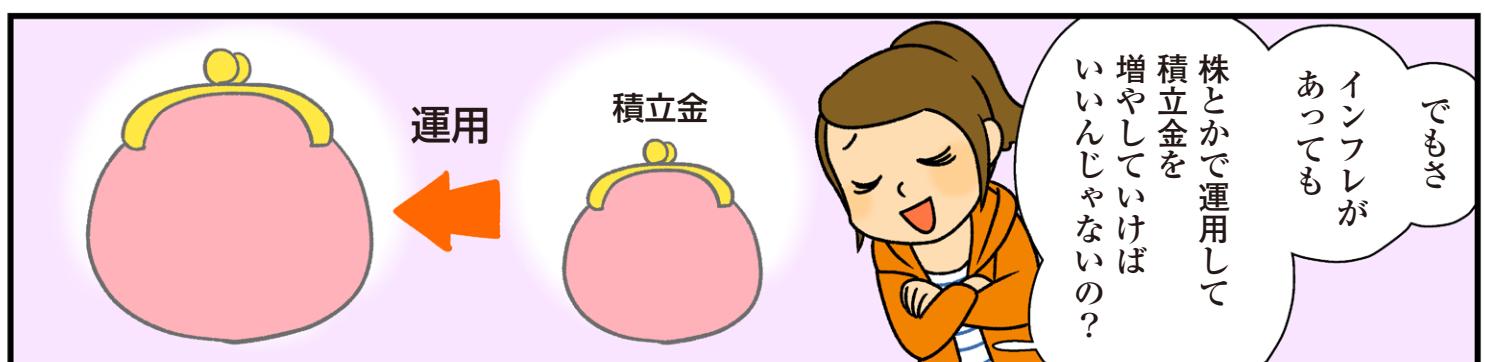
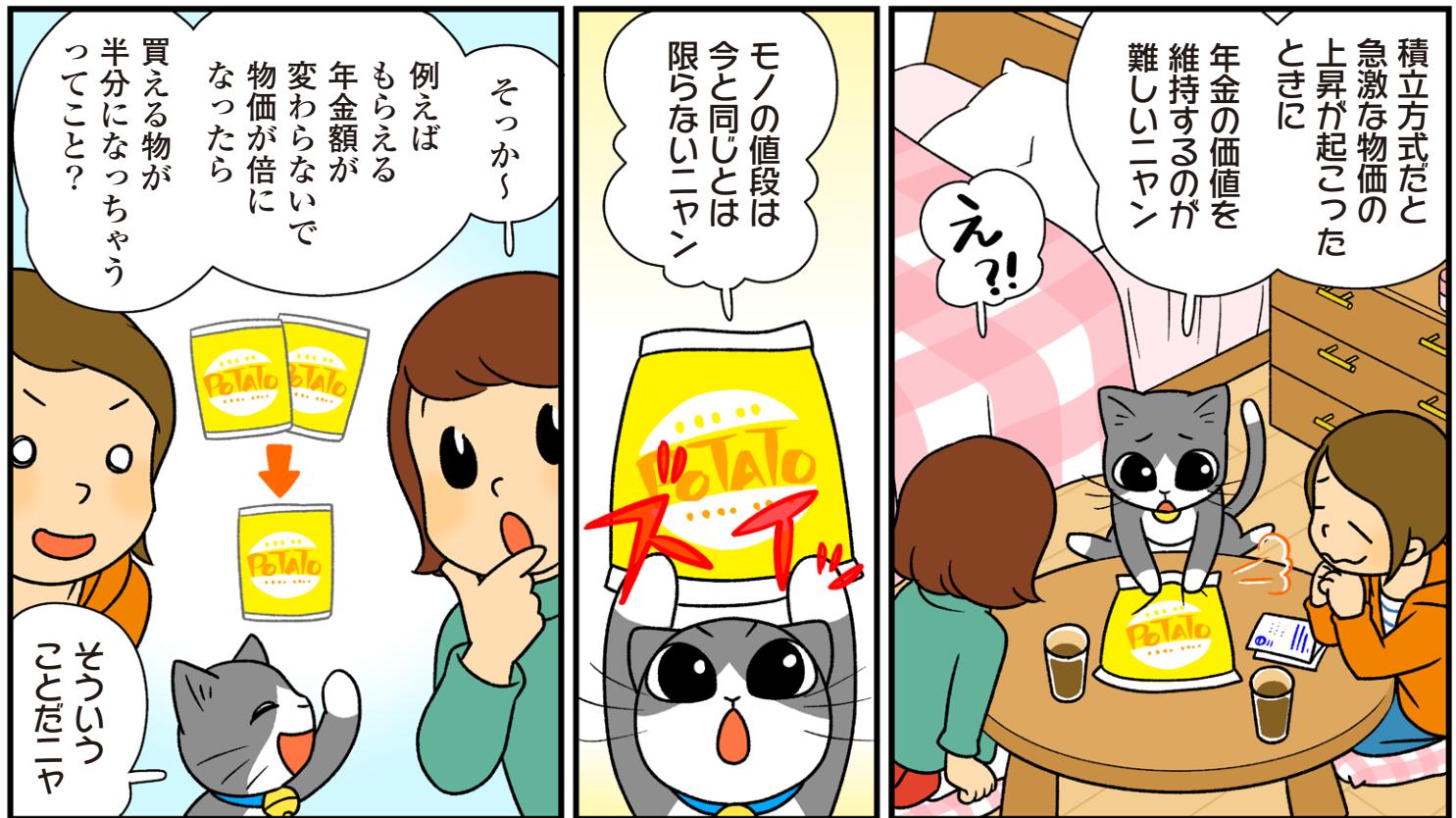


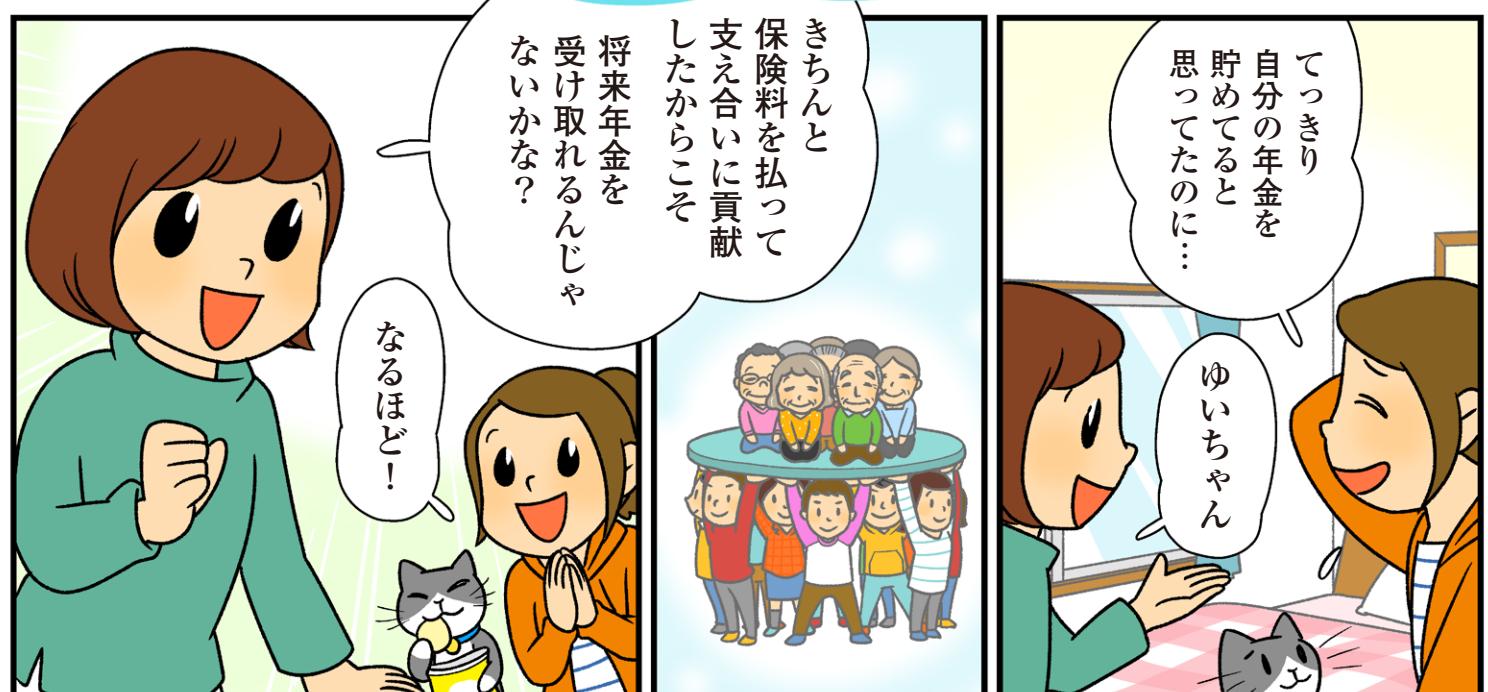
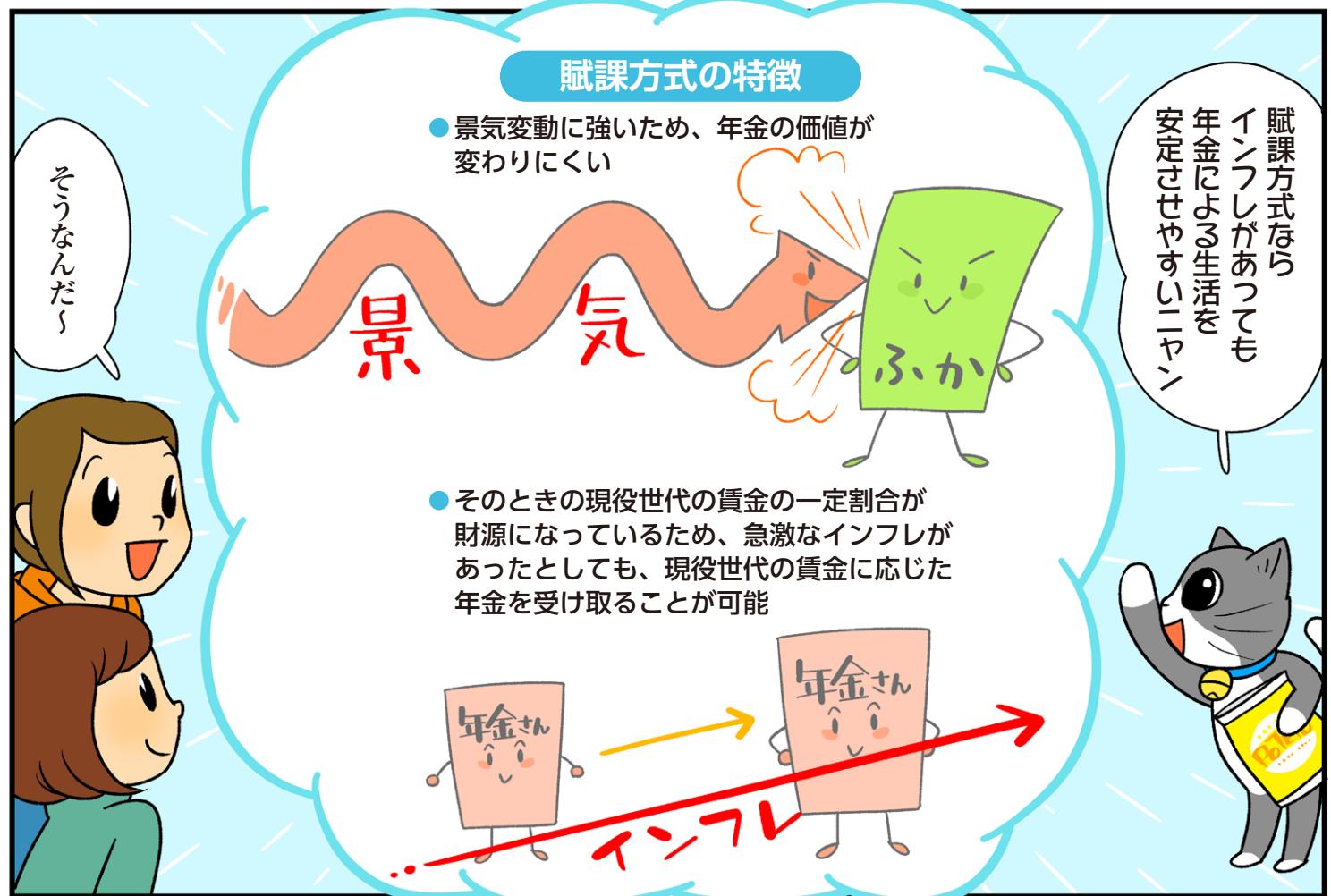
3.これまでの加入実績に応じた年金額

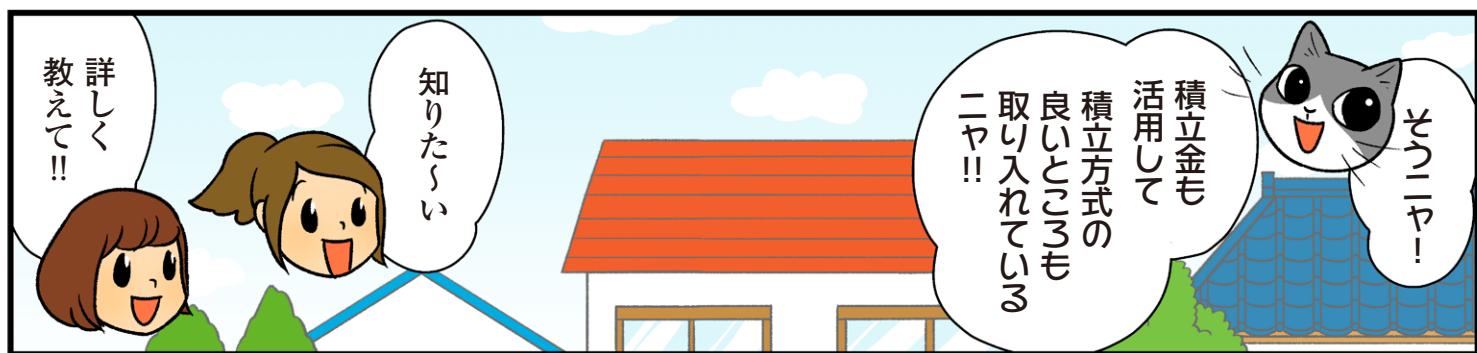
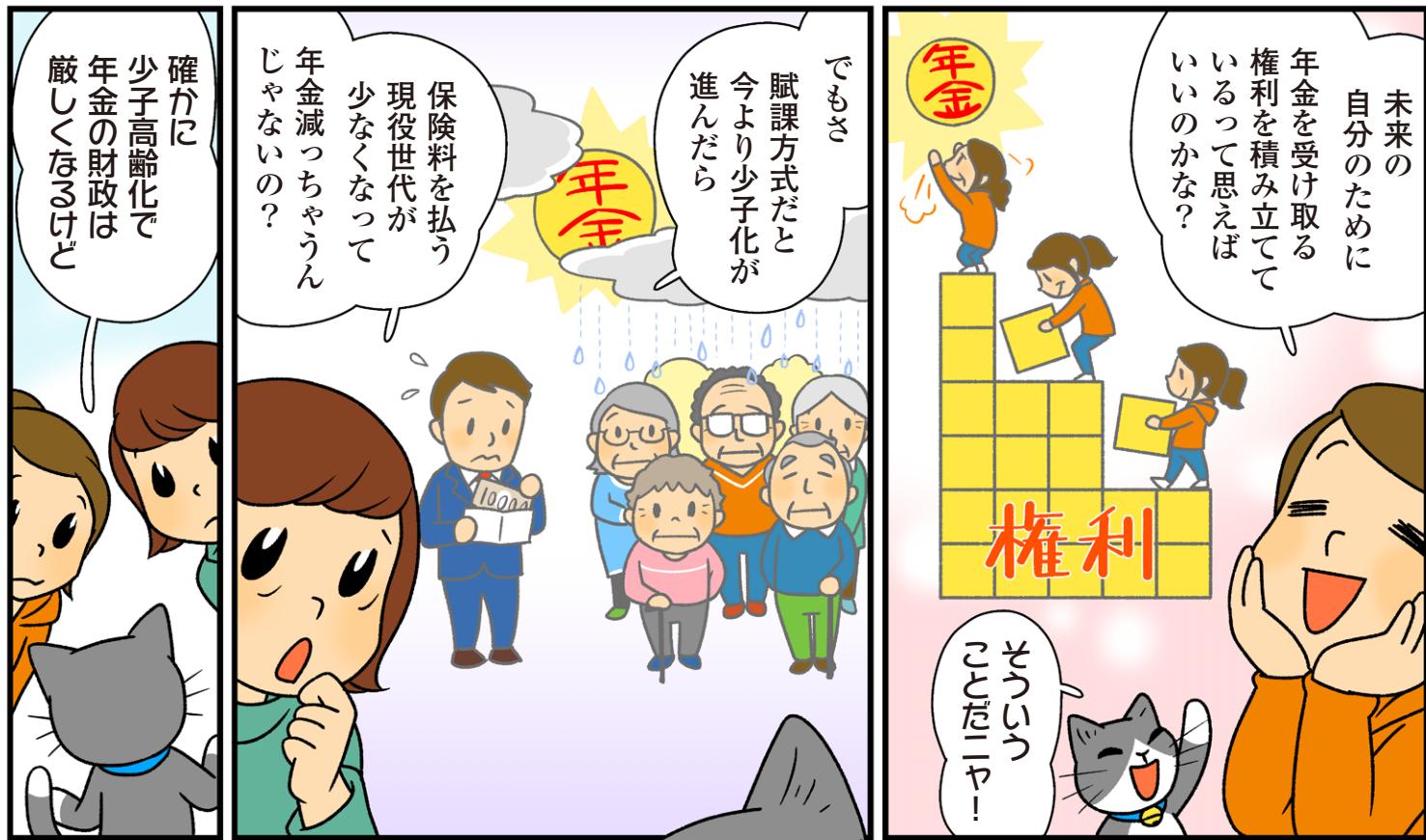
(1) 老齢基礎年金	○○○○○○円
(2) 老齢厚生年金	□□□□□□円 ○円 ○円
(1) と (2) の合計	△△△△△△△円











A.05

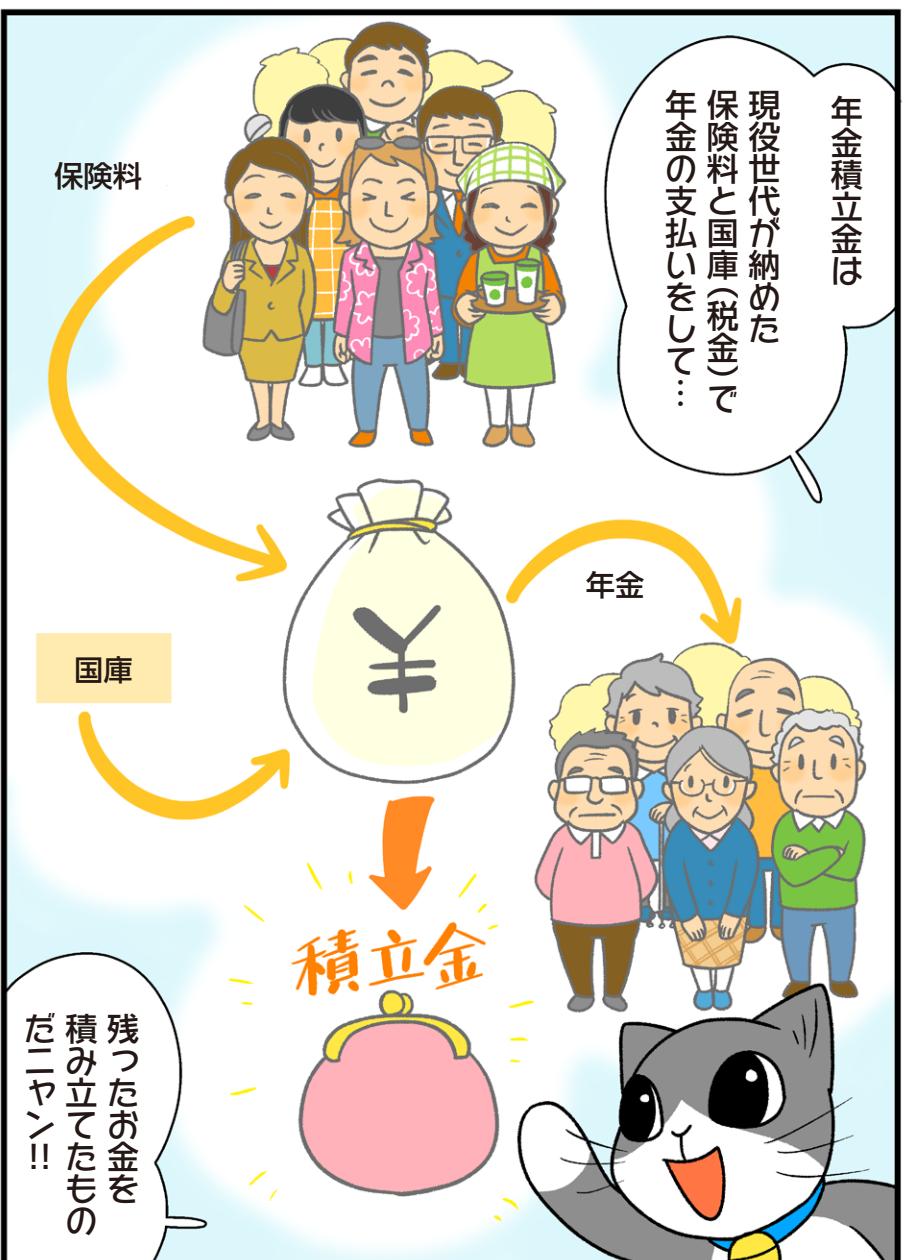
公的年金はその年の現役世代が納める保険料を同じ年の年金の給付に充てることで、現役世代の生活水準に合った給付を実現している。

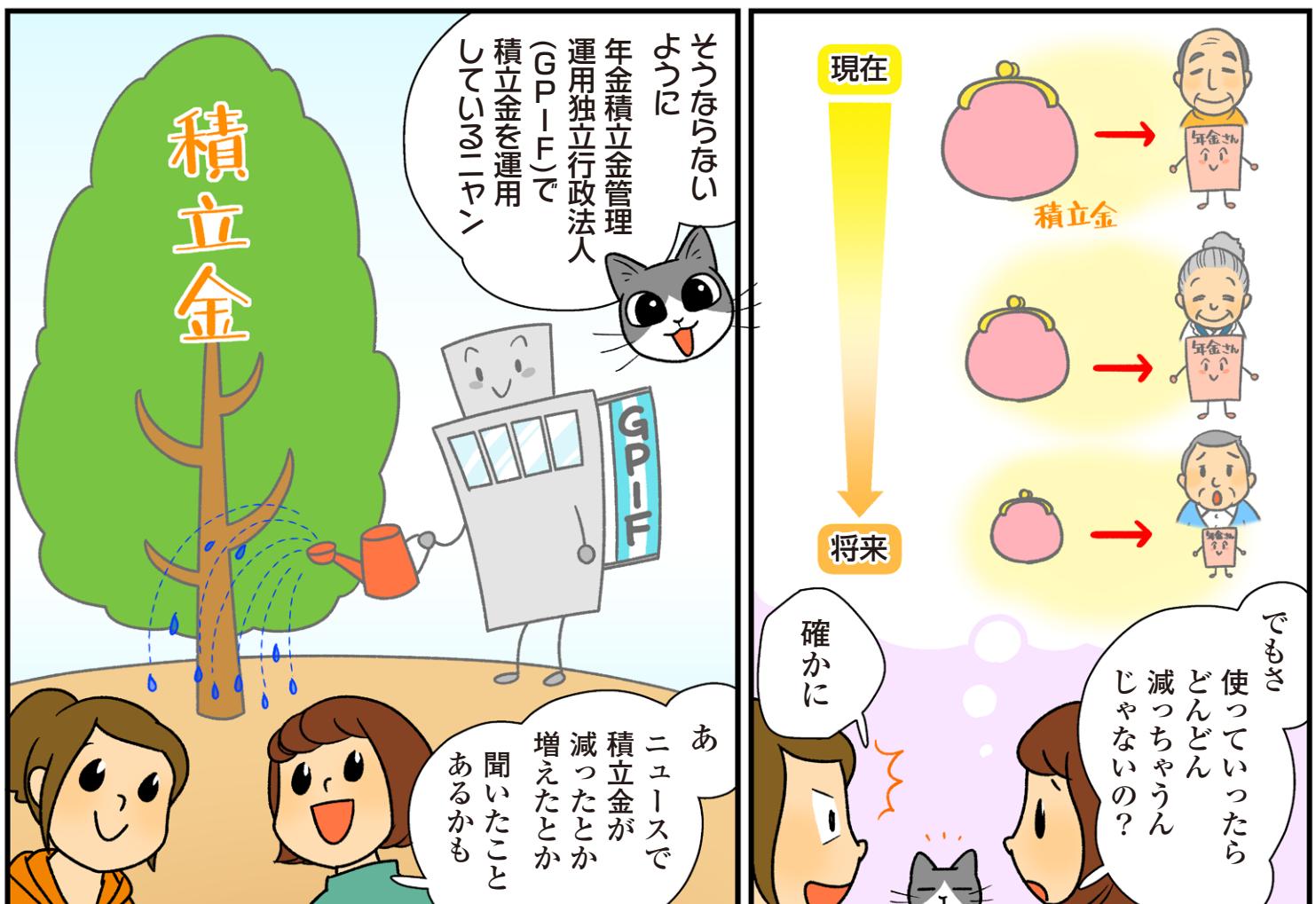
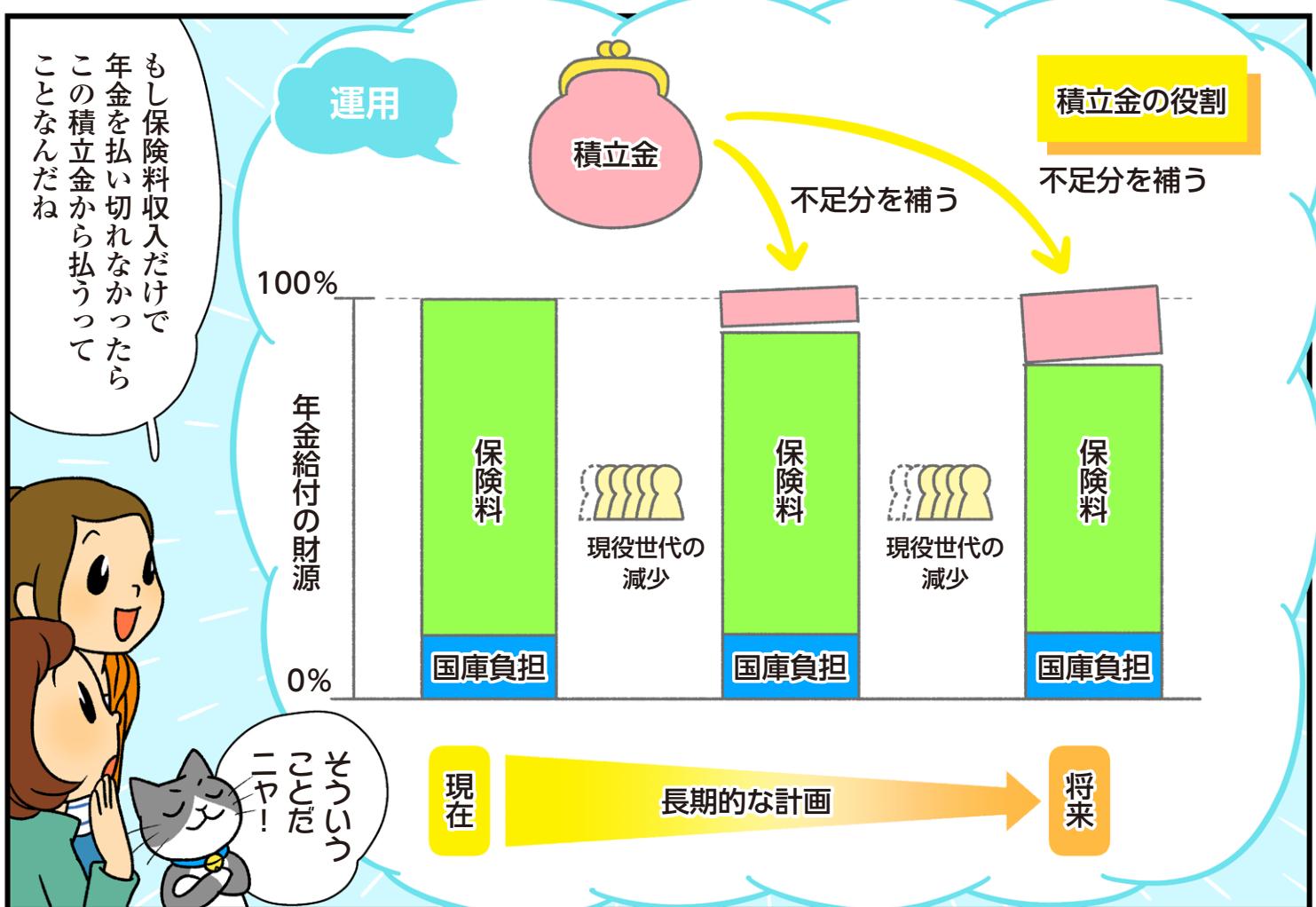


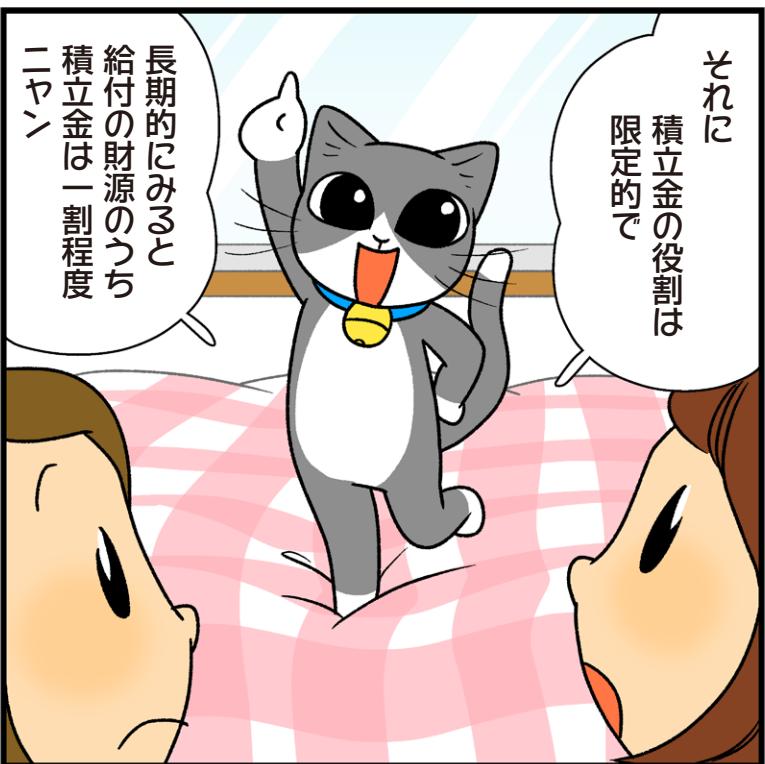
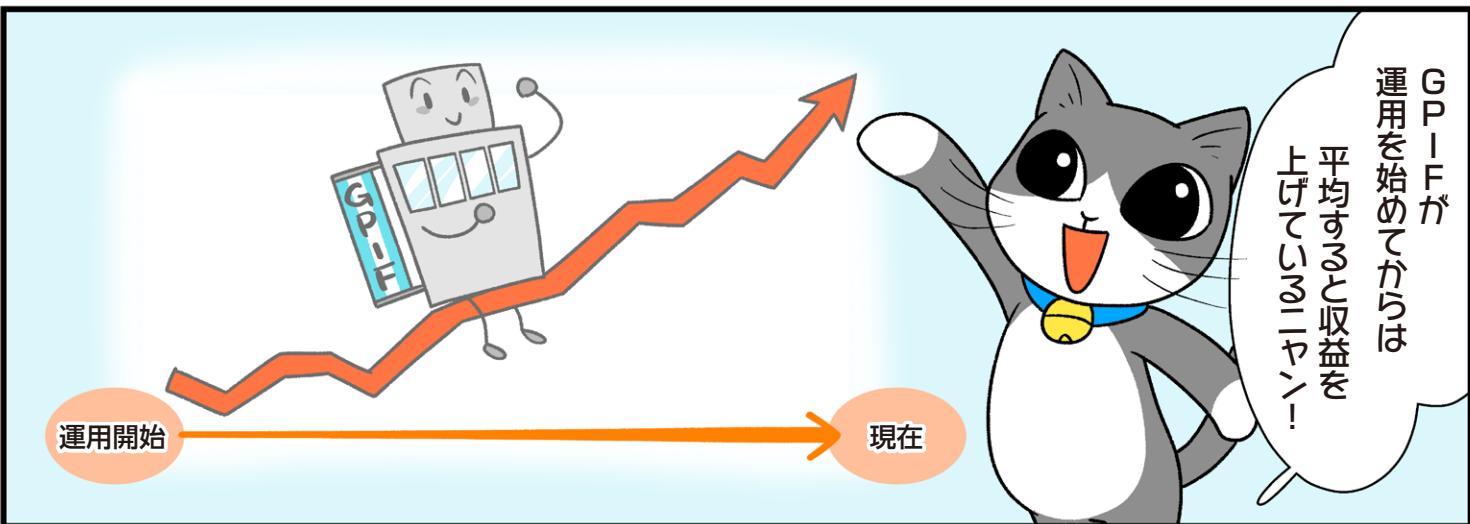
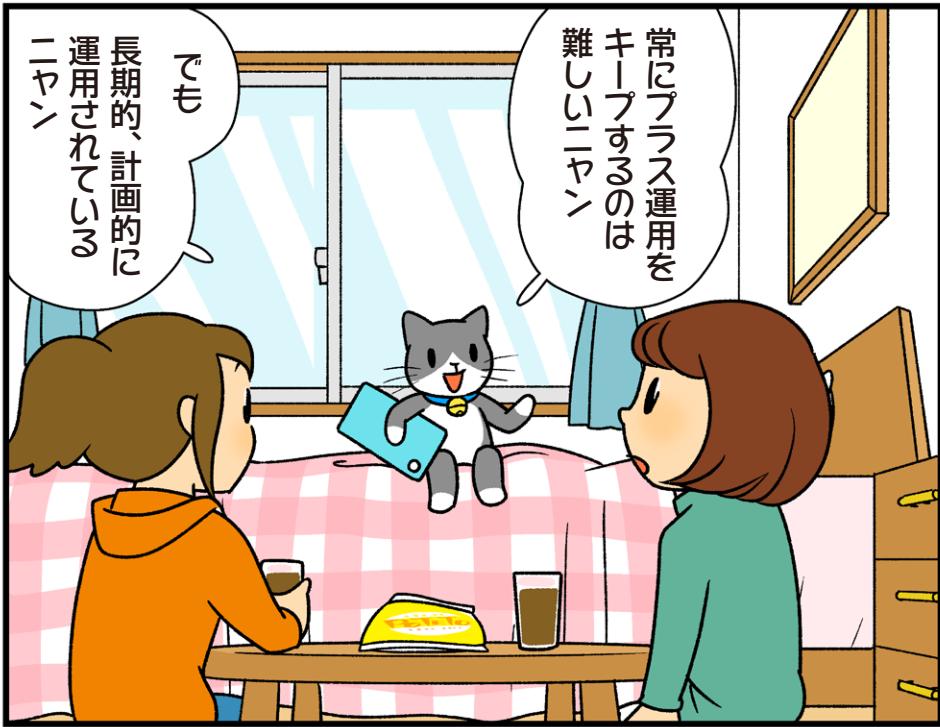


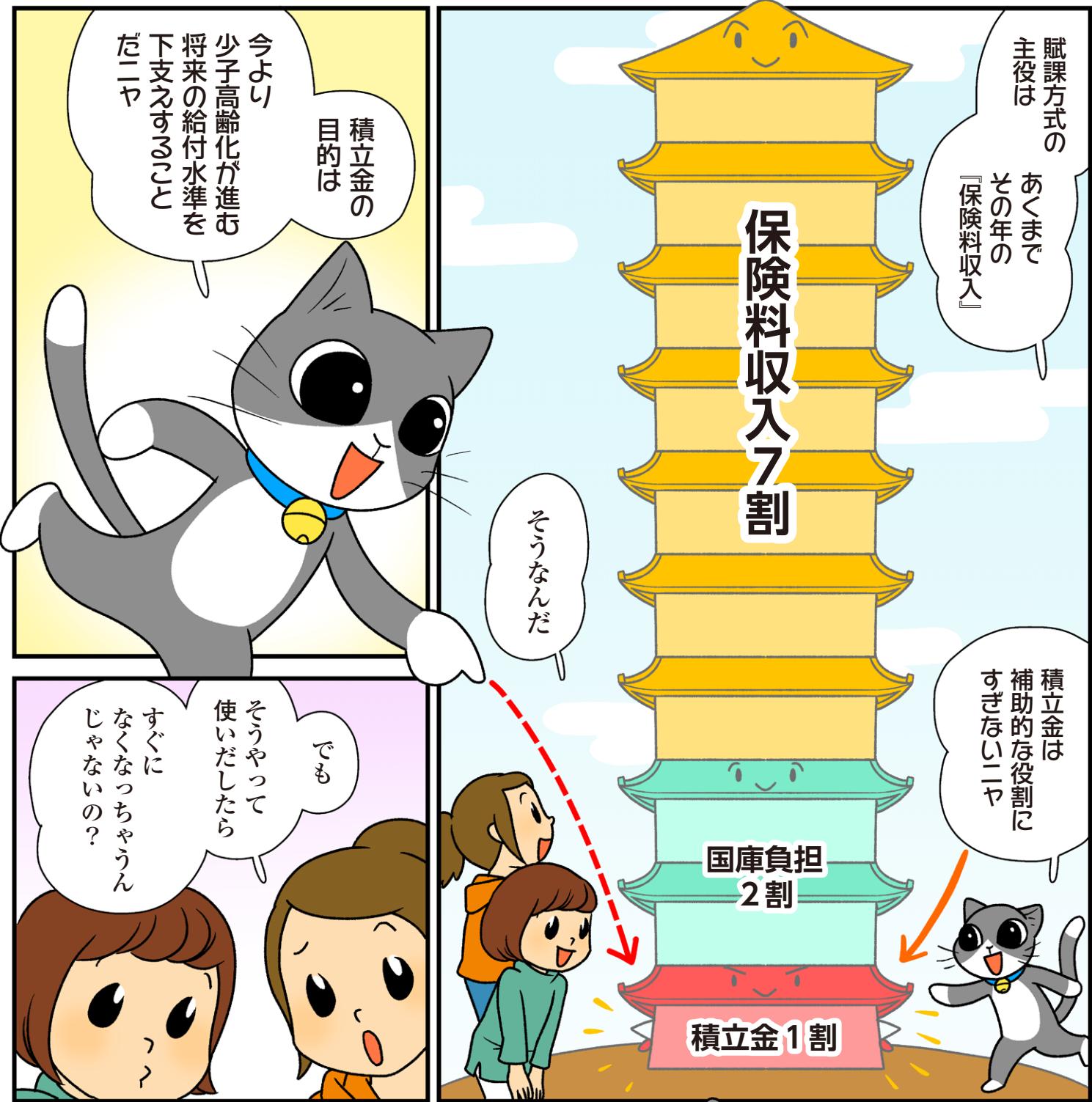
Q.06

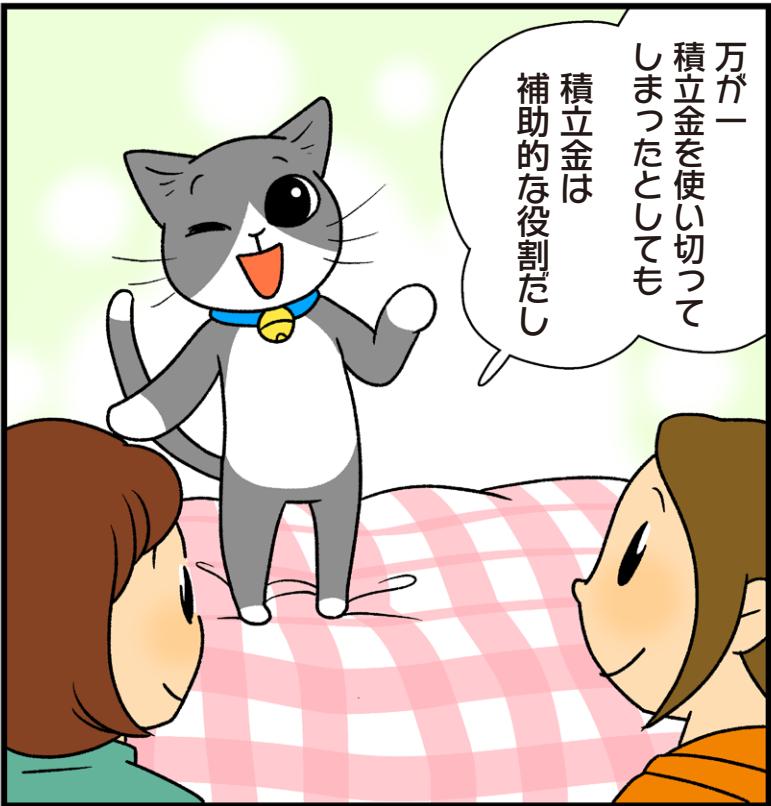
何のために積立金があるの？











A.06

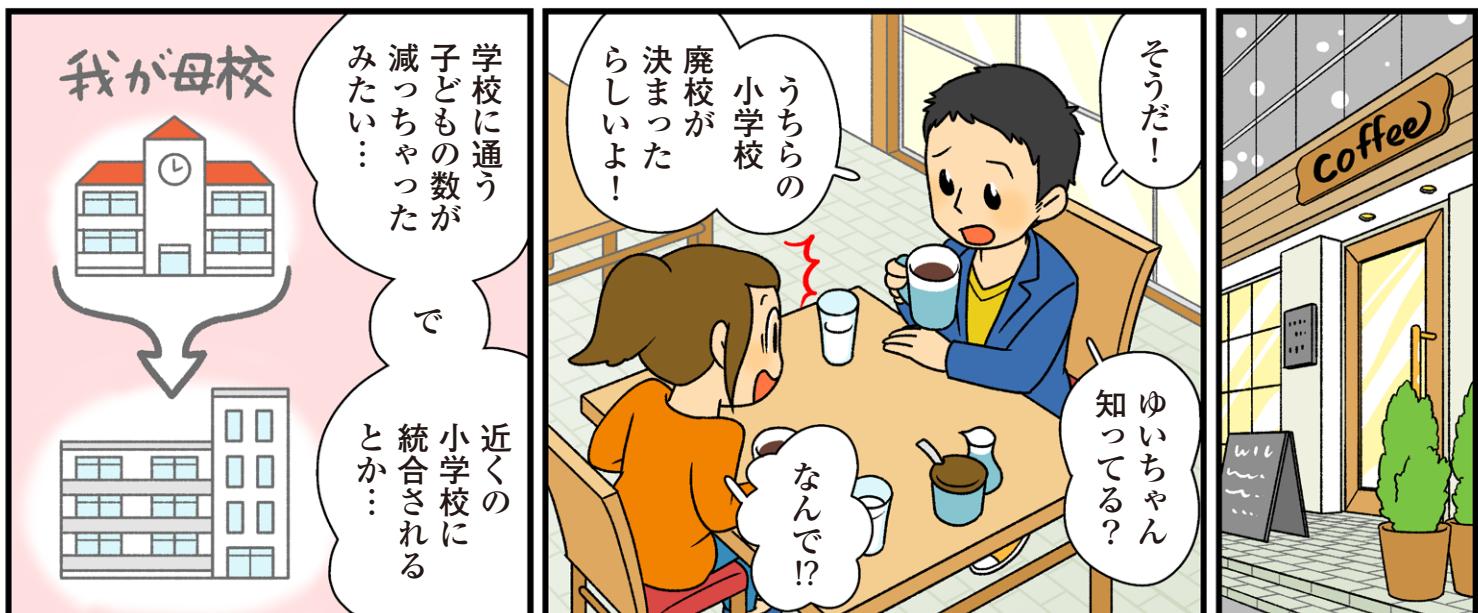
積立金は今より少子高齢化が進む将来の給付水準を下支えする役割を担っている。

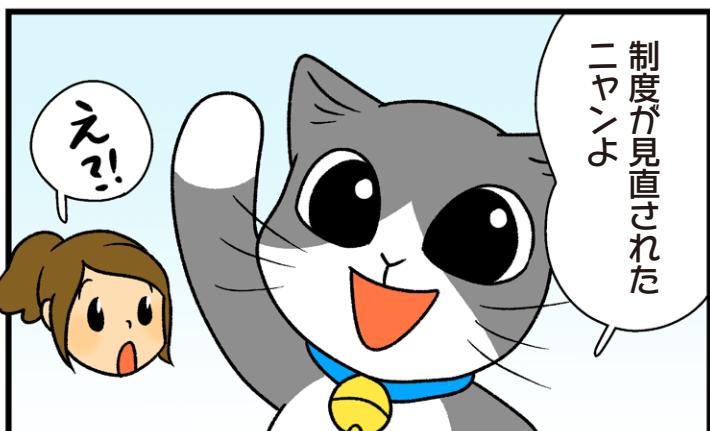
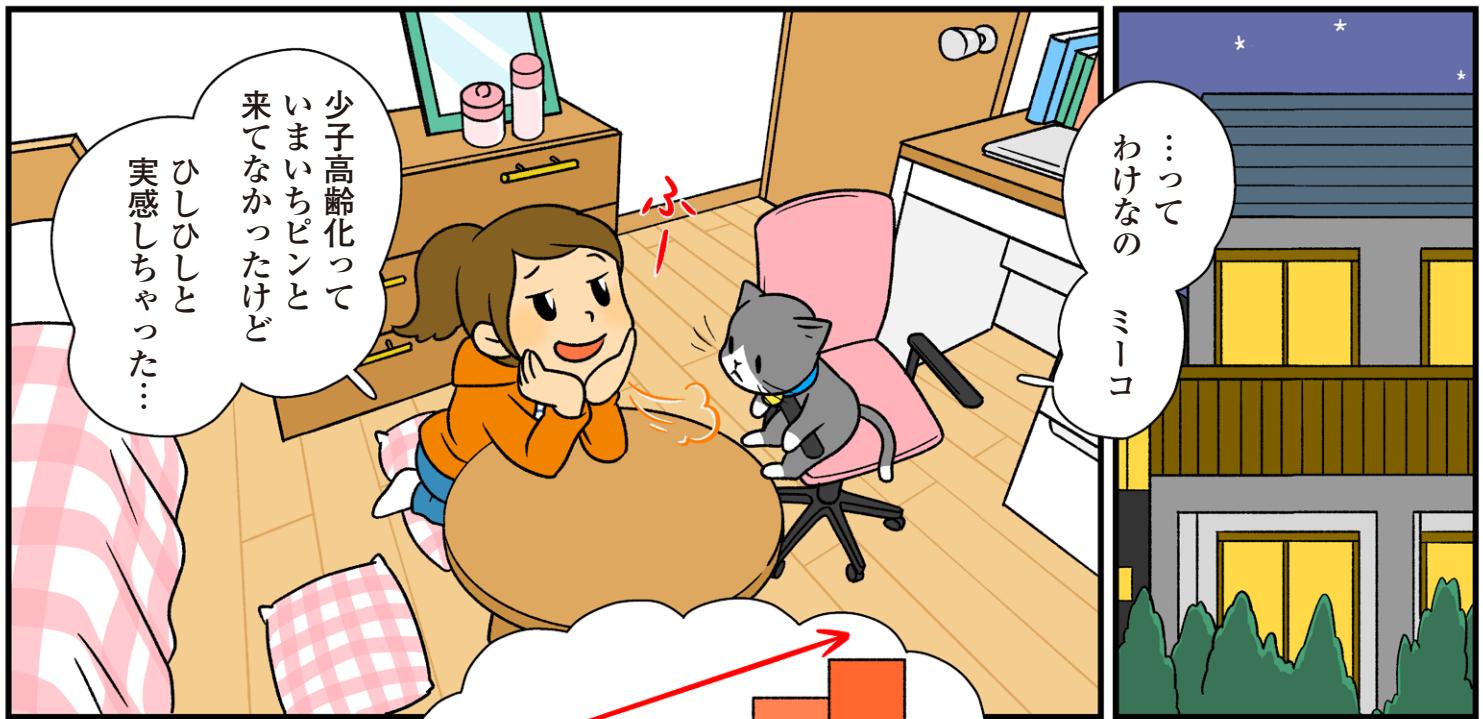


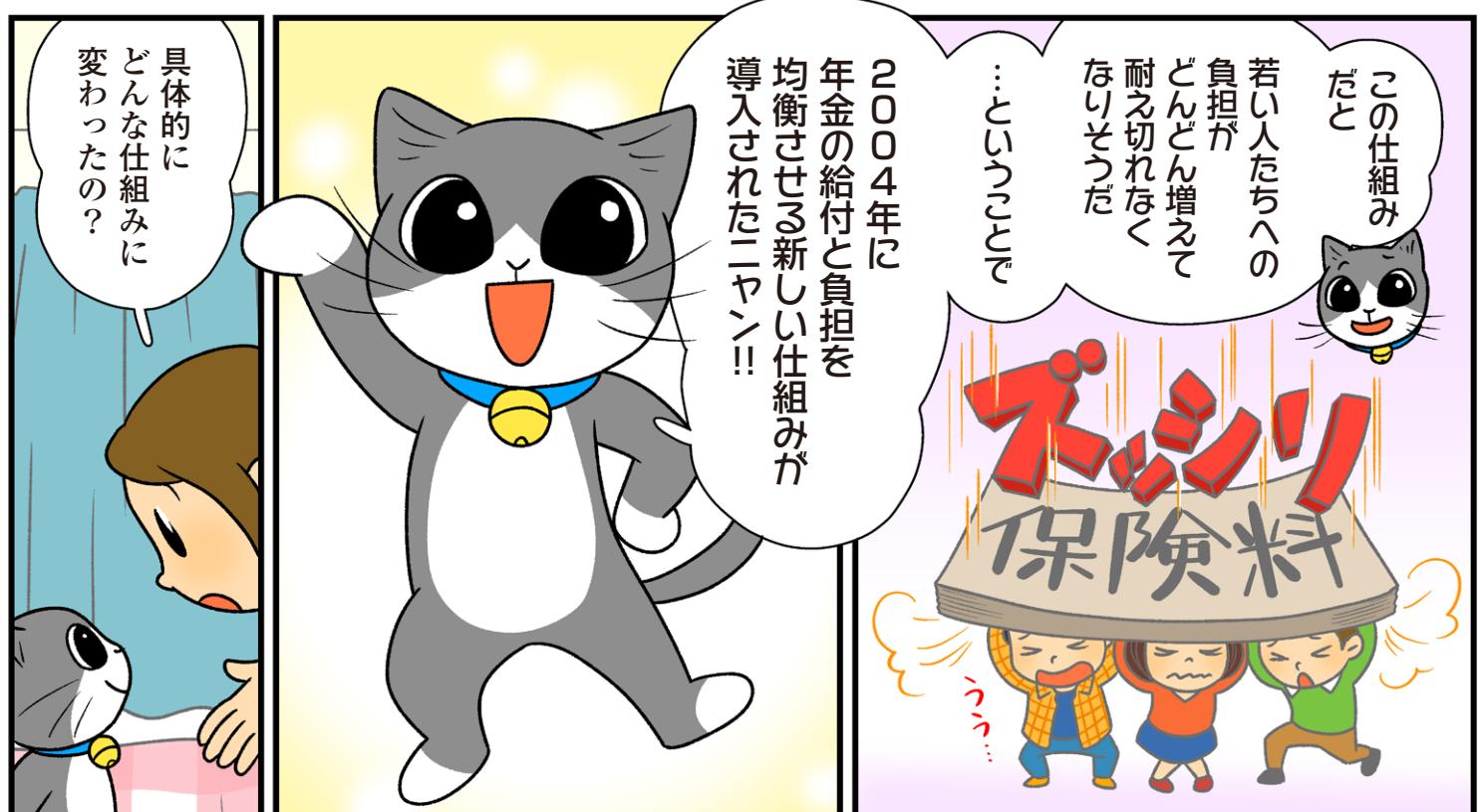
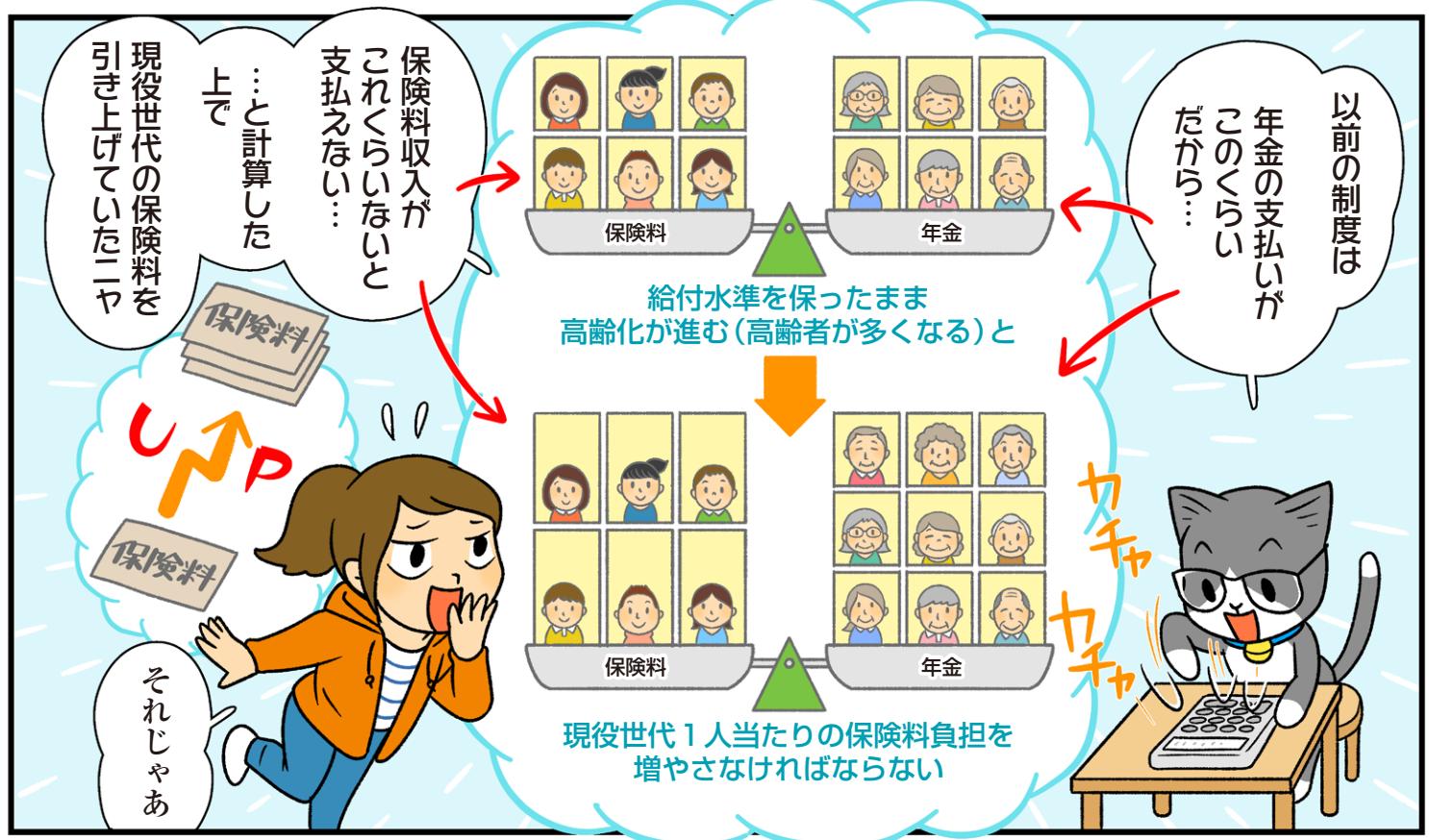


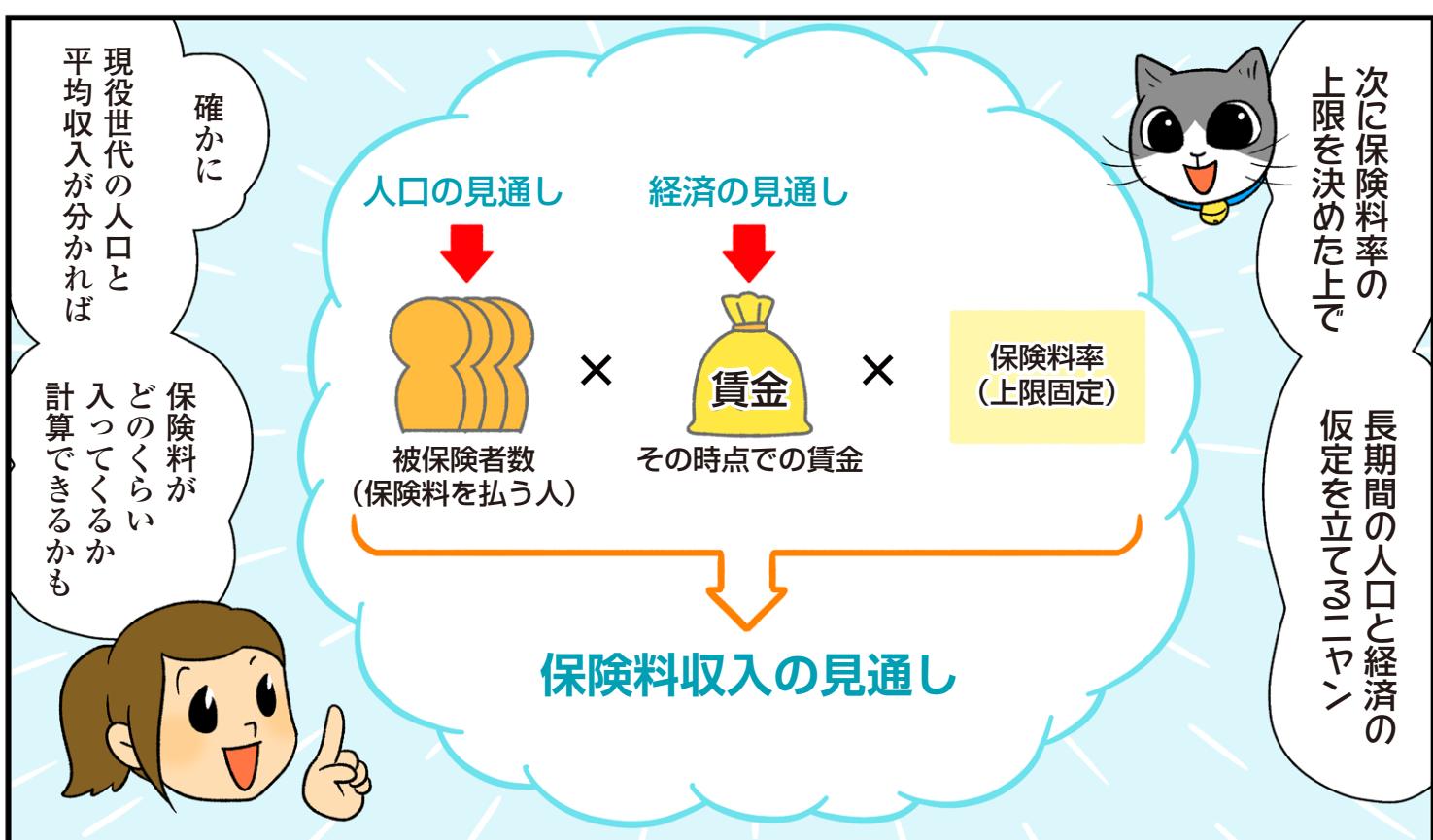
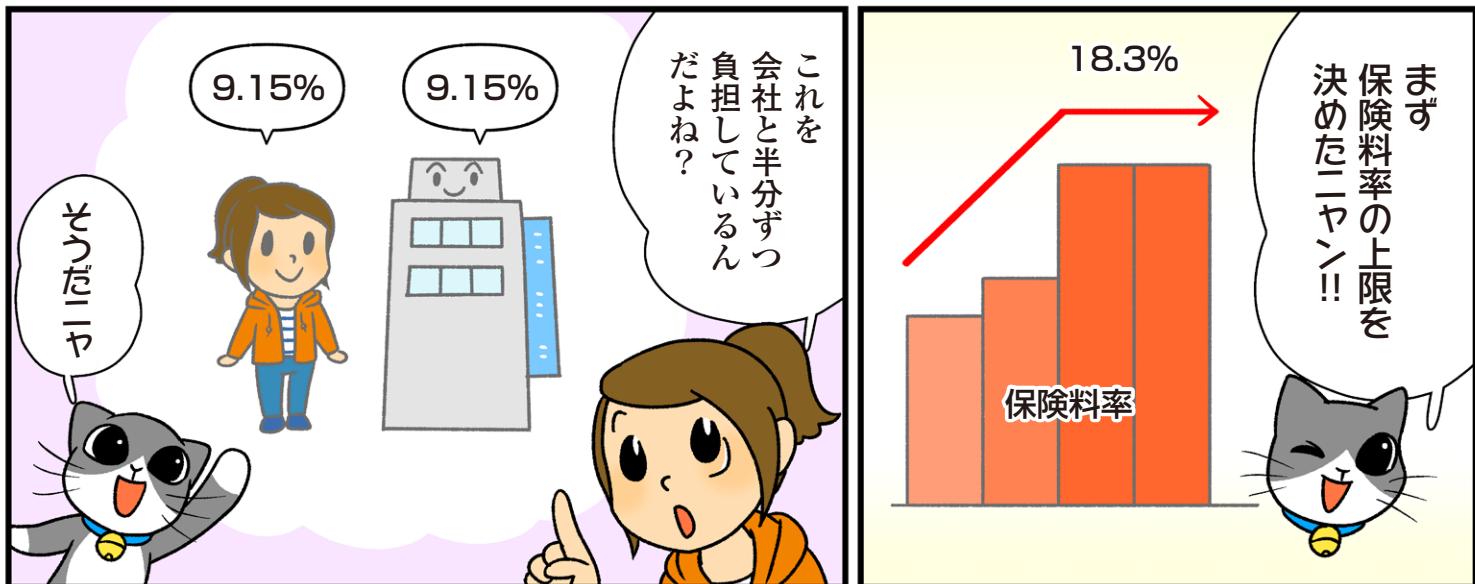
Q.07

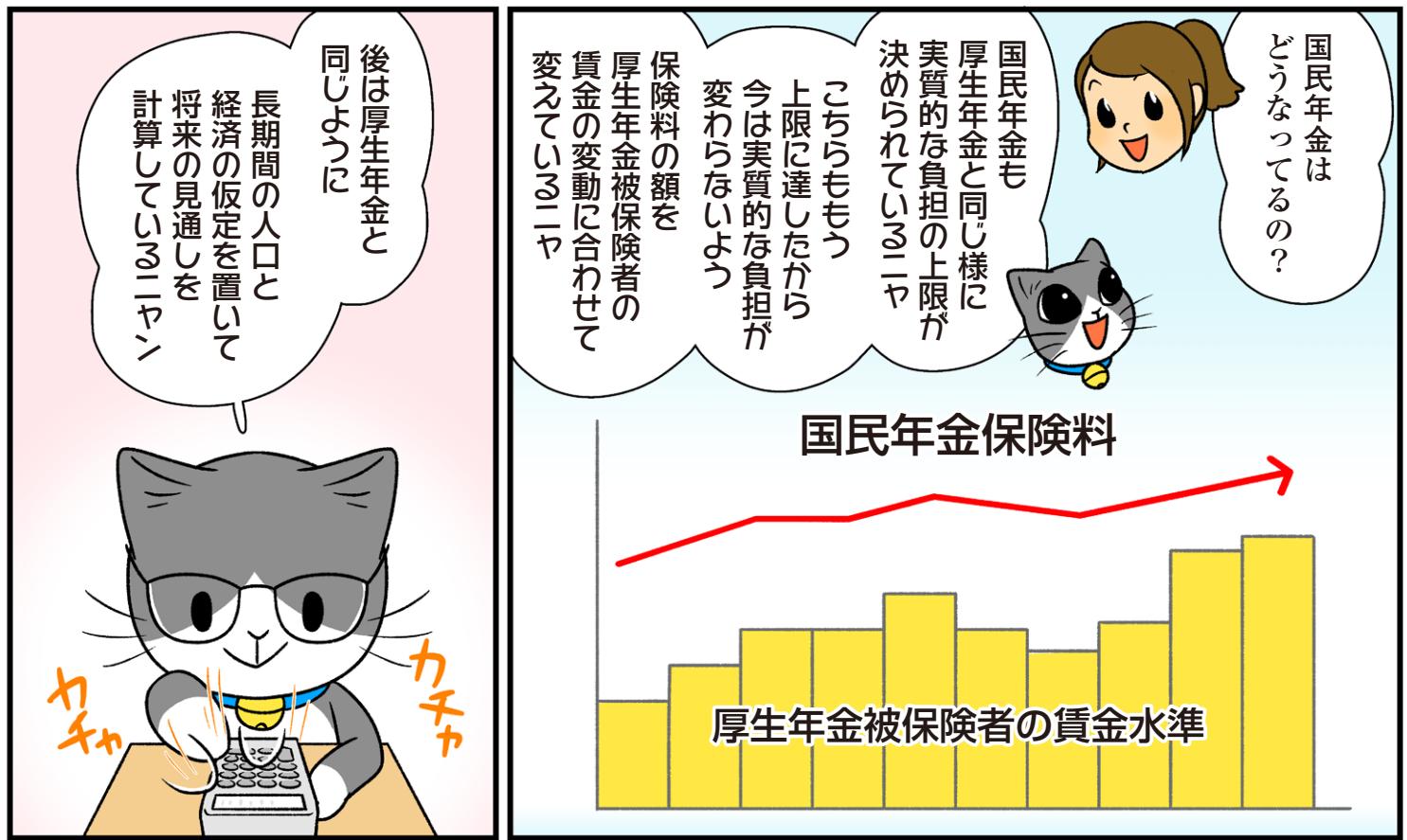
少子高齢化が進むと保険料率を もっと上げないといけないの？

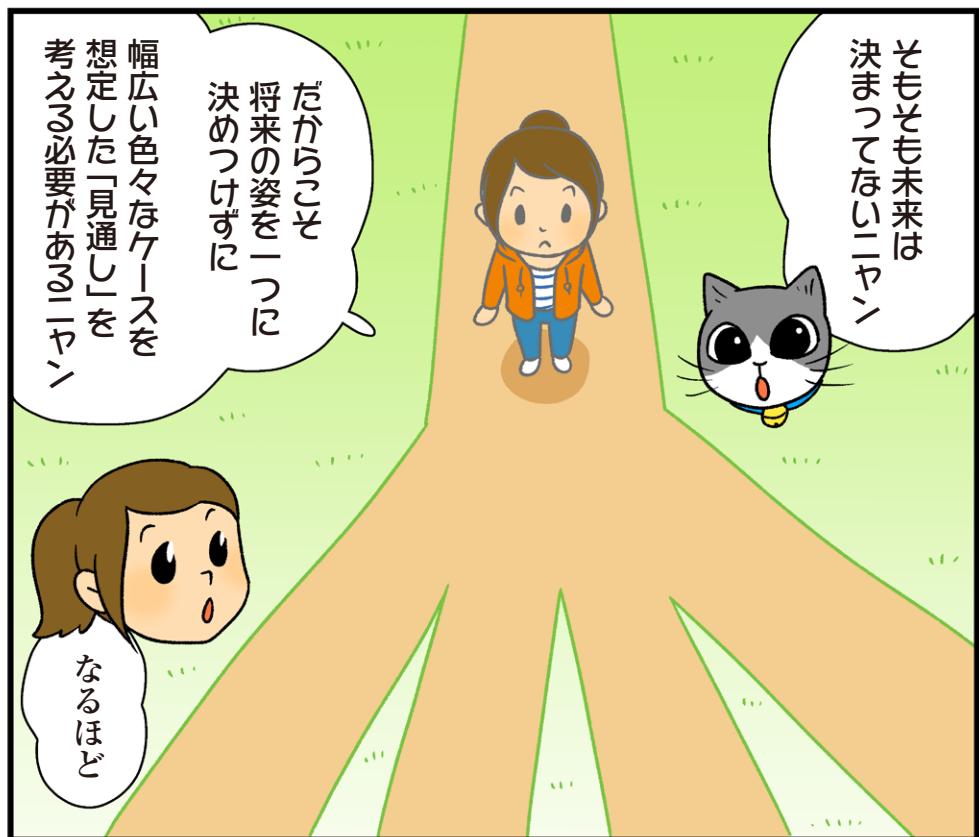
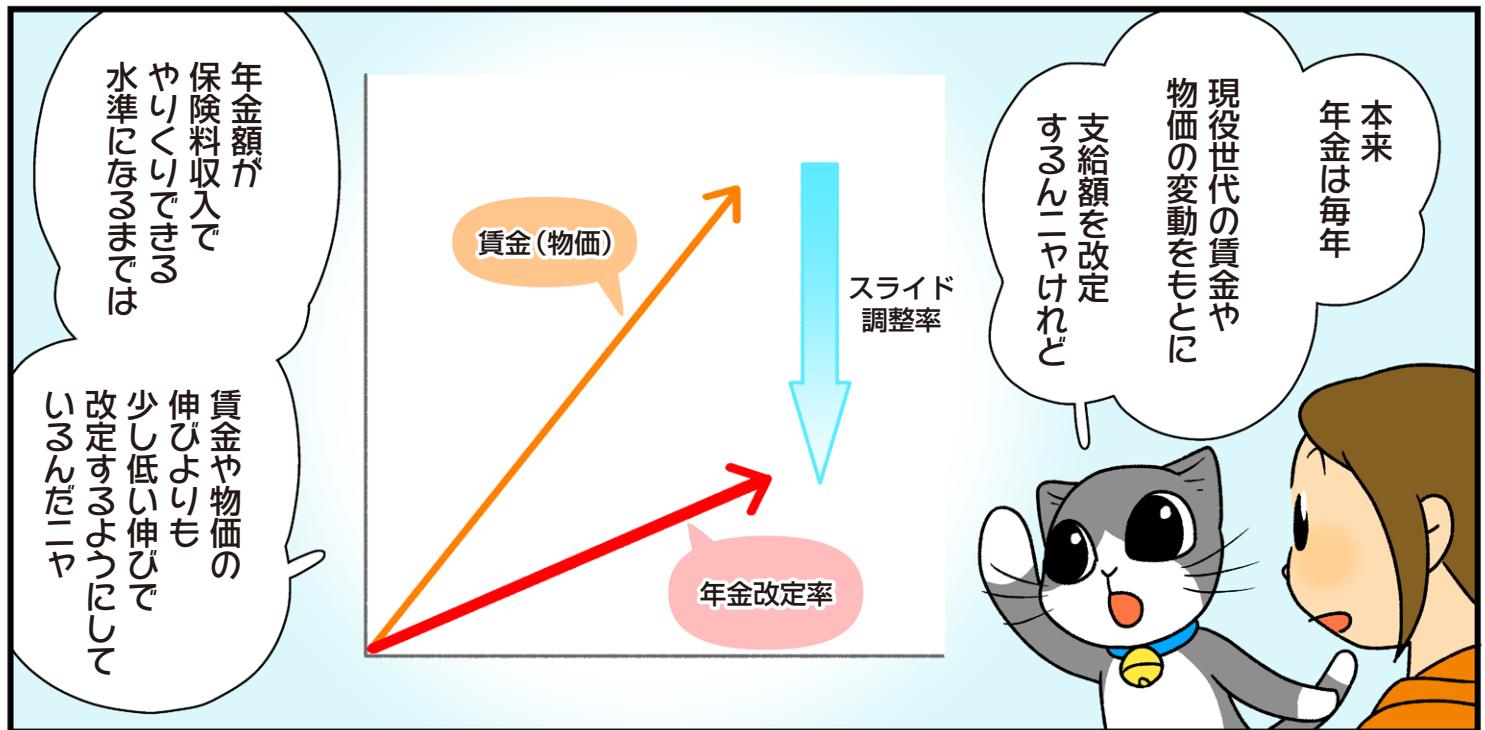


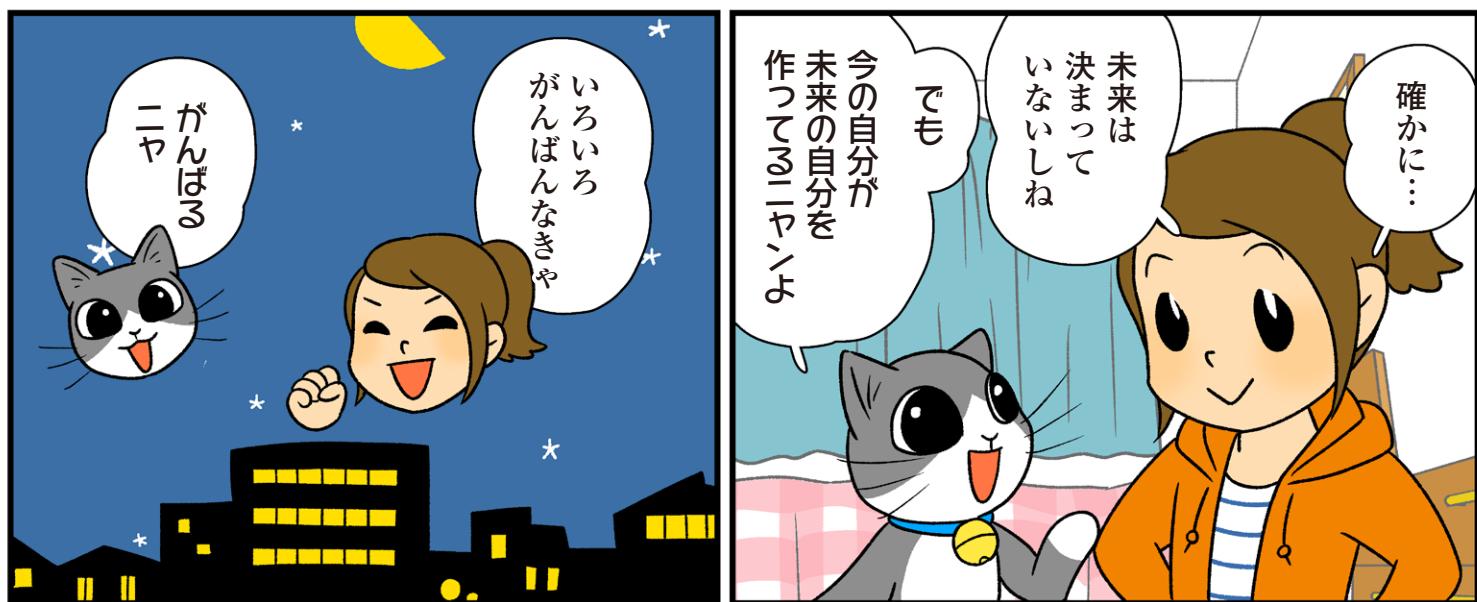
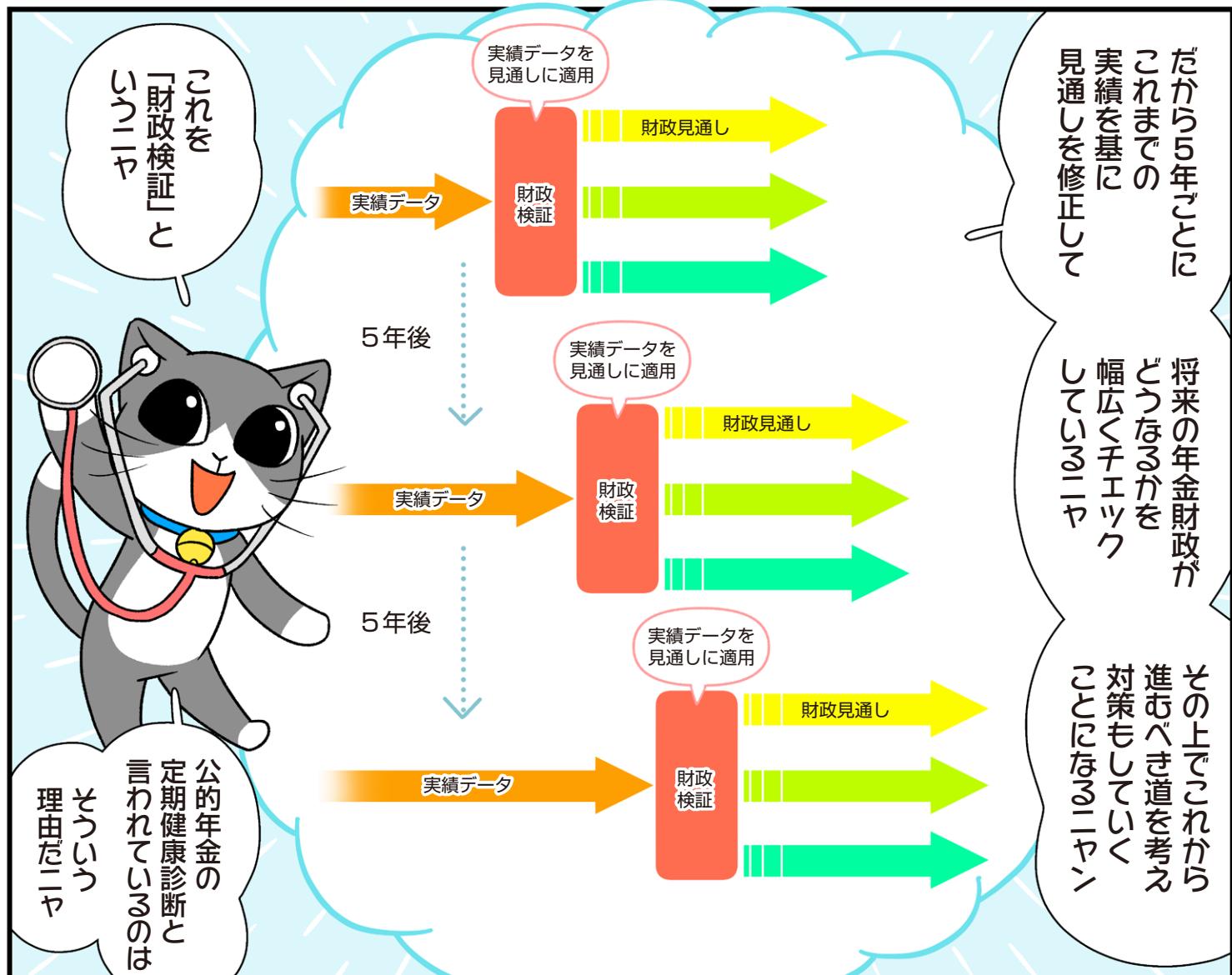












A.07

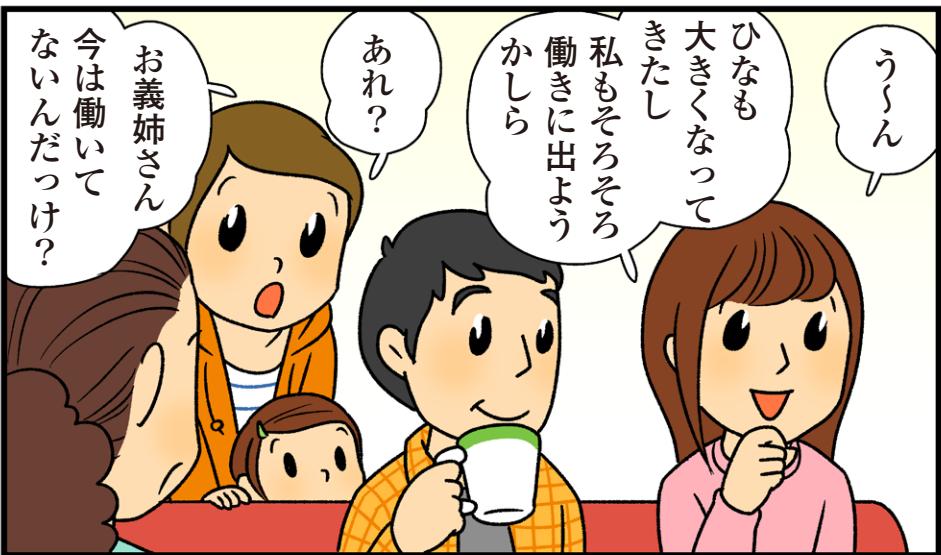
これ以上保険料水準は上げないことにしている。そのかわり、給付額の伸びを少しずつおさえる仕組みが導入された。収入(と積立金)の範囲でどれだけの年金を支払える見通しかを定期的に確認している。

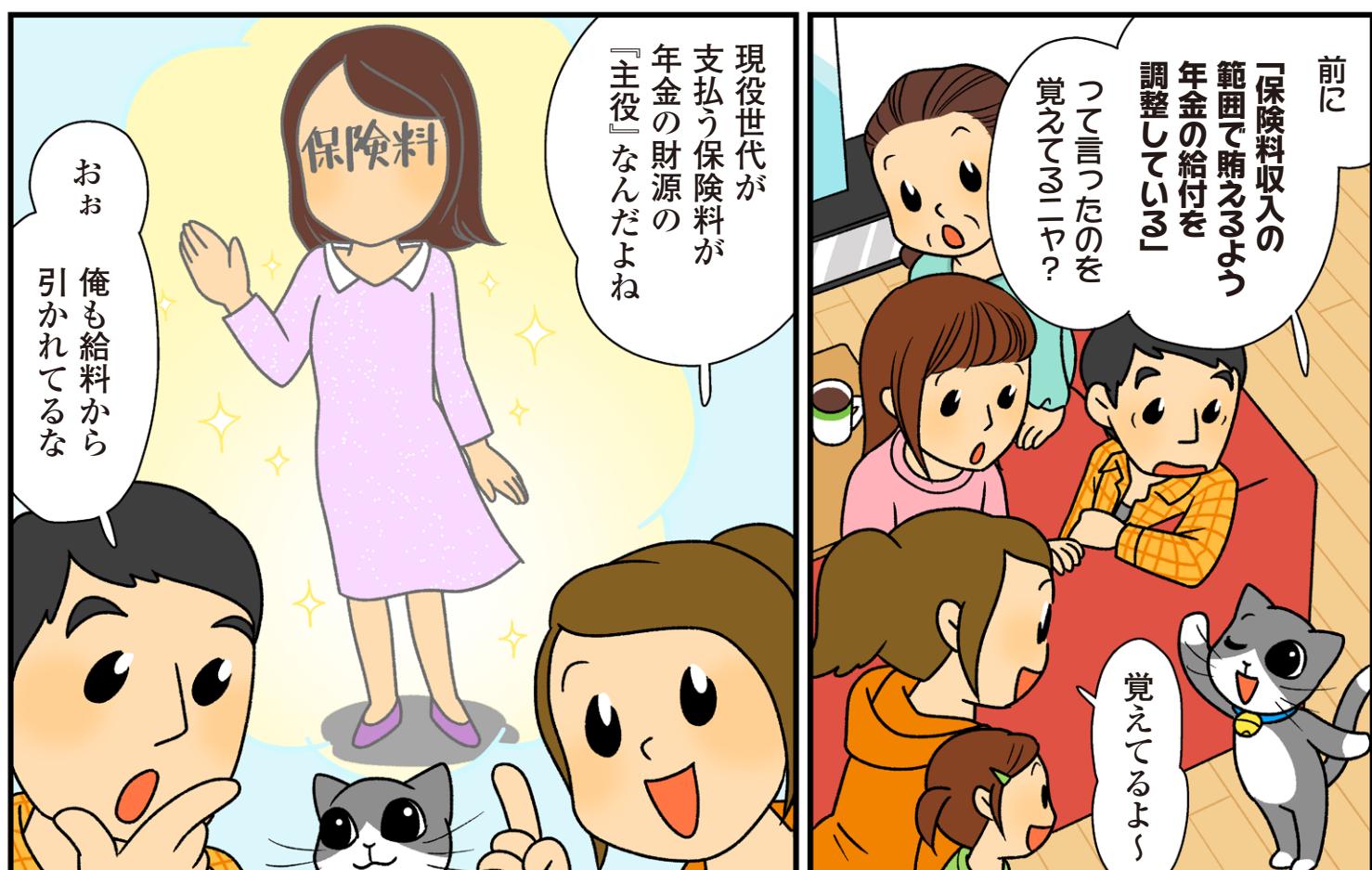
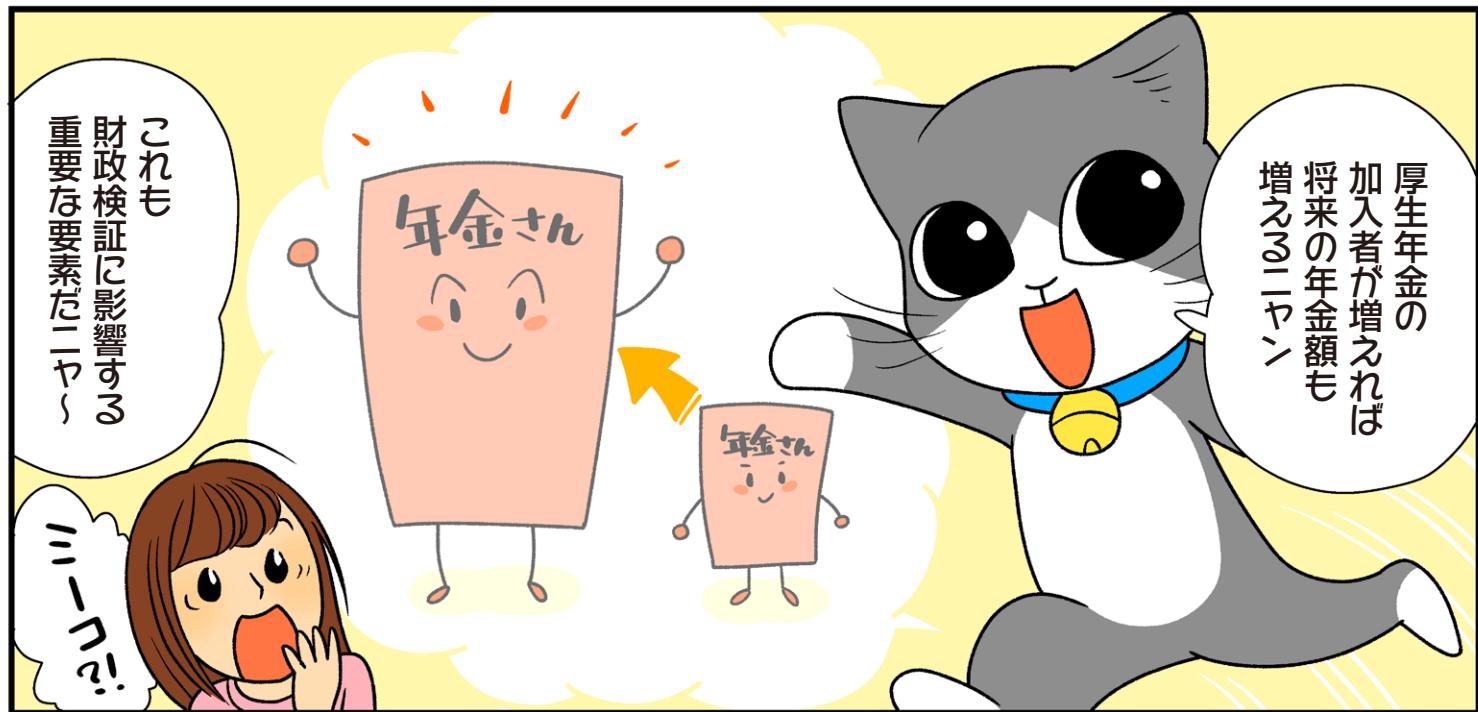




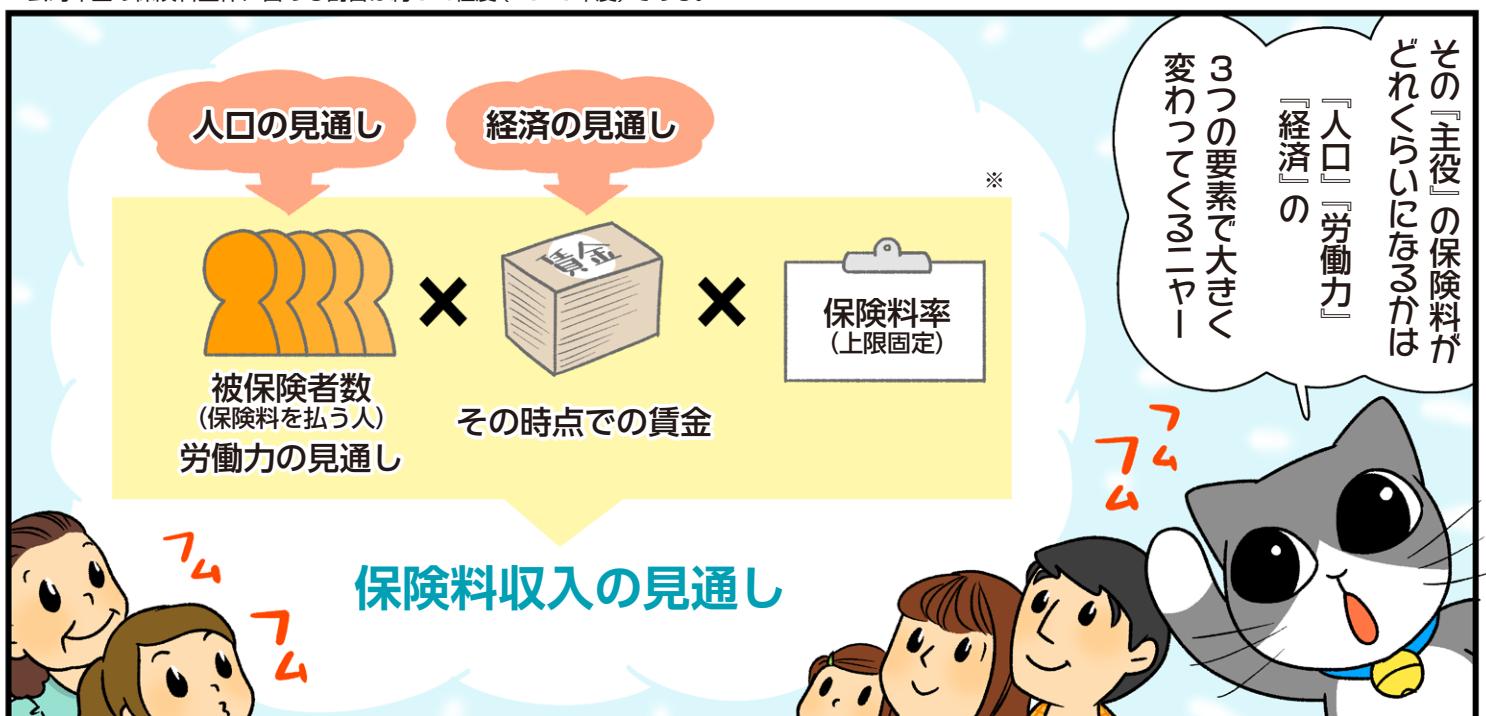
Q.08

どんな未来になれば、私たちが受け取る年金はより充実するの？

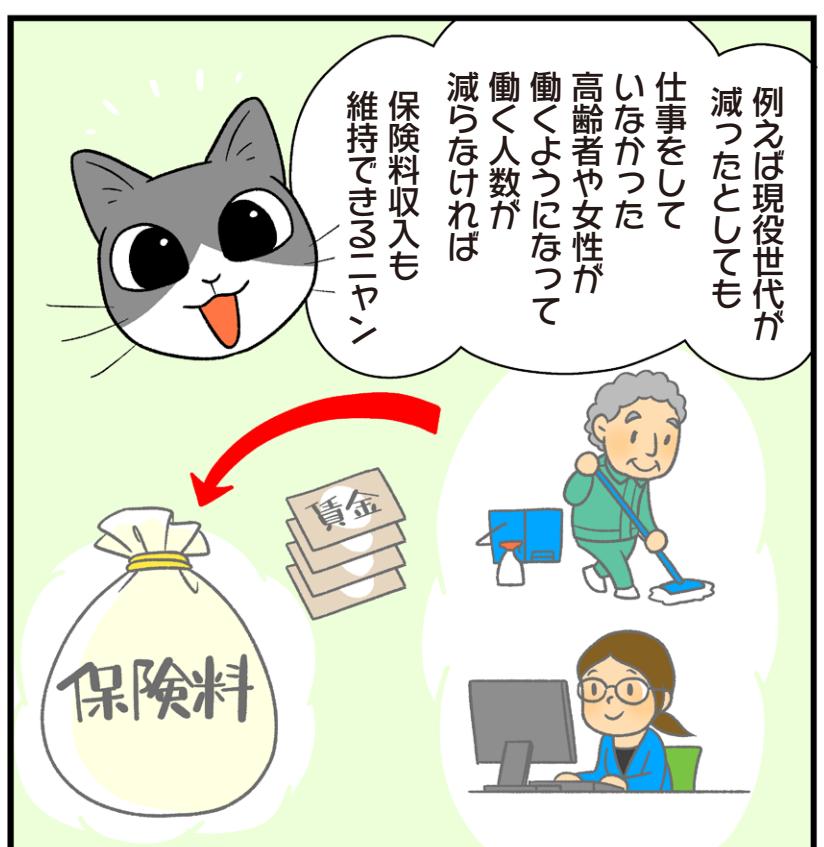


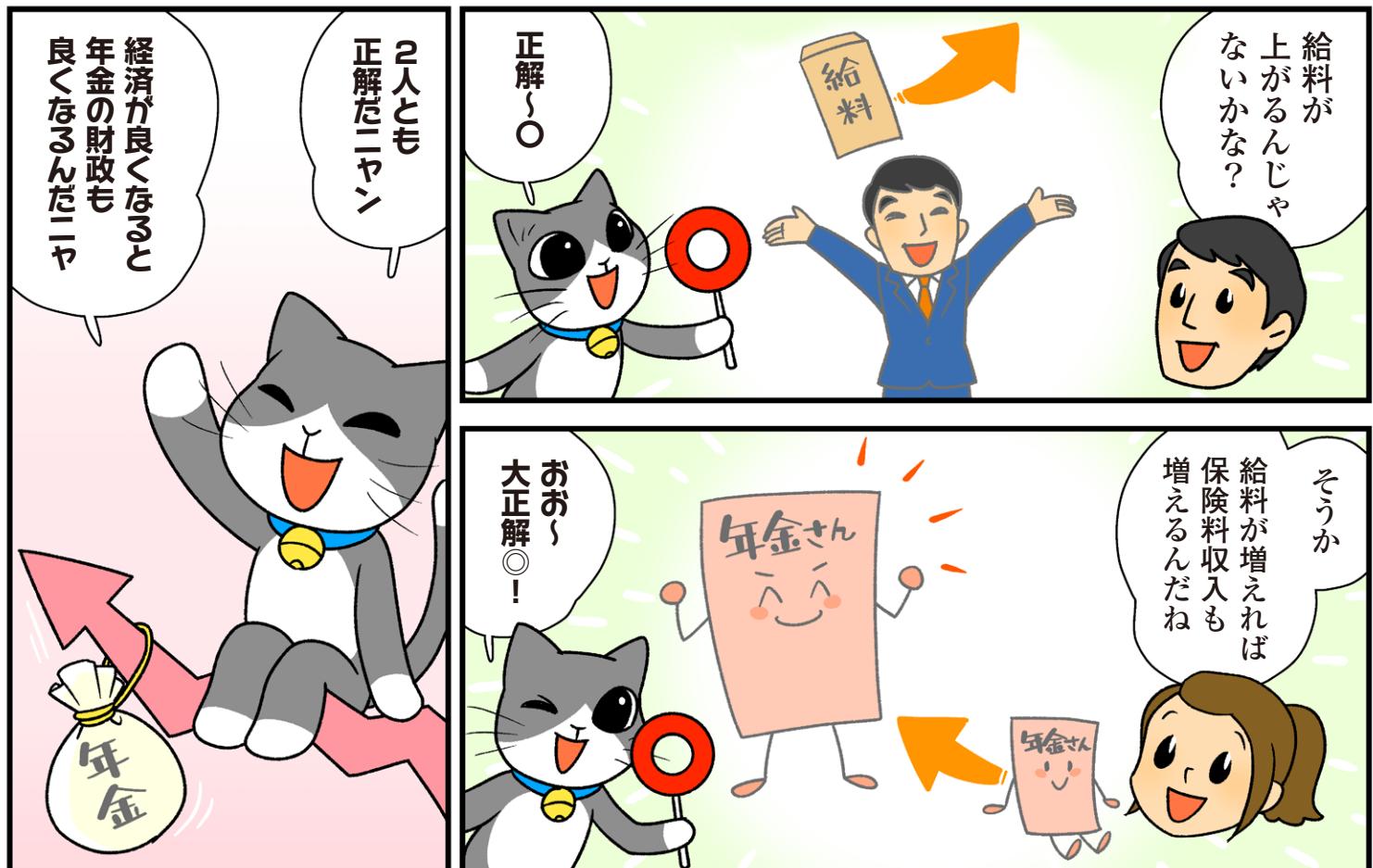
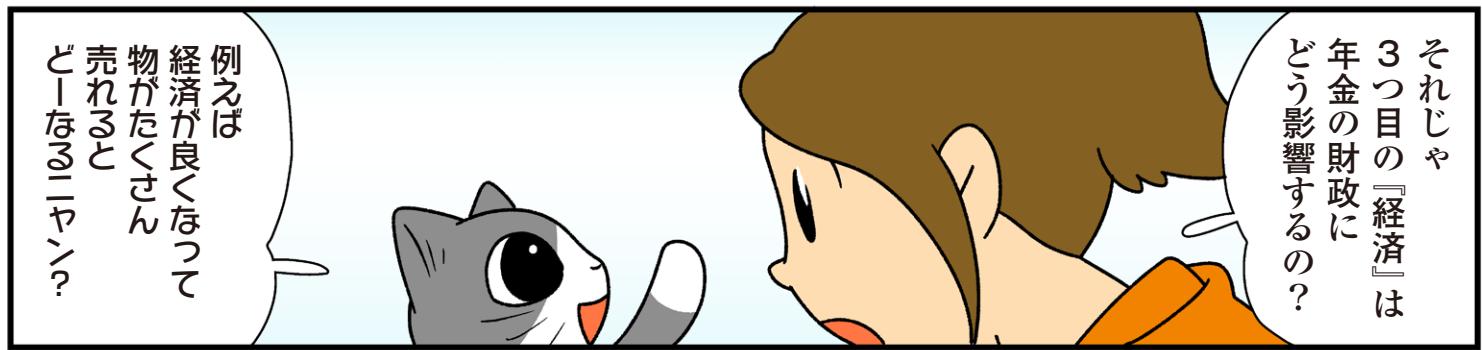
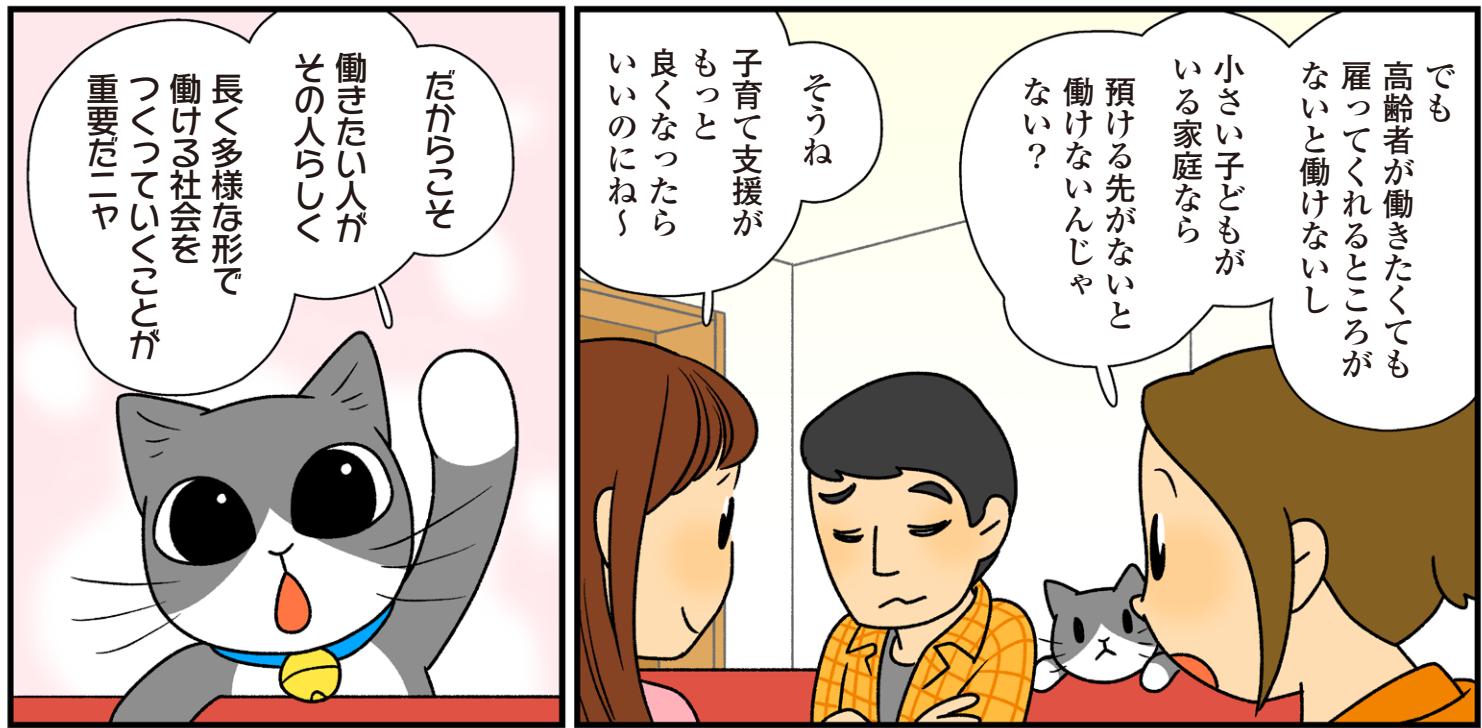


※イメージは厚生年金保険のもの。国民年金の保険料は、収入にかかわらず定額(賃金スライドあり)であるが、
公的年金の保険料全体に占める割合は約3%程度(2020年度)である。



保険料収入の見通し





人口と労働力、
経済が大事なのは
分かったけど
これから一体
どうなるの？

将来は色々な
パターンが
考えられるから
財政検証では
起こりうるたくさんの
ケースを幅広く
考えている二ヤン

未来はまだ
決まってない
ニヤ



A.08

より多くの人が働き、経済を成長させれば、私たち
が受け取る年金も増える。



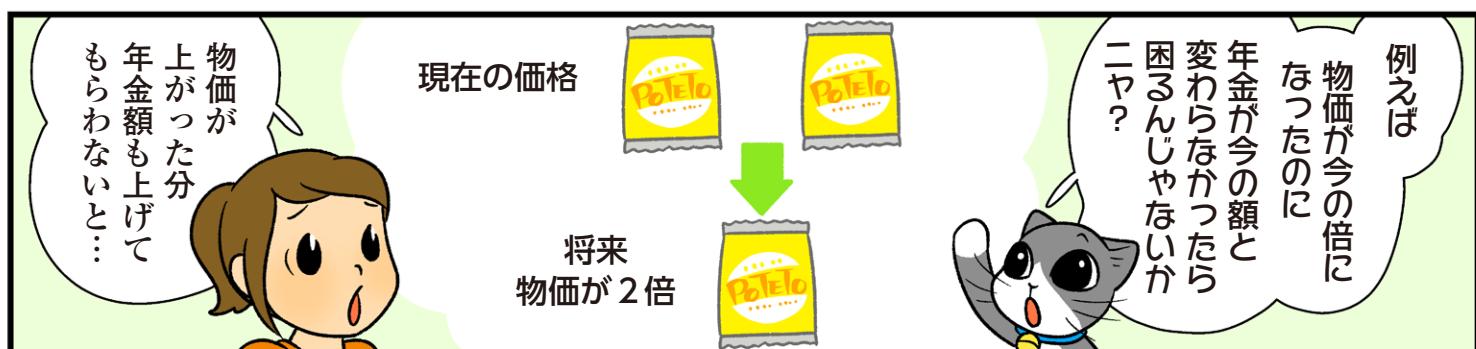
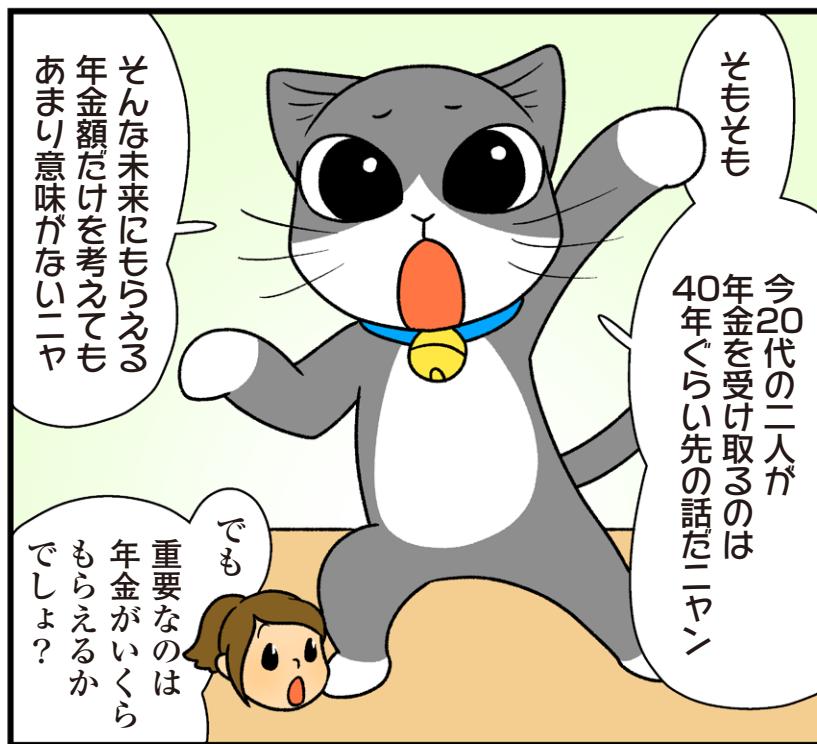


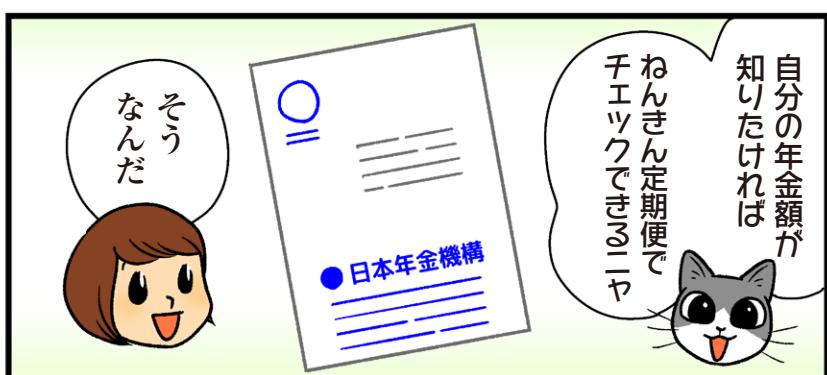
Q.09

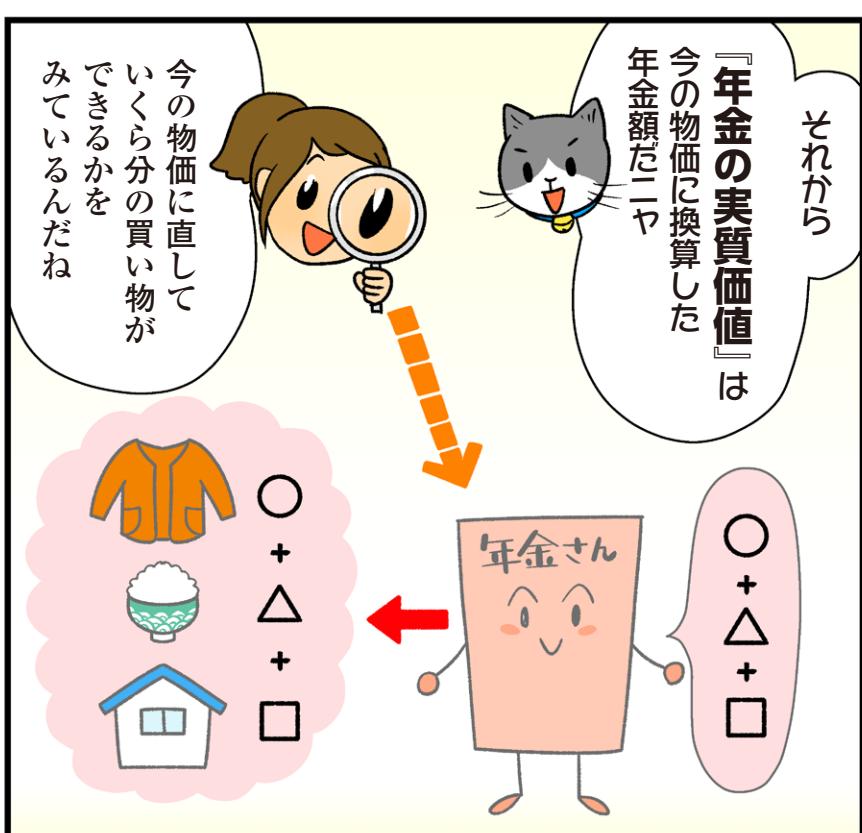
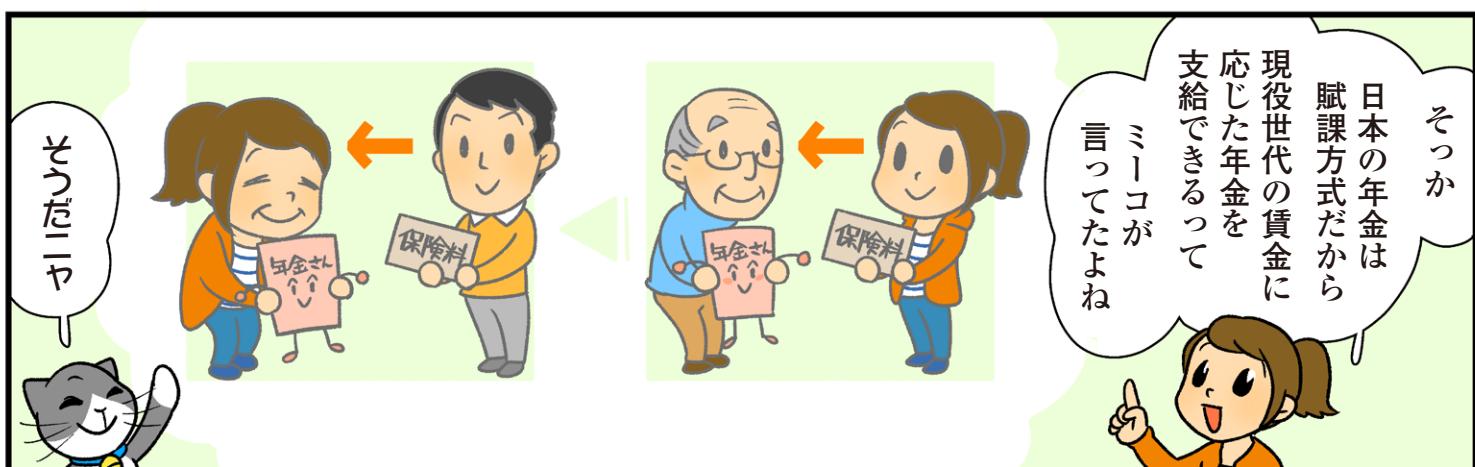
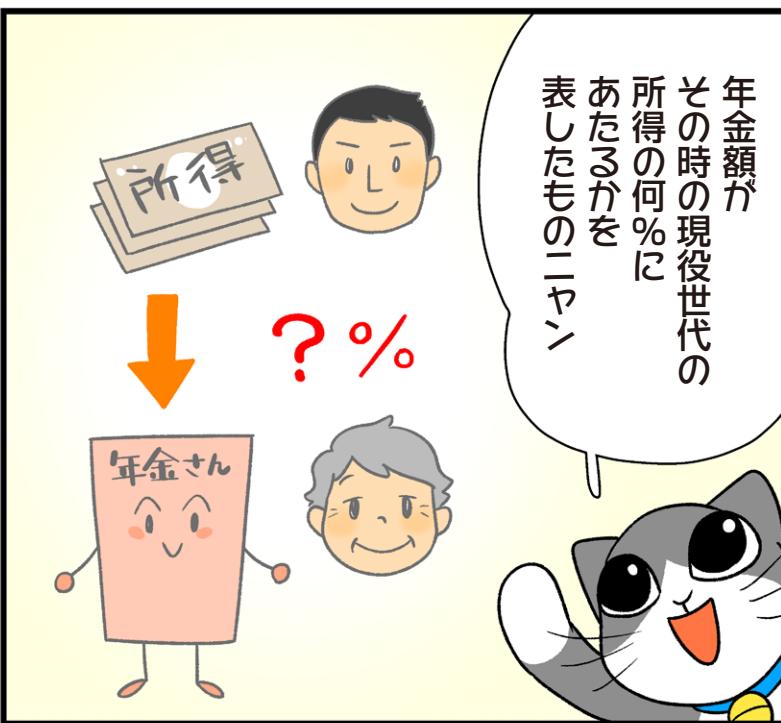
財政検証では、将来の年金の何をチェックしているの？

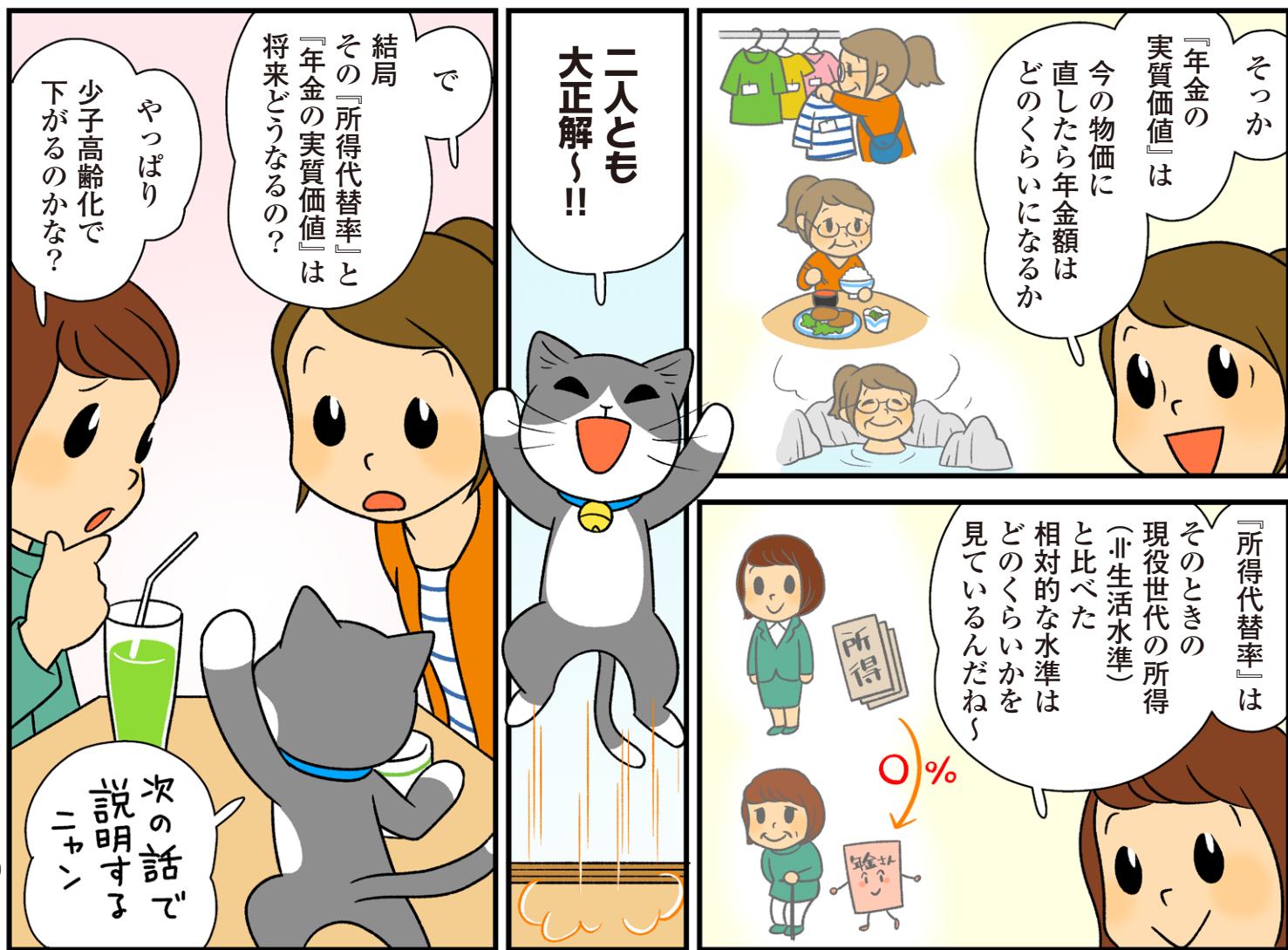
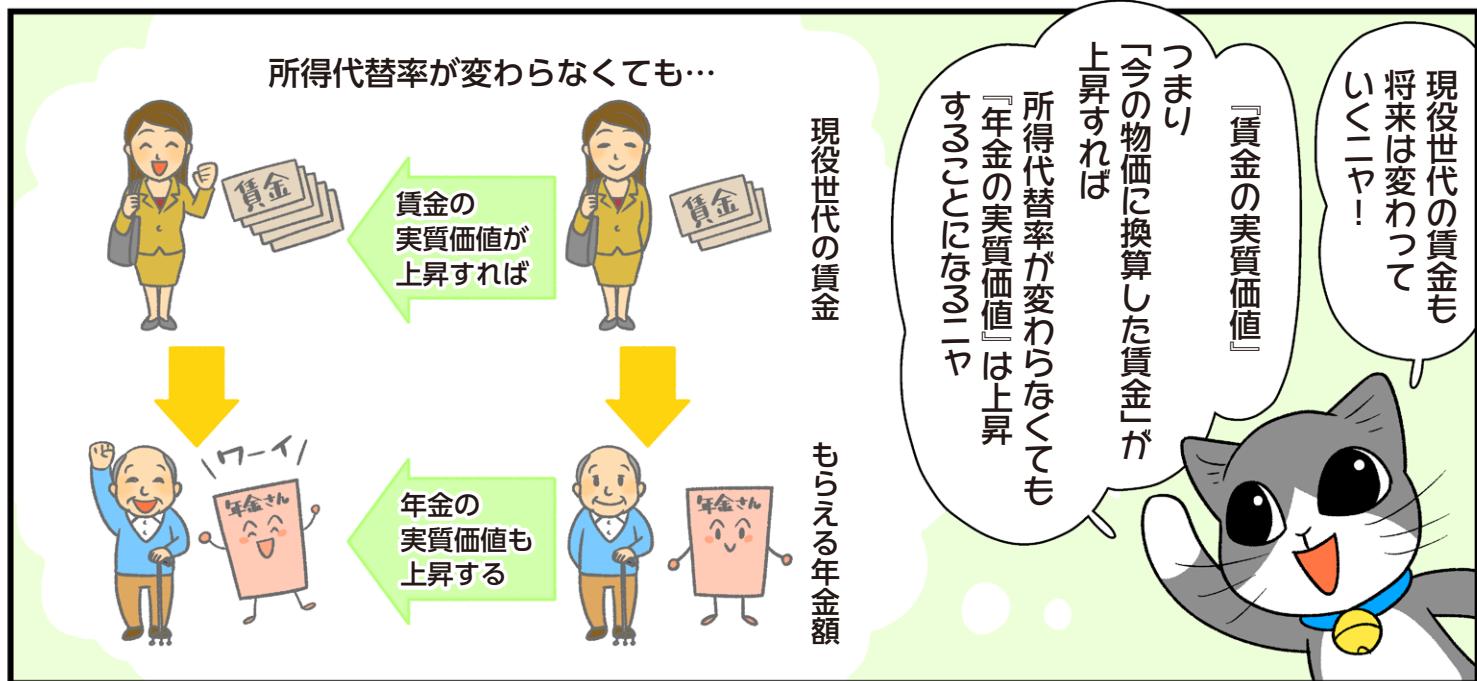


※詳しくは4~7話を参照









A.09

財政検証では、将来の年金額がその時の現役世代の所得の何%かを示す「所得代替率」と、将来の年金額を現在の物価に換算した「年金の実質価値」、この2つをチェックしている。

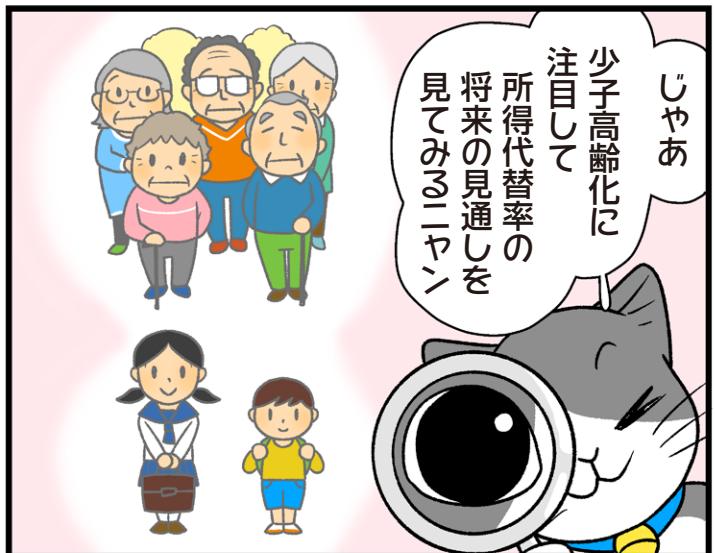
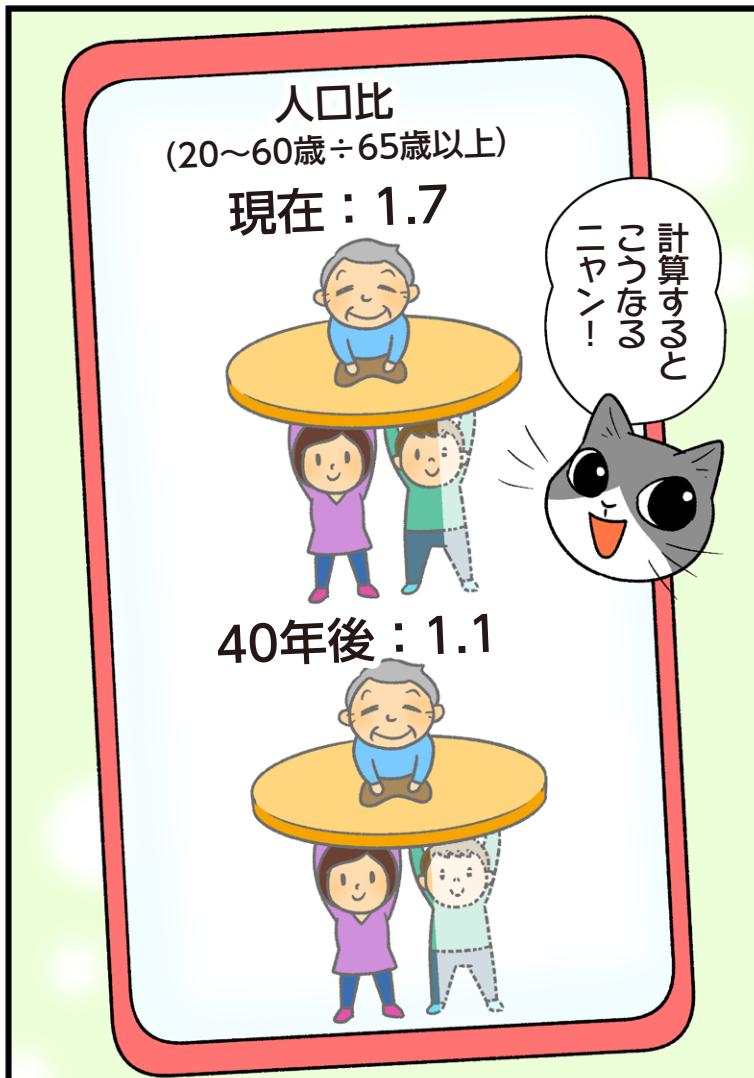


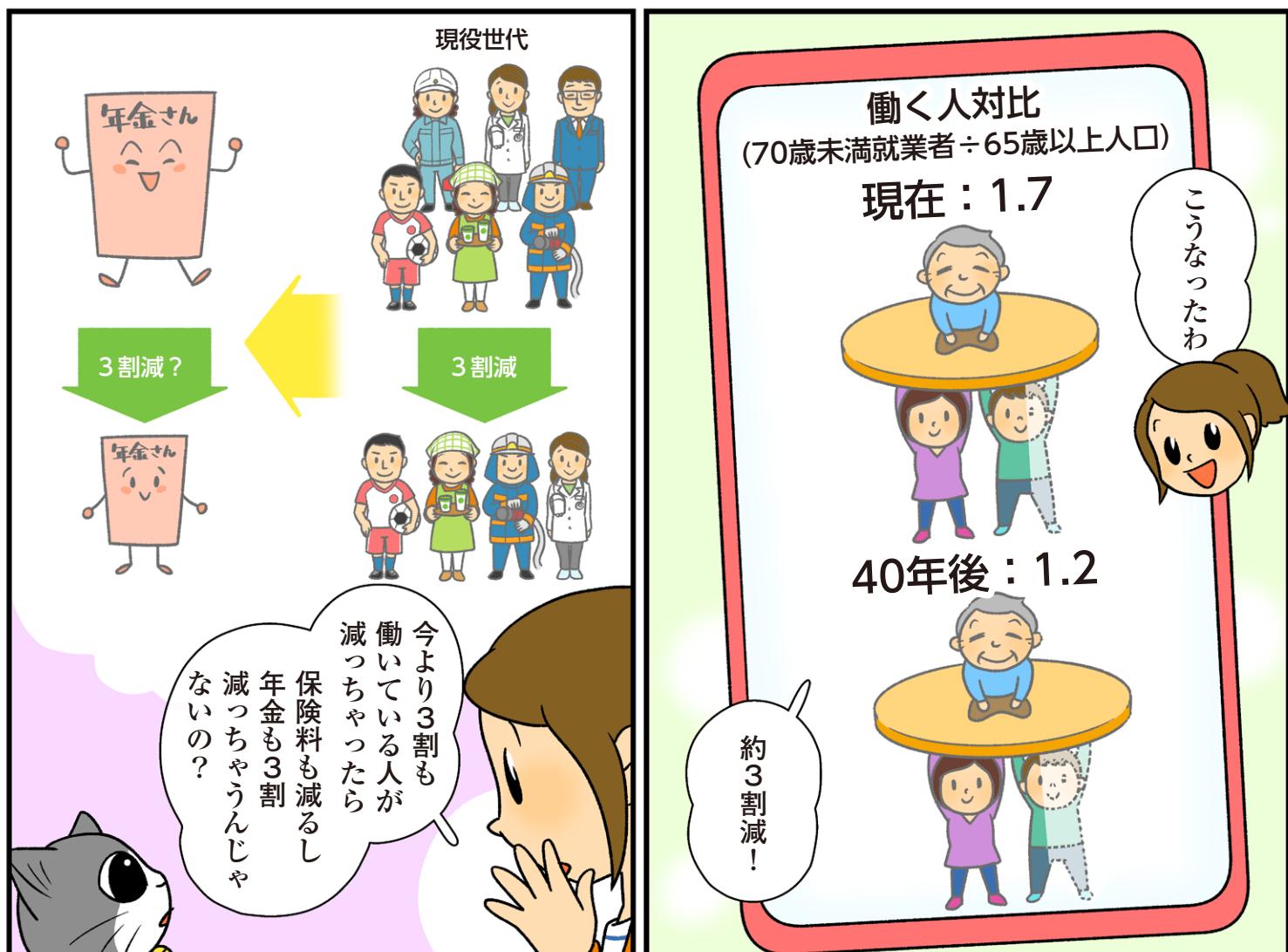
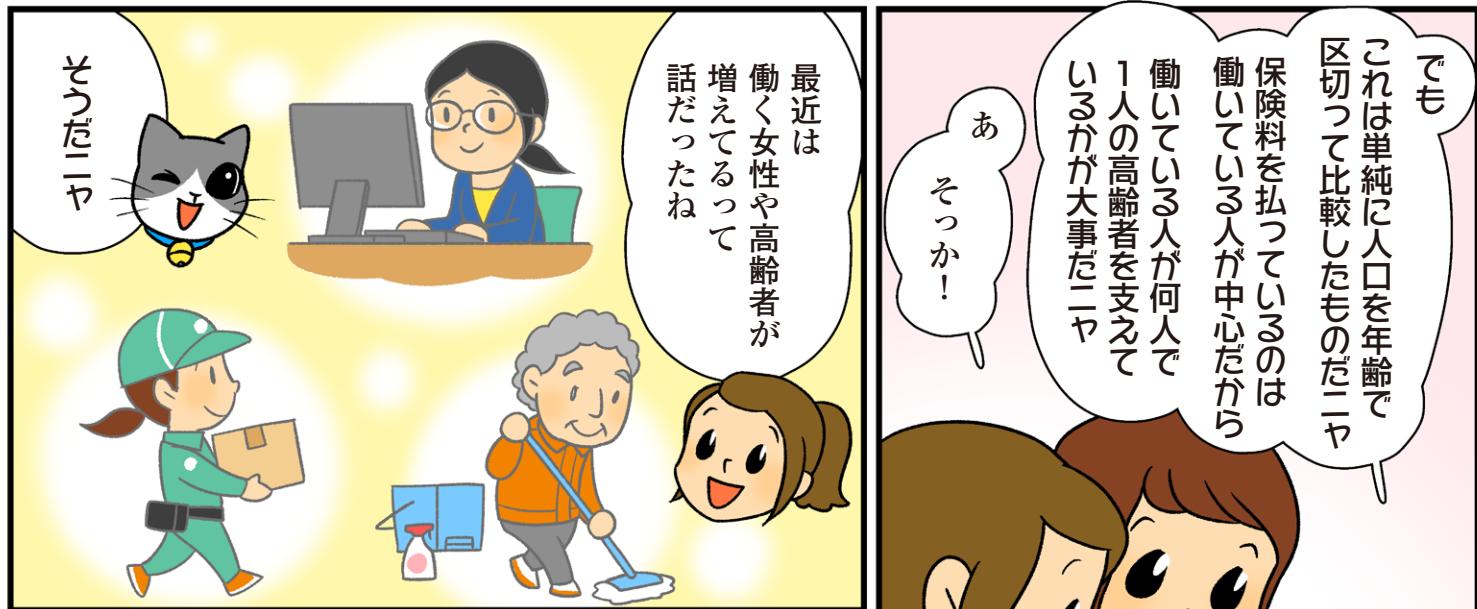


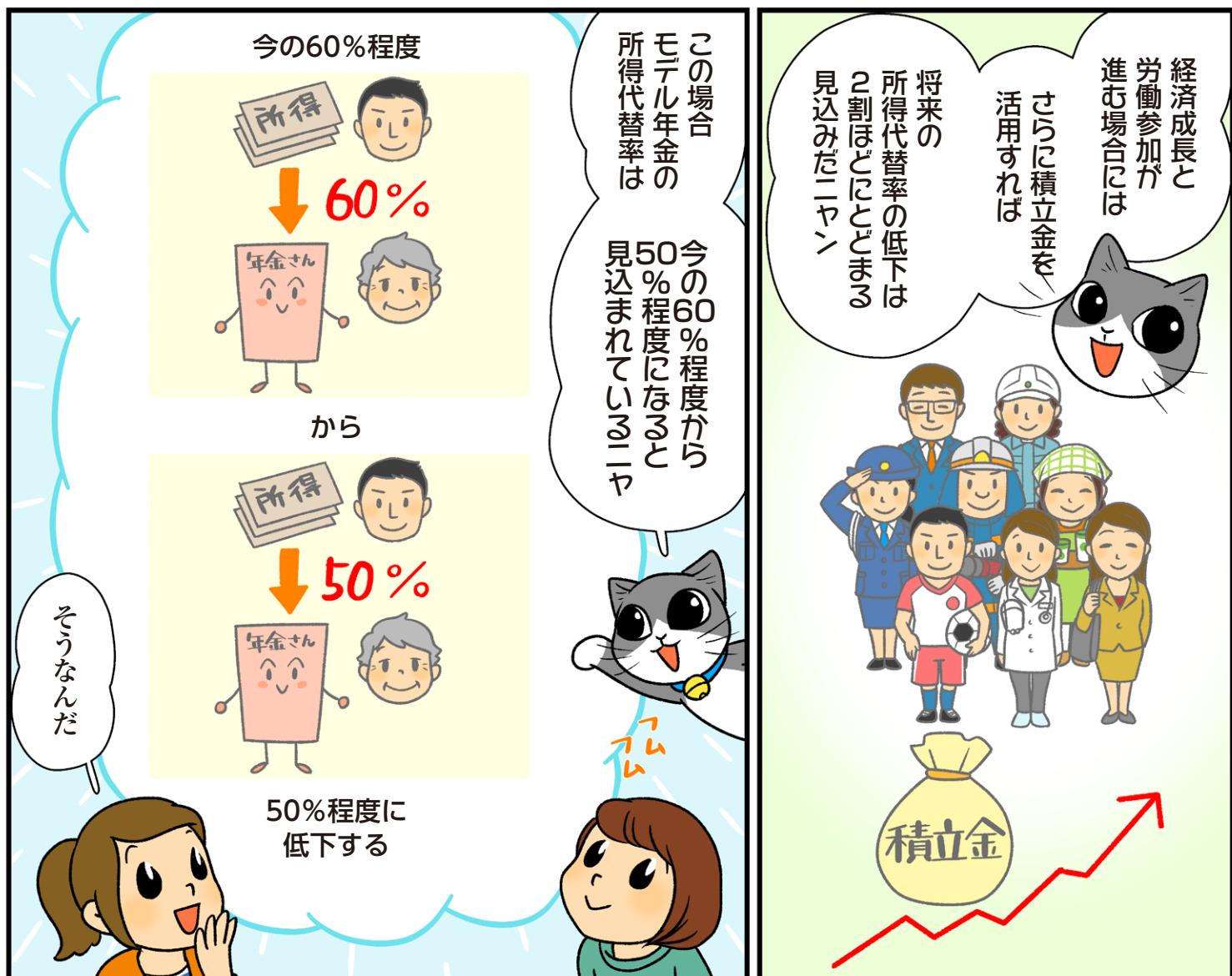
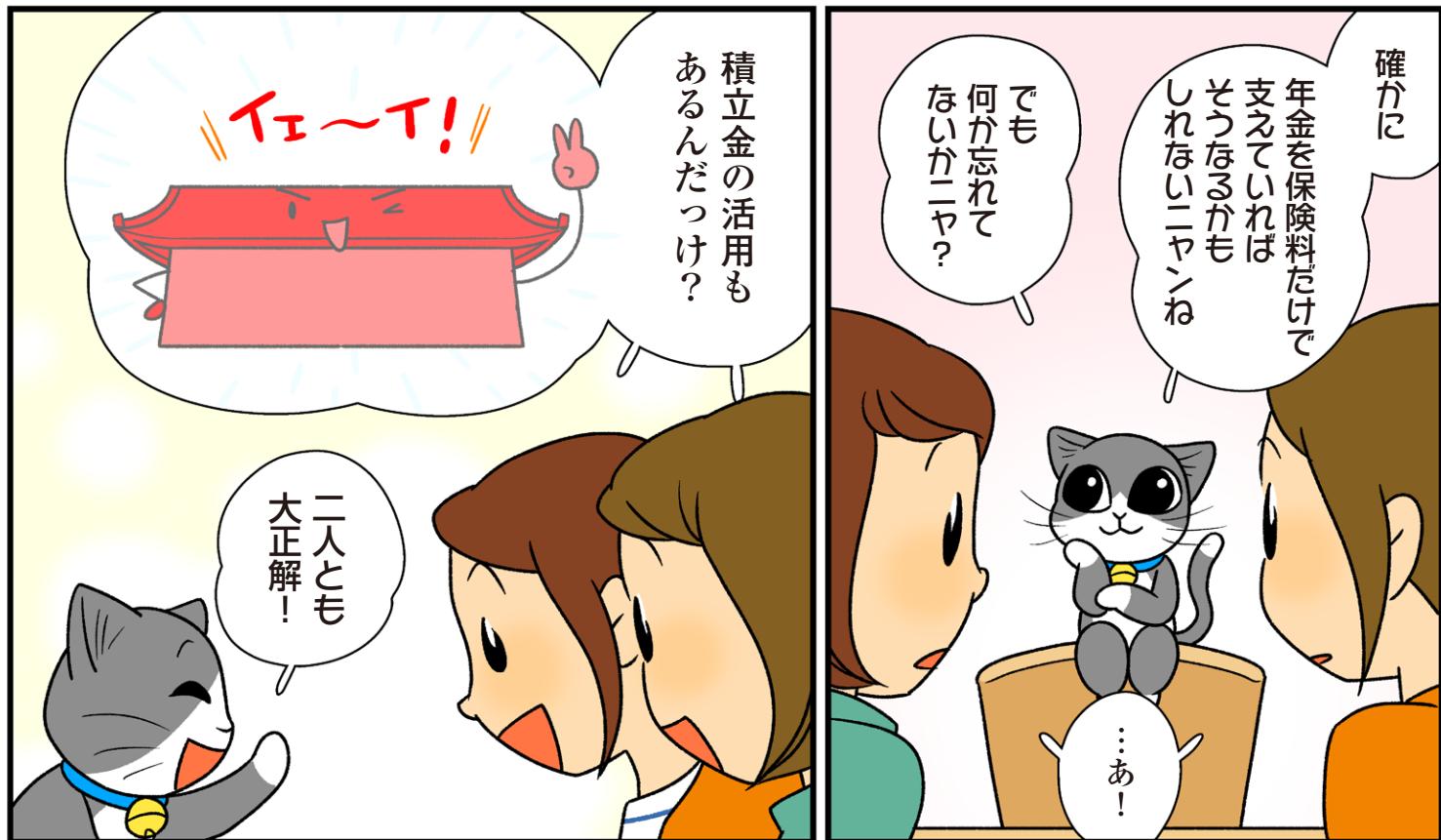
Q.10

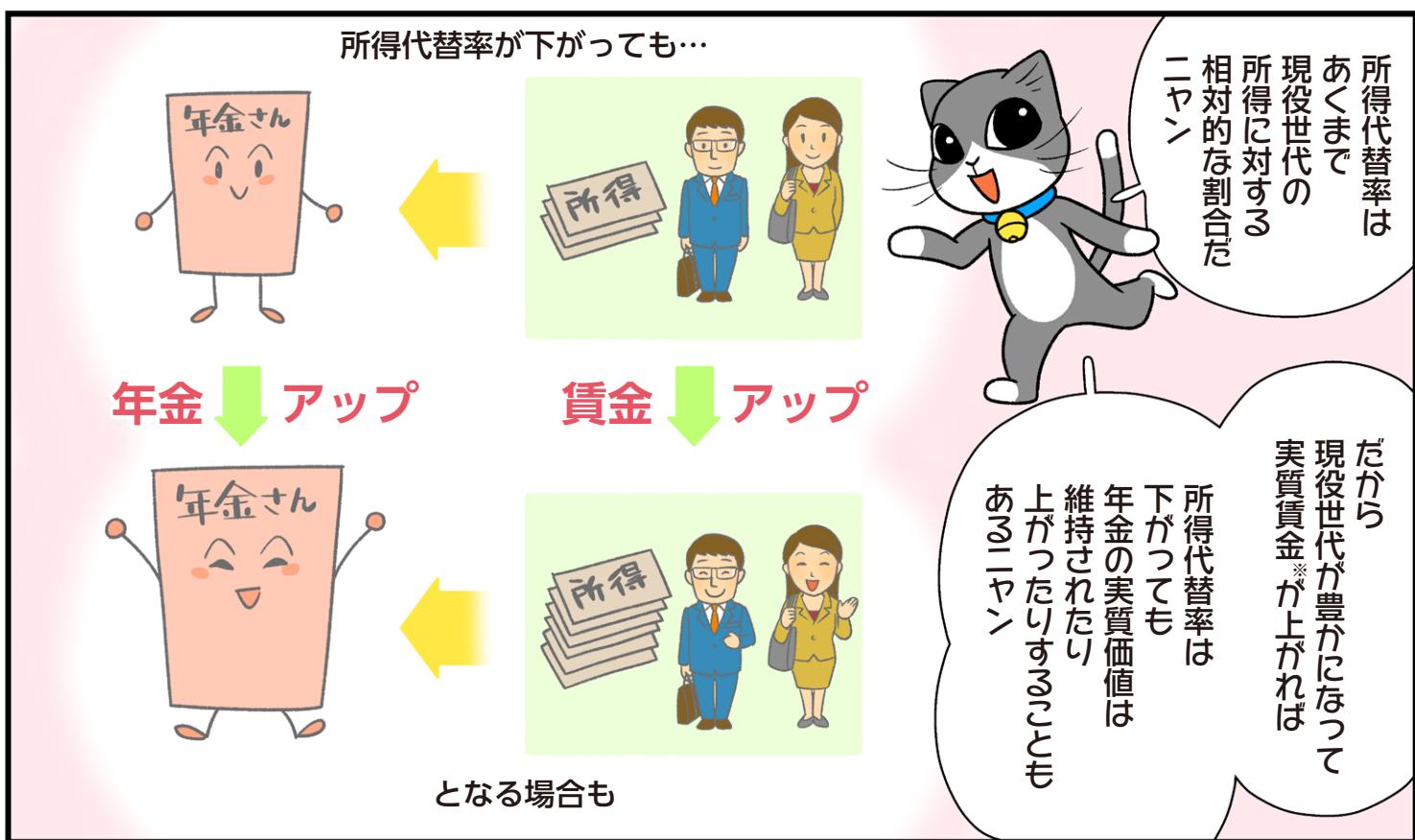
少子高齢化が進んだら将来の「所得代替率」や 「年金の実質価値」はどうなるの？

※所得代替率についてはの話を参照

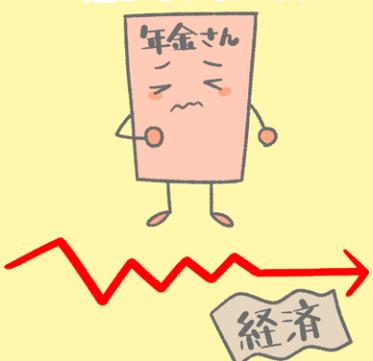




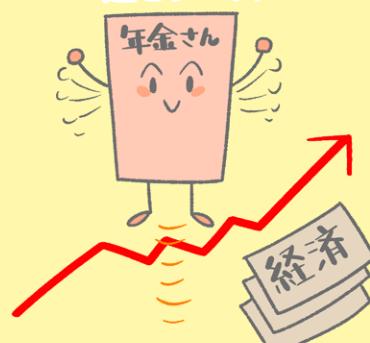




経済成長と労働参加が進まないケース

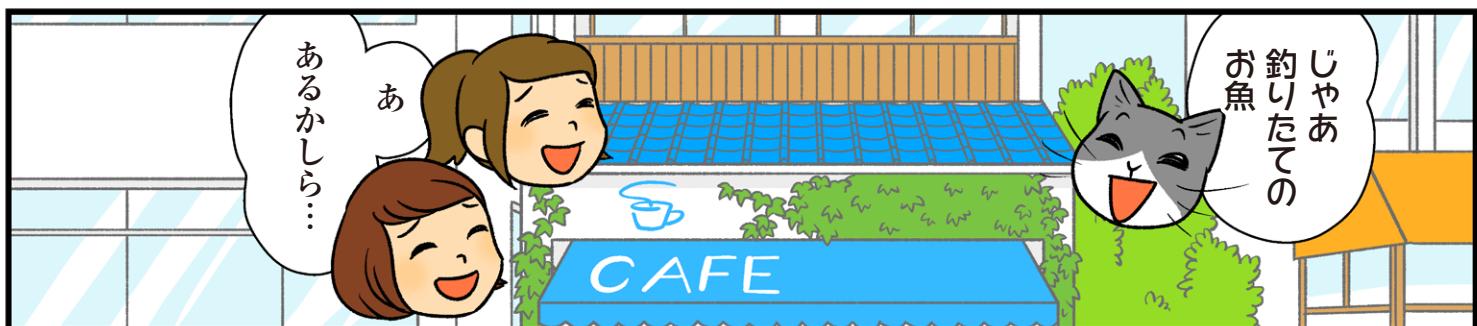


経済成長と労働参加が進むケース



財政検証では色々なケースを想定していてそれぞれのケースでの試算結果を示しているニヤン

などなど…



A.10

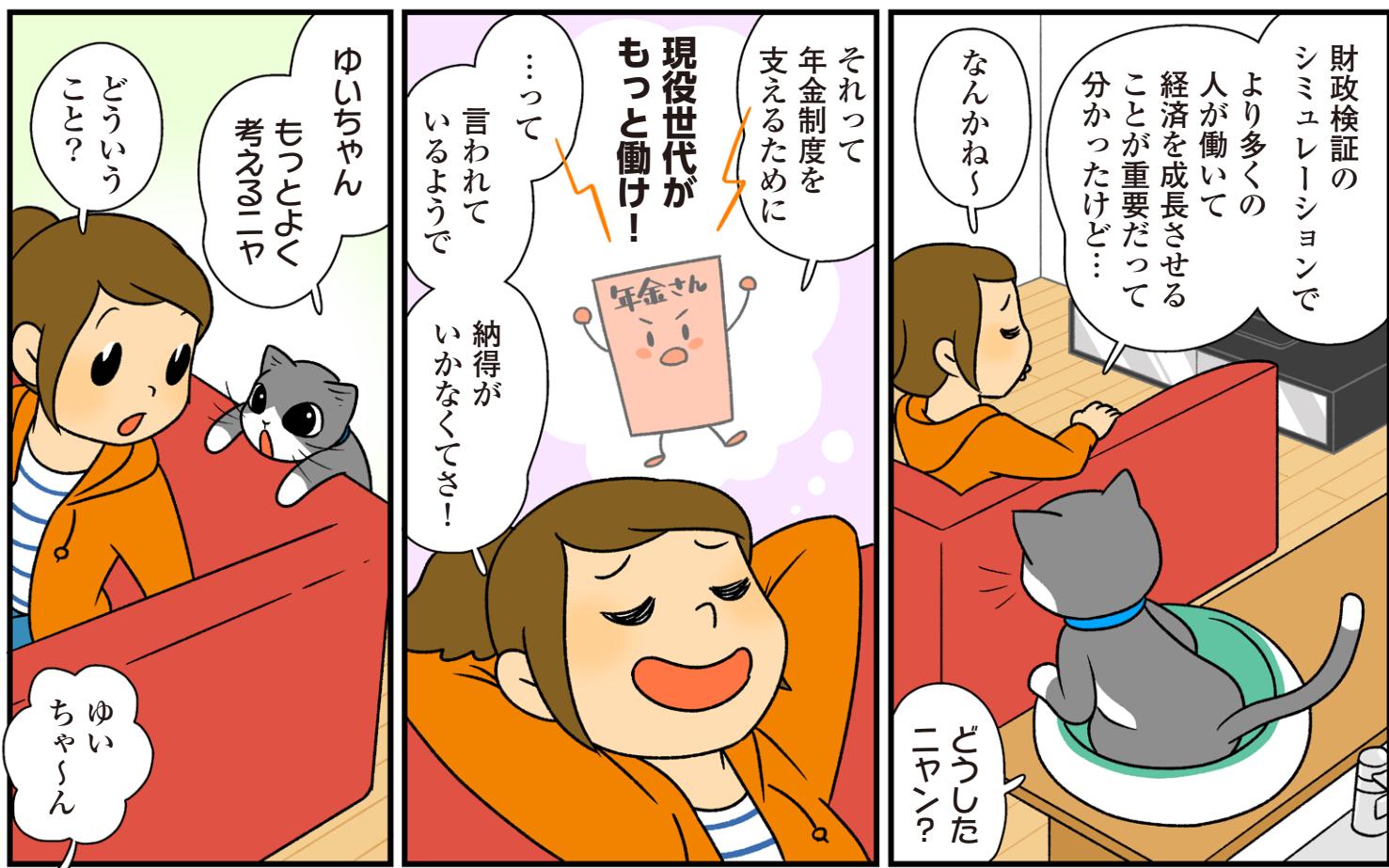
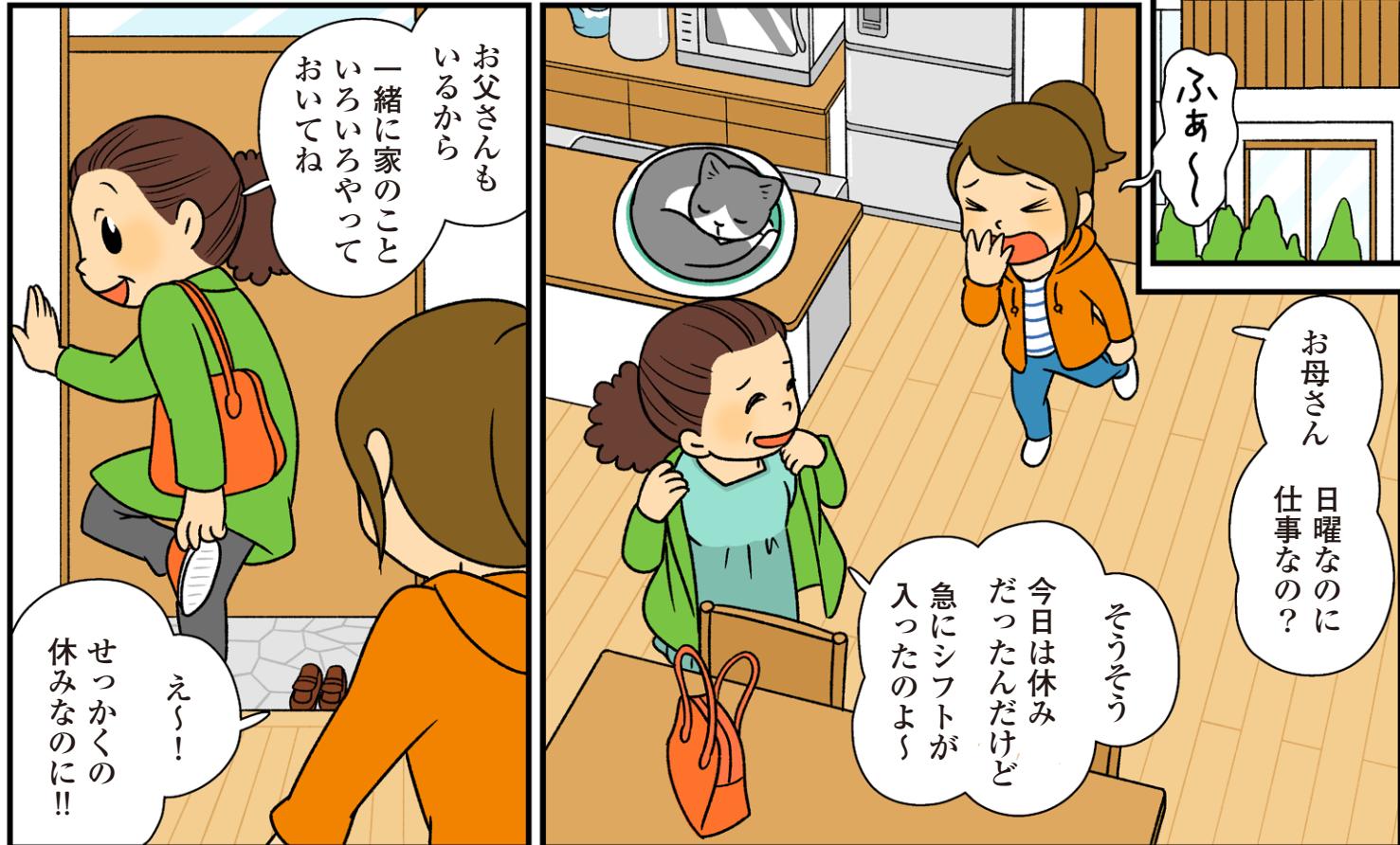
「所得代替率」は、経済成長と労働参加が進む場合、2割程度の低下にとどまる見通し。「年金の実質価値」は、現役世代の実質賃金が上がれば、維持されたり上がり上がったりすることもある。

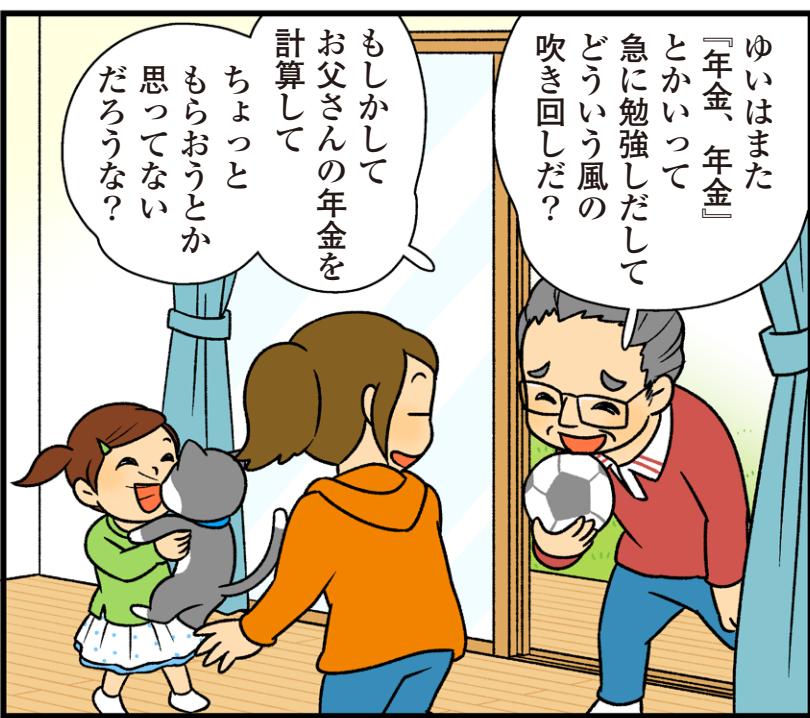
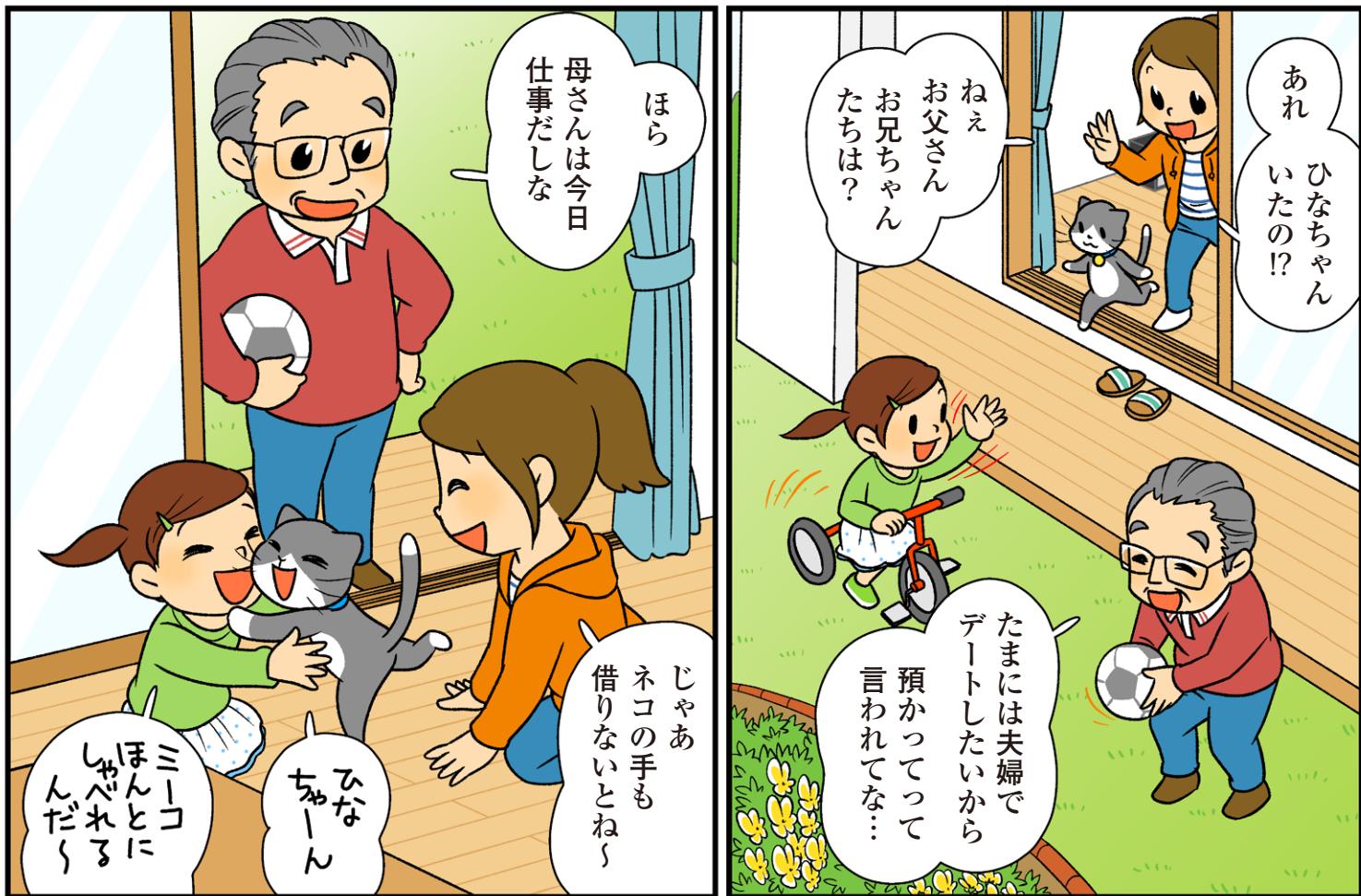


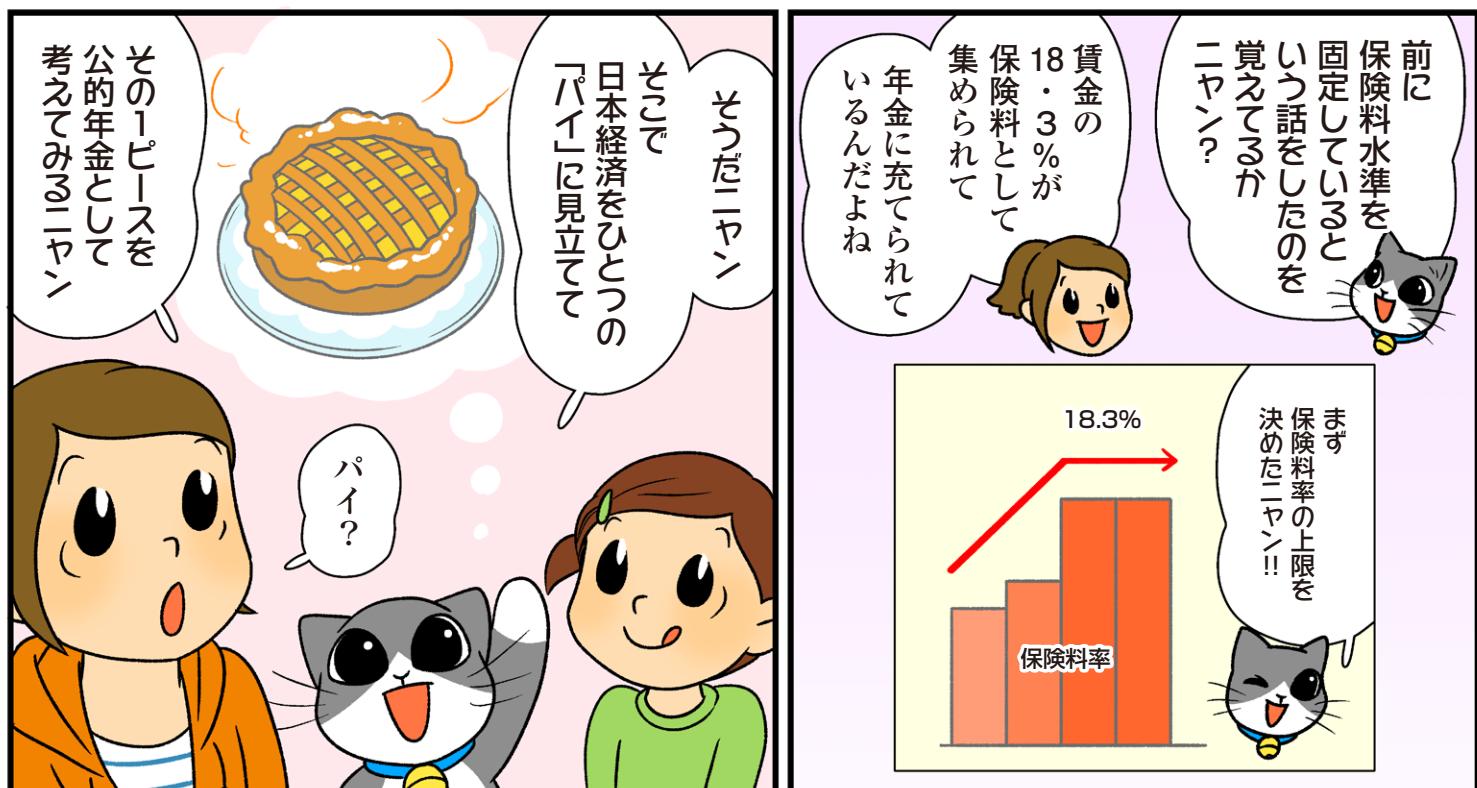
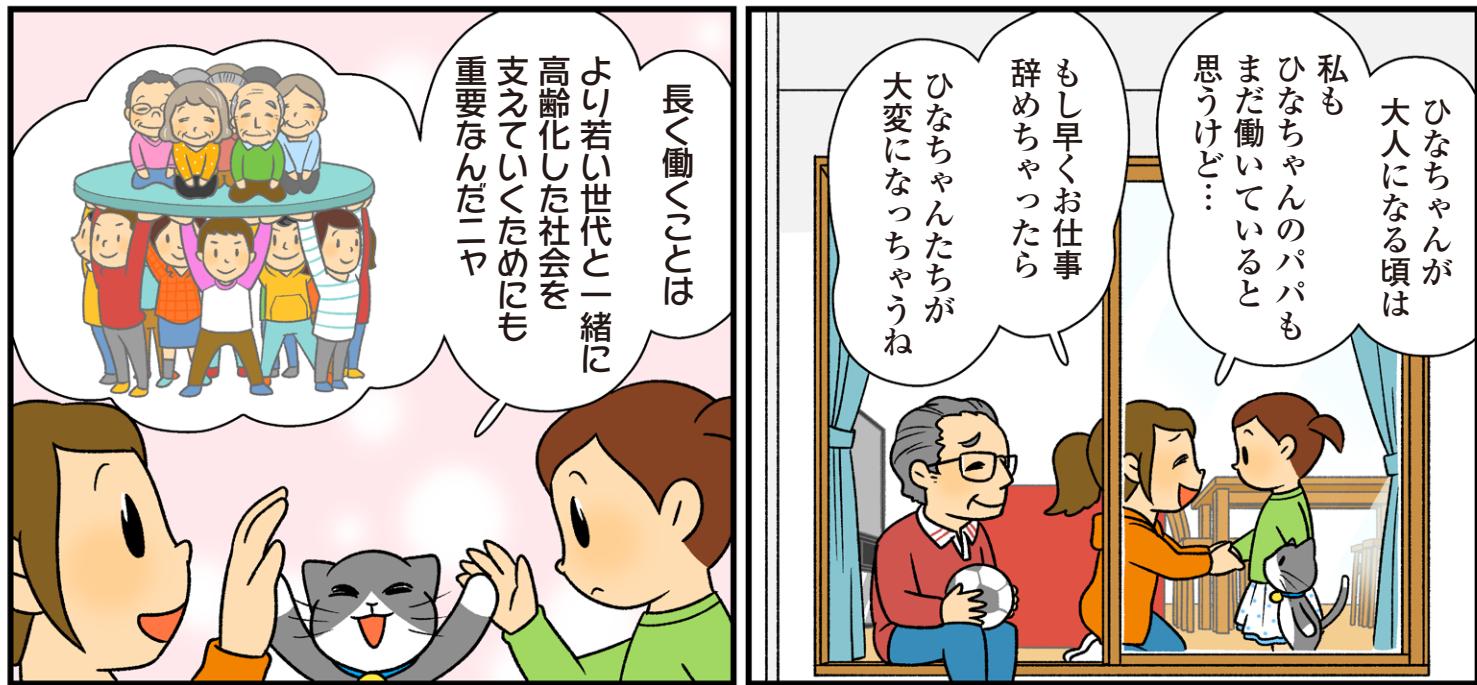


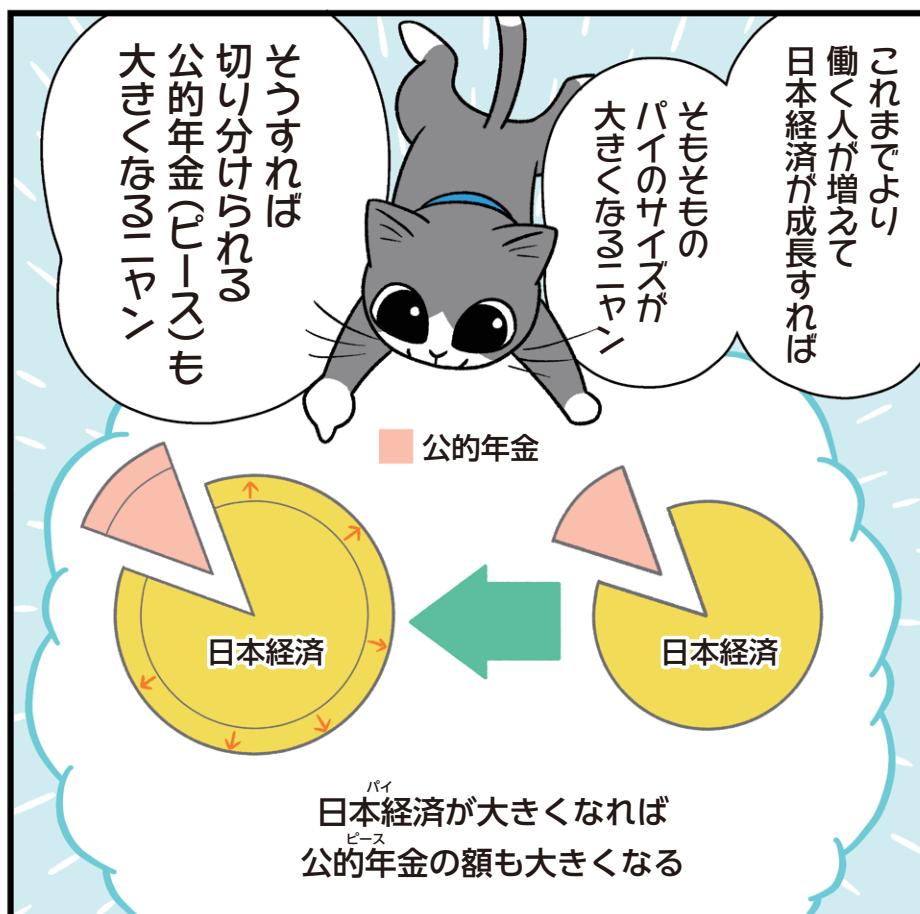
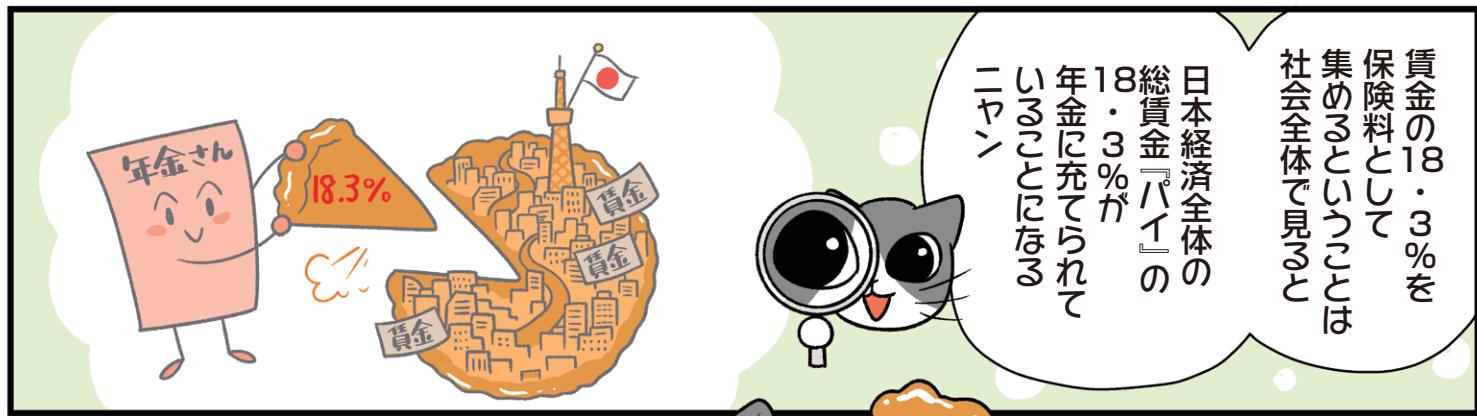
Q.11

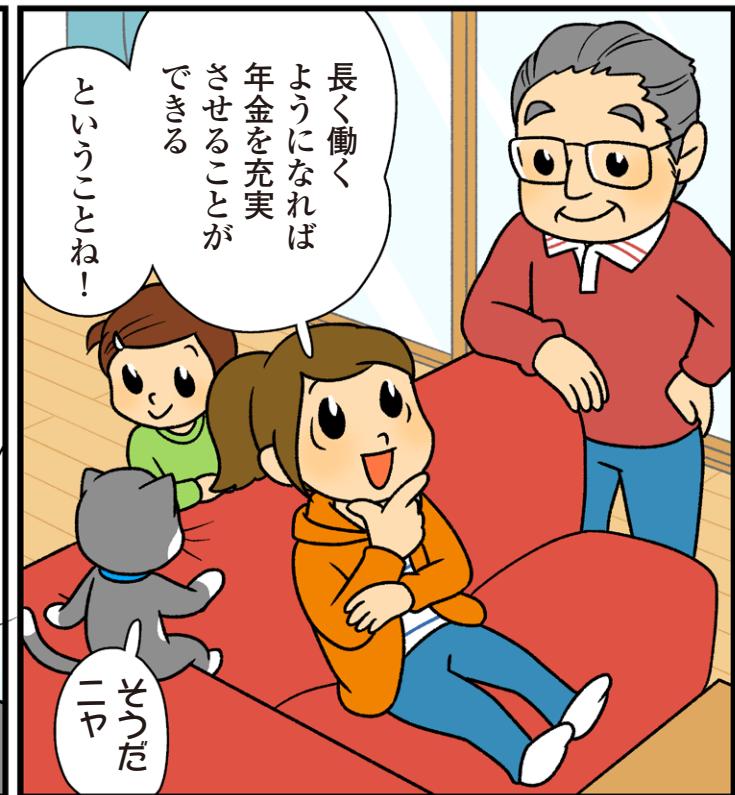
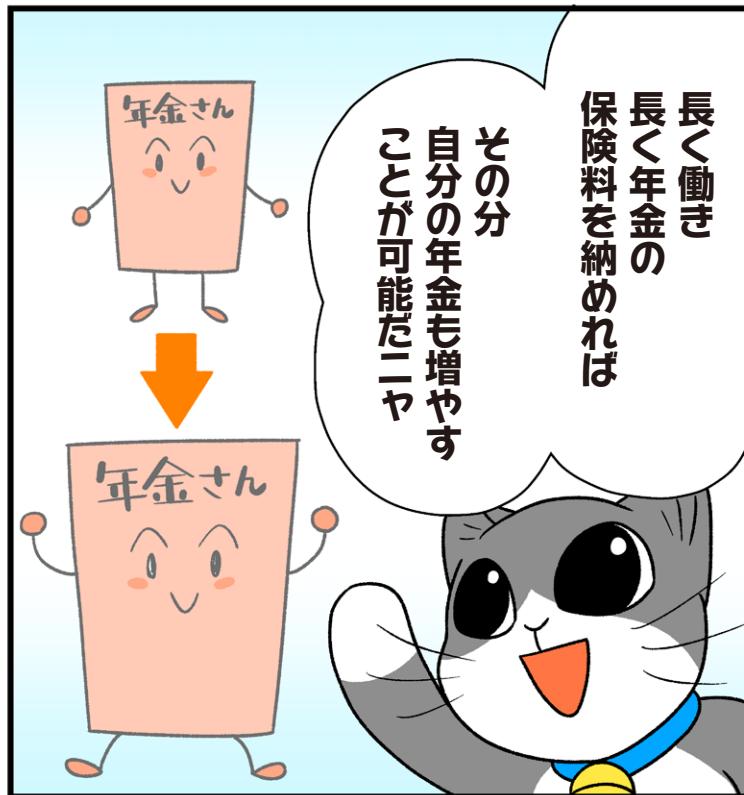
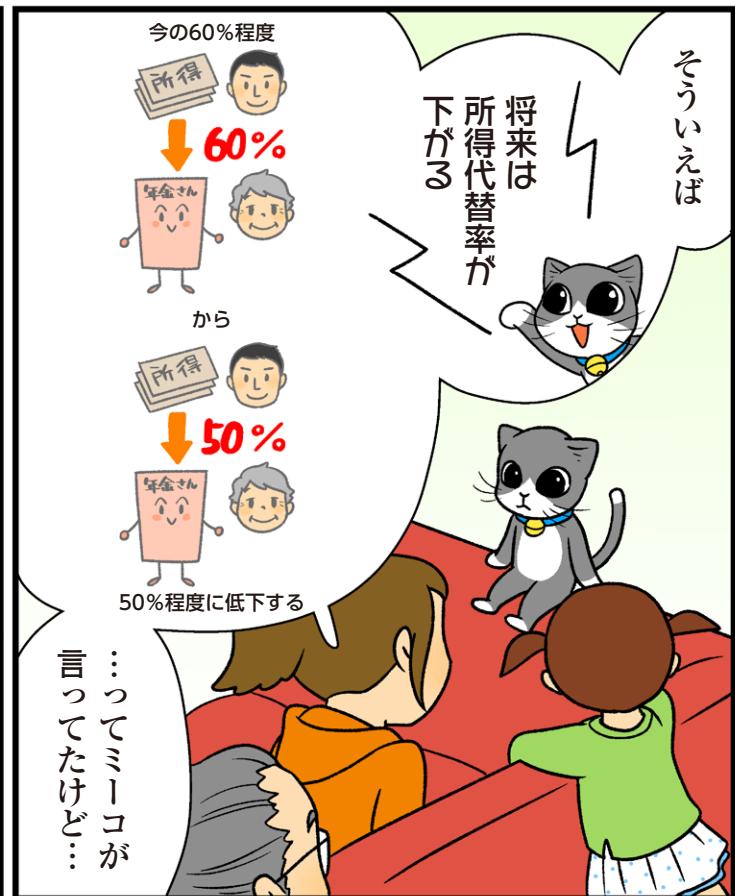
年金制度を支えるために、現役世代はもっと働かなきゃいけないの？

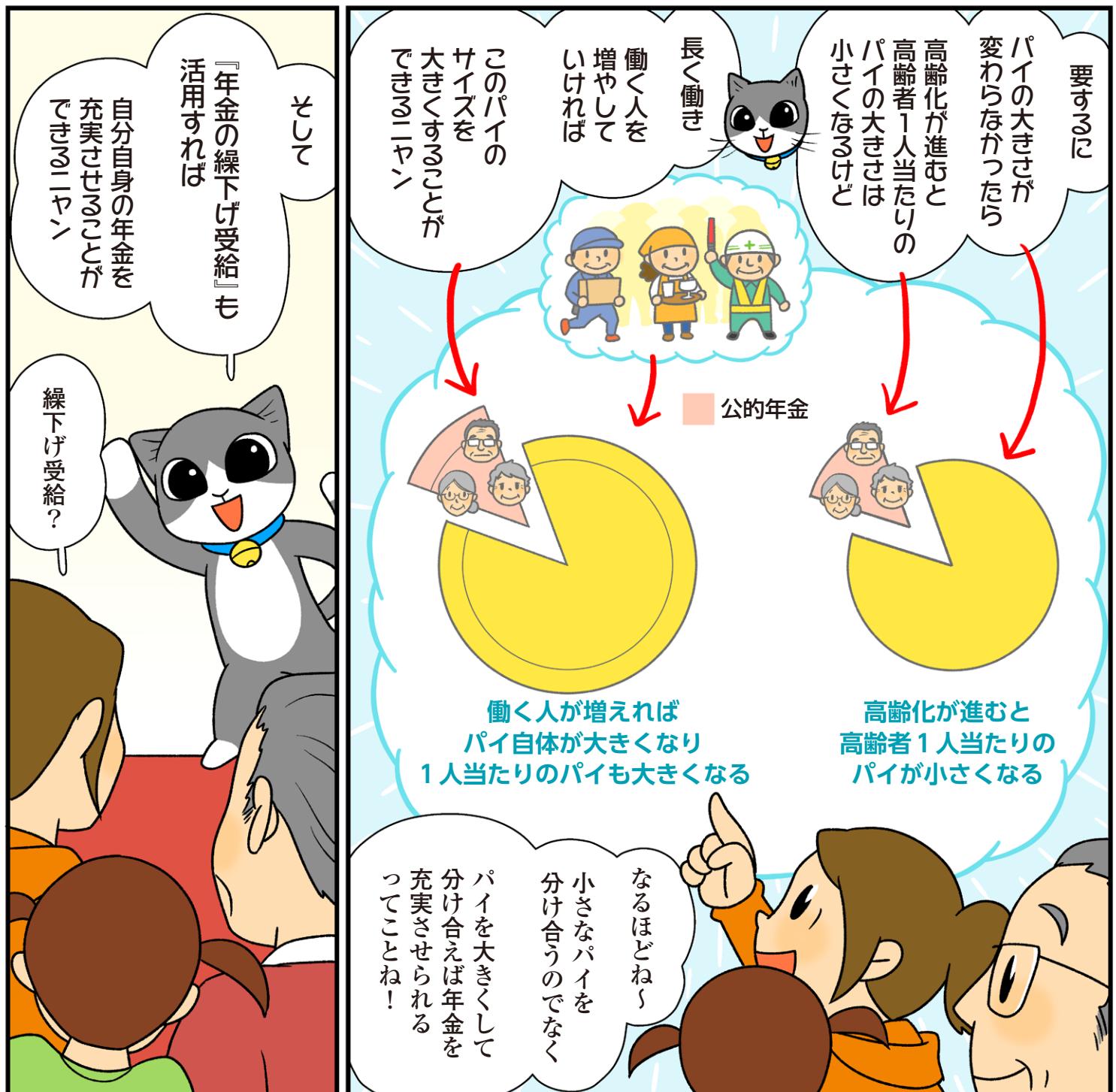
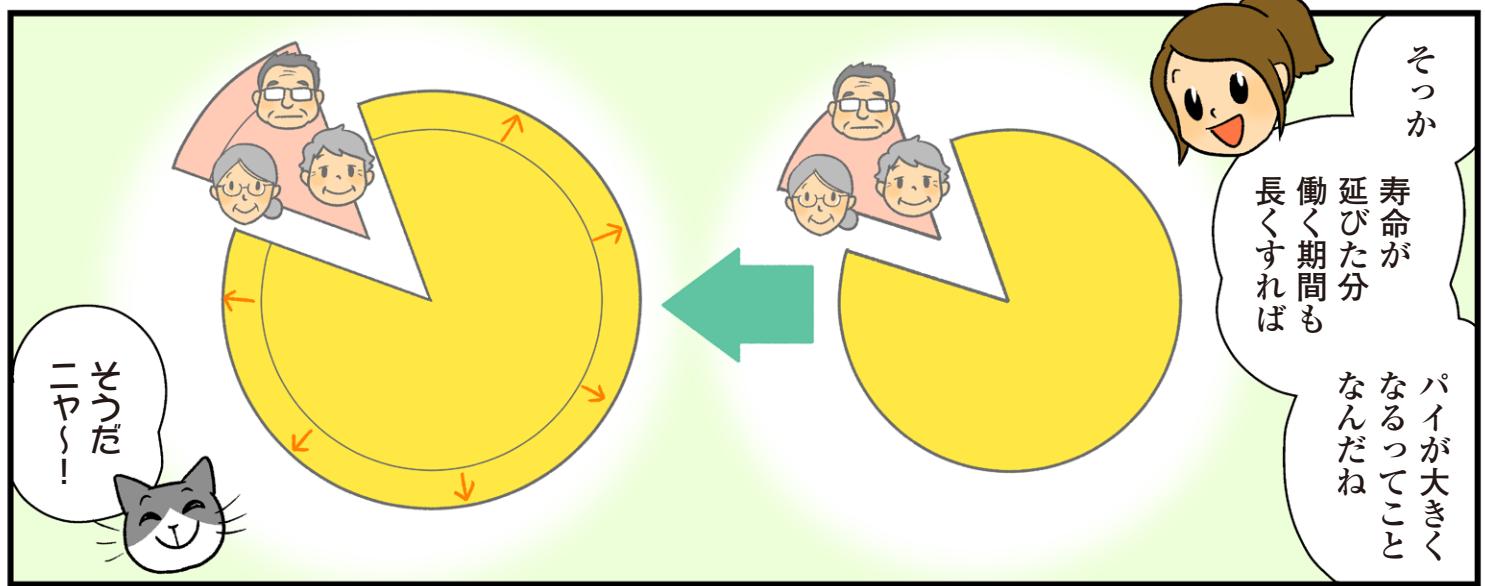














- 年金の受給開始年齢は原則65歳だが、最大75歳（2021年度までは70歳）まで繰り下げることもできる
- 65歳に達した月から1ヶ月繰り下げるごとに、受給額が0.7%ずつ増額
- 75歳まで繰り下げる場合、受給額は最大で84%の増額



A.11

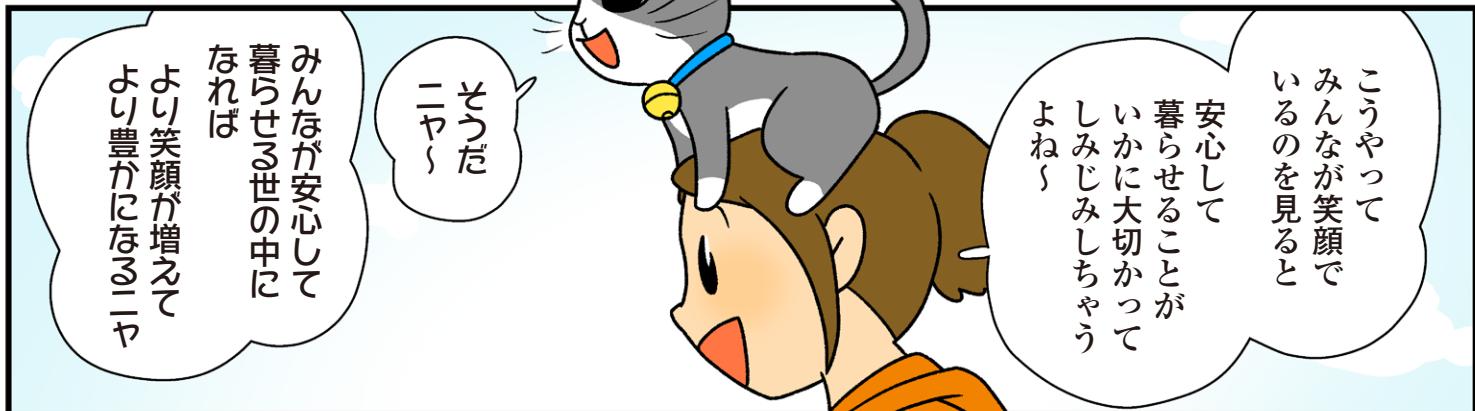
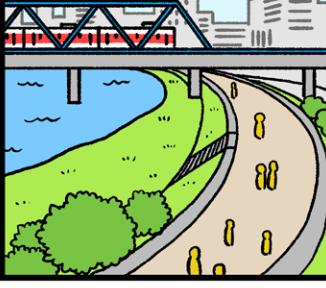
寿命が伸びるなか、より多くの人が長く働ける社会を作れば、将来の自分たちの年金を充実させることができる。

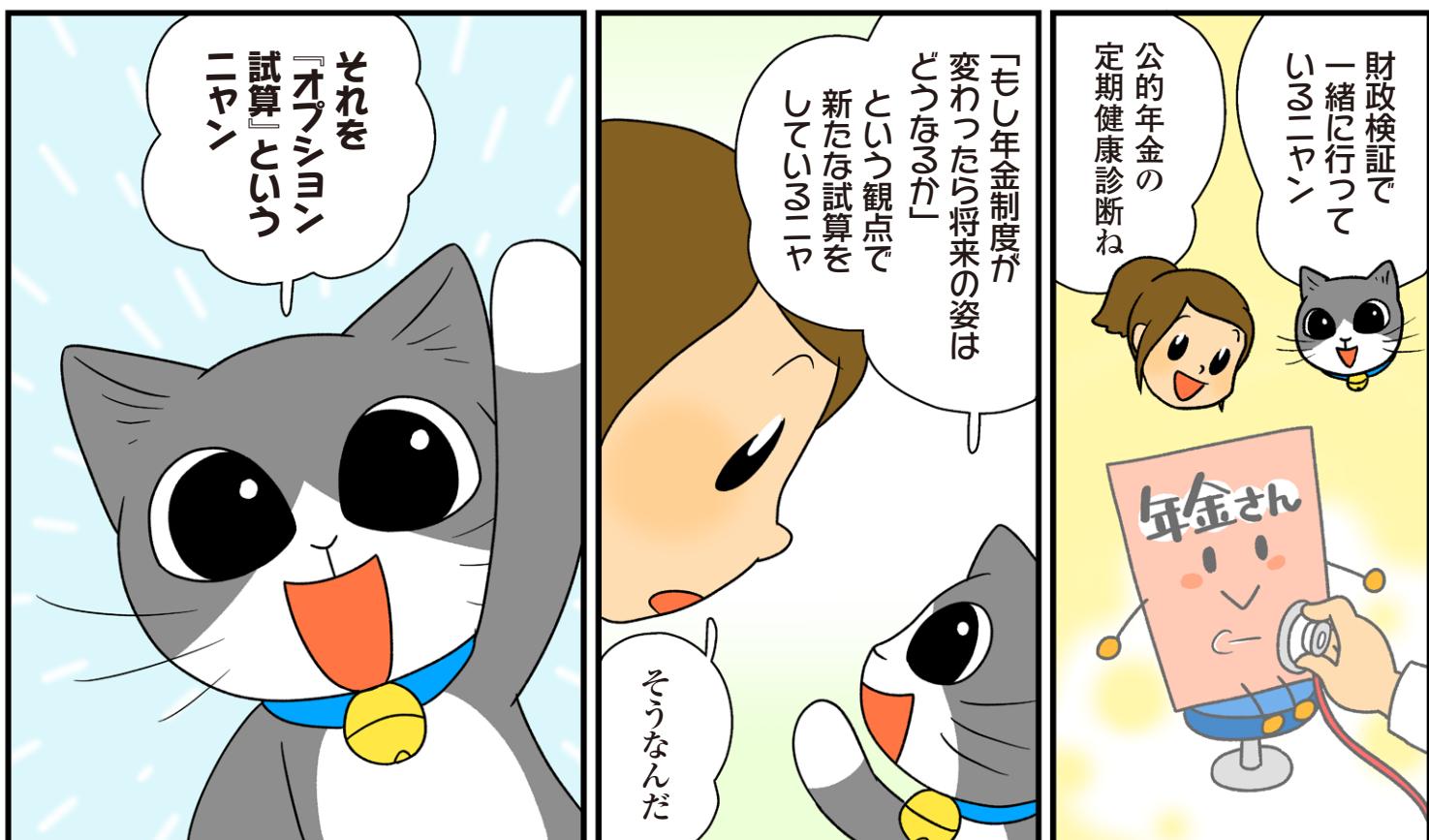
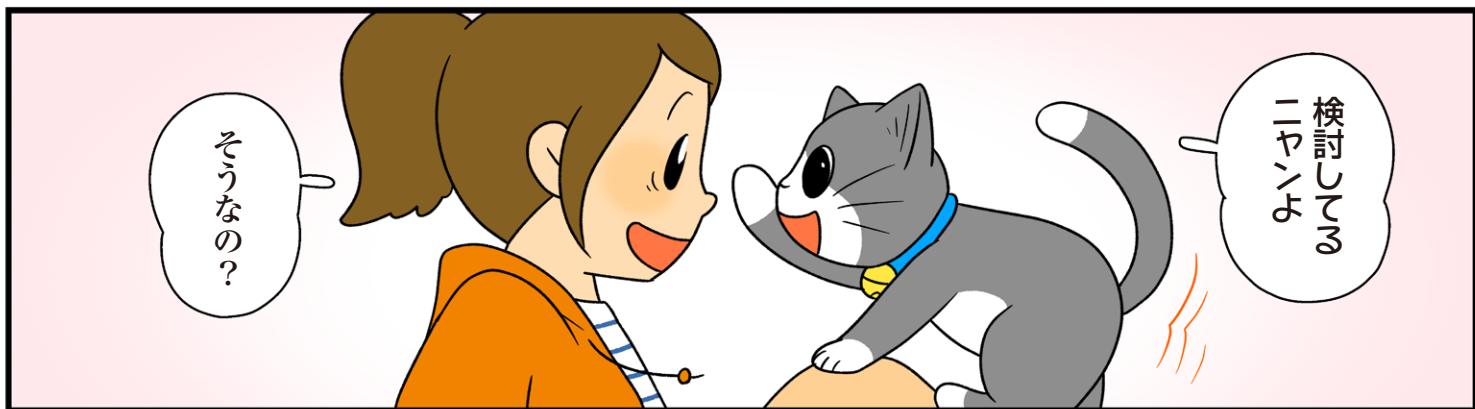
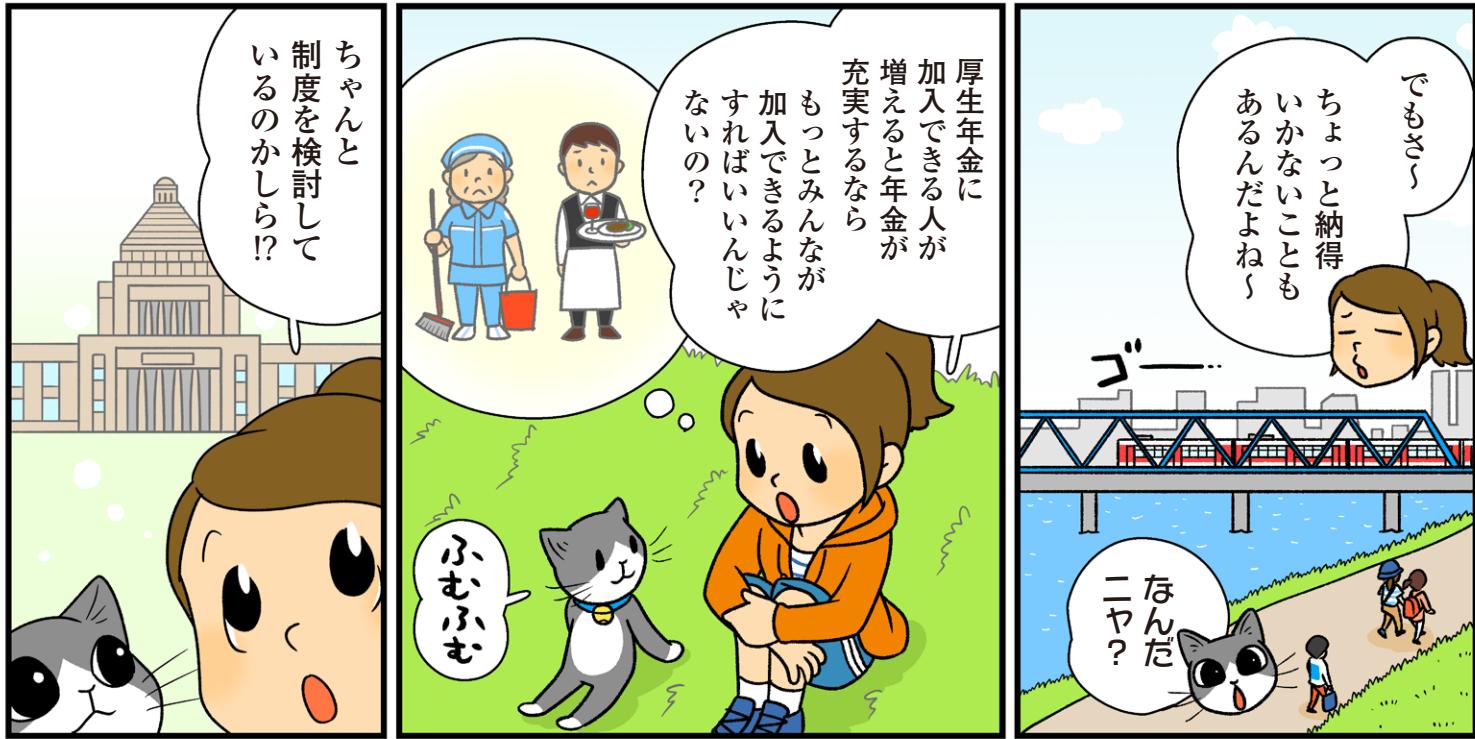




Q.12

年金制度はいまの仕組みのままでいいの？





2019年の
財政検証の結果を
見てみるニヤ～

2019年財政検証のオプション試算では
寿命が伸び、長く多様に働く社会の変化を踏まえ
年金制度の見直す観点から、以下の2つについて
現行制度を変えた場合の試算を実施

- 被用者保険のさらなる適用拡大
- 保険料拠出期間の延長と
受給開始時期の選択

例えば

被用者保険の
さらなる
適用拡大って？



その人だけじゃなくて
みんなの年金が
底上げされるんだね

厚生年金の
加入者が増えると

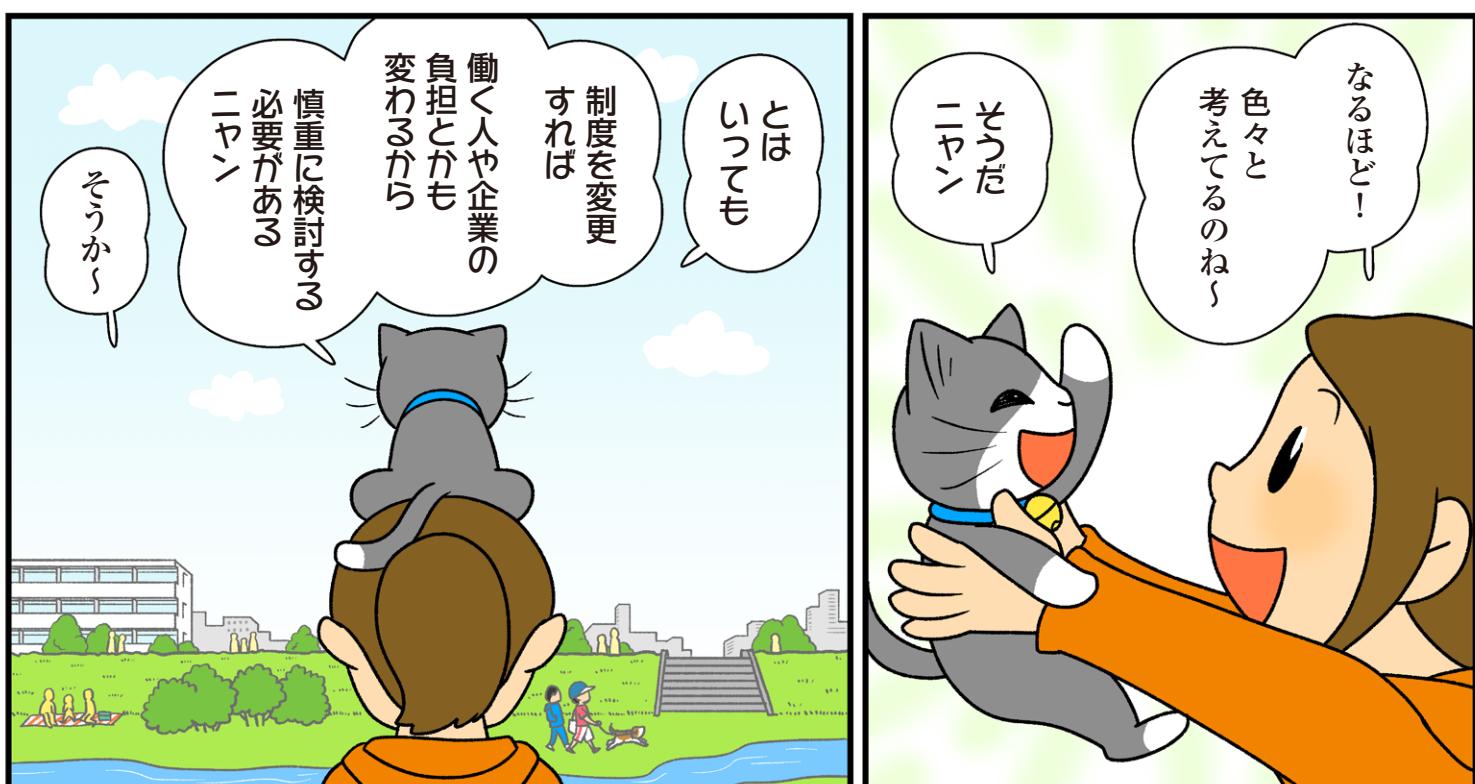
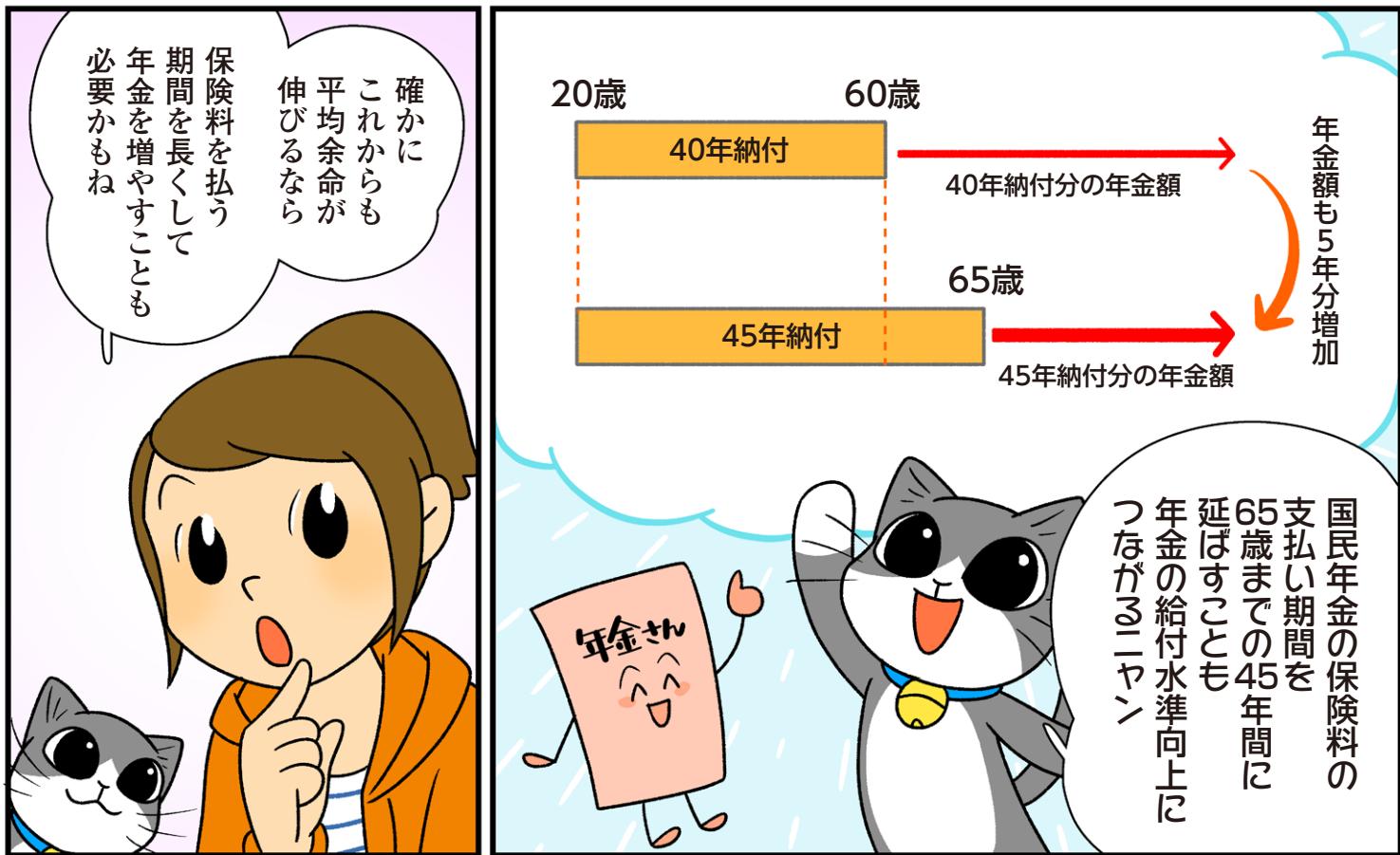
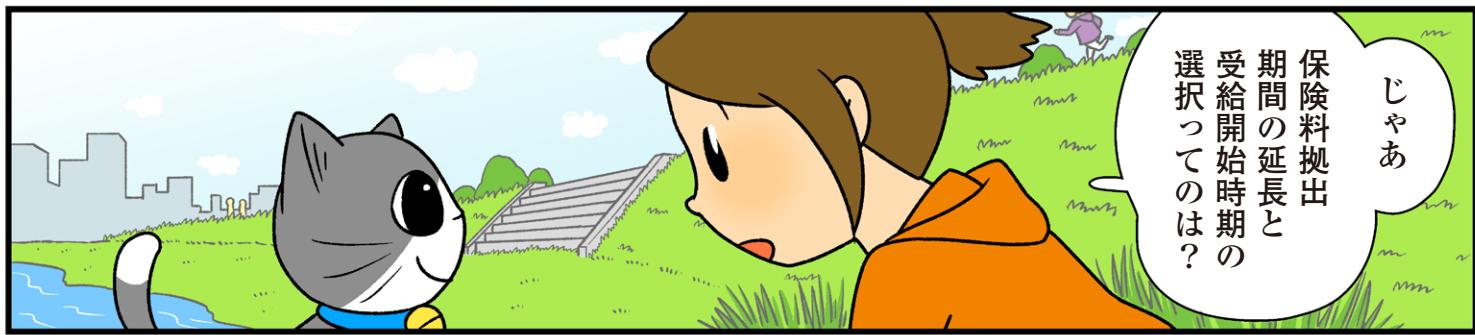
厚生年金加入対象者の
範囲が広がれば
年金の給付水準が
上がることが
分かったニヤ～

など…

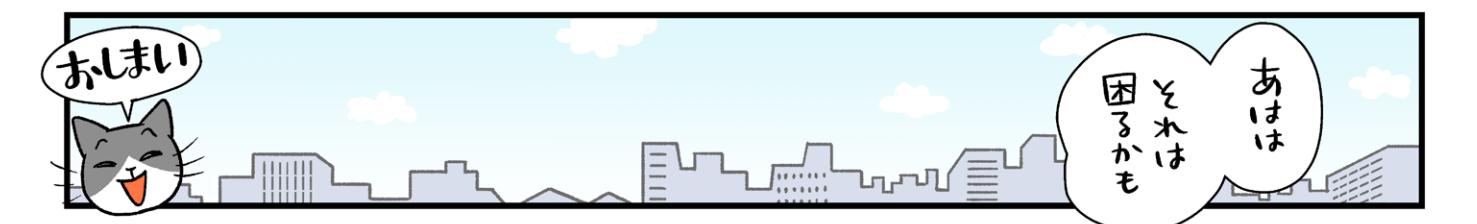
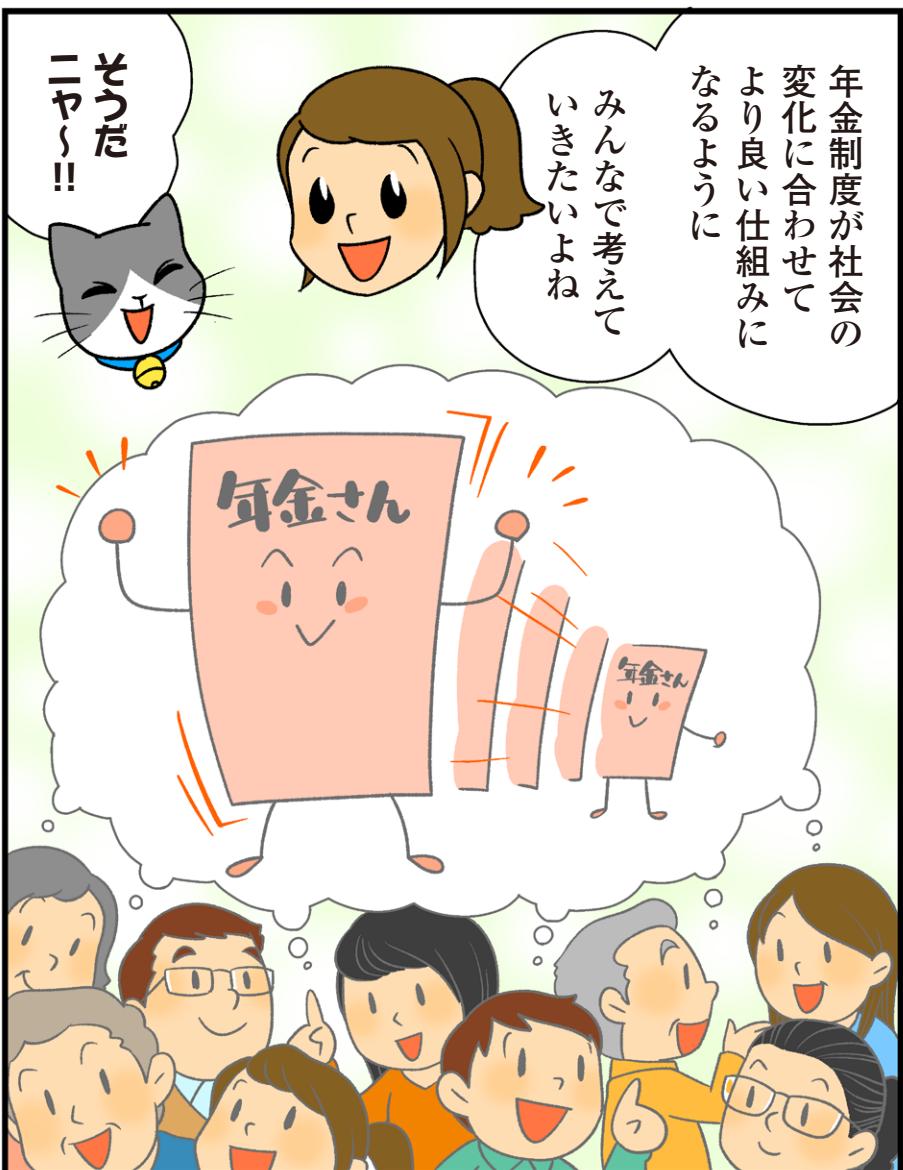
短時間で働く人が
もつと厚生年金に加入する

へえ～





年金制度が社会の変化に合わせてより良い仕組みになるように



A.12

これからも社会が変化していくなかで、より良いものにするためにも、年金制度に（これからの見直しにも）関心を持ってみんなで考えていこう。

